

講義科目名称： 臨床理学療法学特別研究

授業コード： M4040 M5042

英文科目名称： Thesis of Clinical Physical Therapy

対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	鈴木 学 (発達科学)		

授業形態	演習		担当者
授業計画	第1-6回	研究計画の立案 (中 徹 (発達科学)・木村 朗 (生体機能・身体活動学)) 先行文献の通読と計画の検討	
	第7-13回	予備実験 (中 徹 (発達科学)・木村 朗 (生体機能・身体活動学)) 予備実験を経て、計画の修正・確認を行なう	
	第14-20回	本実験1 (中 徹 (発達科学)・木村 朗 (生体機能・身体活動学)) 実験を開始し、データを得る	
	第21-26回	本実験2 (中 徹 (発達科学)・木村 朗 (生体機能・身体活動学)) データ収集の残りデータ解析	
	第27-30回	修論作成 (中 徹 (発達科学)・木村 朗 (生体機能・身体活動学)) データ結果を論文の形でまとめる	
科目の目的	理学療法の臨床的場面における仮説をうちたて、仮説を先行文献検証、実験計画立案、実験実行、データ解析と解釈、論文化という科学的手続きによって検証する手続きを経験することを目的とする  ディプロマ・ポリシー1・2に対応		
到達目標	①臨床仮説を考えることができる ②選考文献により仮説の位置を理解し確定できる ③仮説を証明する研究計画を立てることができる ④実際に実験を遂行することができる ⑤臨床データを解析し結果を意味づけることができる ⑥結果から臨床的な提言を導き出すことができる ⑦倫理的手続きが実行できる		
成績評価方法・基準	先行文献研究20%、研究計画30%、途中経過の発表50%にて評価する		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究の進度に応じるが、最低でも週当たり3時間の学習は必要で、実験に入ると週当たり5~6時間は学習が必要である		
教科書・参考書	特に指定しないが、テーマ関連の文献や成書の通読は必須とする		
オフィス・アワー	定時設定は中、木村とも火曜日18時10分から20分とするが、社会人につき、定時にて相談の結果、指導時間を決めて行う		
履修条件・履修上の注意	# 確認したロードマップに沿って研究が進められるよう、指導教員とコミュニケーションをとり、努力すること # 修士では学術上の新奇性は求められないが、仮説証明の作業過程の正しさと誠実さは求められる		

講義科目名称： 基礎・実践看護学特別研究

授業コード： M6026

英文科目名称： Fundamental and Practical Nursing Thesis Guidance 対象カリキュラム： 2021年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
今年度開講せず			

授業形態		担当者
授業計画	2023年度開講せず	
科目の目的		
到達目標		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 生体機能検査学特論

授業コード： M6057

英文科目名称： Advanced Biological Function

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
今年度開講せず			

授業形態		担当者
授業計画	2023年度開講せず	
科目の目的		
到達目標		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 生体機能検査学演習

授業コード： M6058

英文科目名称： Practice in Biological Function

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
今年度開講せず			

授業形態		担当者
授業計画	2023年度開講せず	
科目の目的		
到達目標		
成績評価方法・基準		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安		
教科書・参考書		
オフィス・アワー		
履修条件・履修上の注意		



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
亀子 光明	田村 遵一		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 社会保障制度と医療 社会保障制度の概要を理解し、医療を取りまく状況を検討する。</p> <p>第2回 医療保険制度 医療保険制度を理解し、その問題点を検討する。</p> <p>第3回 医療制度と医療制度改革 最近の医療制度改革を理解し、医療への影響を検討する。</p> <p>第4回 医療提供体制1 医療専門職の人的資源の確保</p> <p>第5回 医療提供体制2 専門職としての役割について検討する。</p> <p>第6回 診療報酬制度 1 診療報酬制度を理解し、その課題を検討する。</p> <p>第7回 診療報酬制度2</p> <p>第8回 介護保険制度 介護保険制度が医療に及ぼしている影響を検討する。</p> <p>第9回 トピックス その時の時事課題について検討する。</p> <p>第10回 病院医療の歴史 明治時代の西洋医学導入によりスタートした、我が国の病院医療はまだ歴史が浅く発展途上である。2000年の西洋文明に生まれた欧米諸国の病院医療には学ぶところが多い。</p> <p>第11回 病院医療とマンパワー 病院は医師を中心とする専門職の集合体からチーム医療を主体とする有機的組織に変化している。</p> <p>第12回 病院の経営 病院経営は、健全経営が自立の前提である。</p> <p>第13回 病院の設備 病院には、提供する医療サービスに相応しい設備・機器を整備する不断の努力が求められている。</p> <p>第14回 医療をとりまく環境 経済成長の終息と少子高齢化社会の到来により、早急に対策が必要な新たな問題が生じている。</p> <p>第15回 社会保障の理念 社会におけるセフティーネットとしての医療の必要性。</p>	<p>亀子 光明</p> <p>亀子 光明</p> <p>亀子 光明</p> <p>亀子 光明</p> <p>亀子 光明</p> <p>亀子 光明</p> <p>亀子 光明</p> <p>亀子 光明</p> <p>亀子 光明</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p> <p>田村 遵一</p>
科目の目的	<p>1. 医療制度が病院や施設等の現場に及ぼす様々な影響を理解した上での、病院運営、看護組織運営を理解できる</p> <p>2. わが国の病院医療について歴史的背景とともに、病院医療が抱える課題を考察する</p>	
到達目標	<p>1. 医療制度のおおよそを理解し、その中で病院経営の在り方、看護組織の運営の在り方について提案できる。</p> <p>2. わが国の病院医療の現状及び将来展望について理解を深める。</p>	
成績評価方法・基準	<p>【亀子】レポート (25%)、医療問題の理解度と認識度 (ディスカッション形式を予定；講義とその討論9回) (75%)</p> <p>【田村】レポート (25%)、医療問題の理解度と認識度 (ディスカッション形式を予定；講義とその討論6回) (75%)</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【亀子】事前配布資料を30分程度目を通し、内容をまとめておく。</p> <p>【田村】毎回30分程度の学習内容の振り返りをして下さい。予習は不要。</p>	
教科書・参考書	<p>【亀子】 【田村】</p> <p>教科書：使用せず、資料配布</p> <p>参考書：「日本の医療 制度と政策」島崎謙治著 東京大学出版会 「2025年へのロードマップ」武藤正樹著 医学通信社</p>	
オフィス・アワー	<p>【亀子】 講義の前後</p> <p>【田村】 講義の前後</p>	

履修条件・履修上の注意	【亀子】積極的に発言・質問をしてください。 【田村】積極的に発言・質問をしてください。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
宗宮 真	浅見 知市郎	長田 誠	

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	<p>第1回 人体の構造・機能と大学院での研究との関連について 本科目で得られる知識と各学生の研究の方向性との関連について考察する。</p> <p>第2回 神経系の構造と機能1 神経系の概観と情報伝達の仕組み</p> <p>第3回 神経系の構造と機能2 脊髄・小脳の構造と機能および病態について</p> <p>第4回 神経系の構造と機能3 基底核・視床の構造と機能および病態について</p> <p>第5回 神経系の構造と機能4 大脳の構造と機能および病態について</p> <p>第6回 循環器の構造と機能 循環器の構造と機能 特に、よくみられる病態との関連について</p> <p>第7回 呼吸器の構造と機能 呼吸器の構造と機能 特に、よくみられる病態との関連について</p> <p>第8回 身体活動と構造・機能 身体活動に関連する人体の構造と機能</p> <p>第9回 顔面筋の構造・機能 顔面筋の起始・停止・作用、臨床的意義</p> <p>第10回 遺伝子と構造・機能1 遺伝子の機能と役割</p> <p>第11回 遺伝子と構造・機能2 遺伝子検査と疾患</p> <p>第12回 運動器の構造と機能1 運動器の概観、上肢の構造と機能および病態について</p> <p>第13回 運動器の構造と機能2 下肢・脊柱の構造と機能および病態について</p> <p>第14回 日常臨床からの人体の構造・機能に関する研究課題の抽出 日常臨床での人体の構造・機能に関する研究課題について考察する。</p> <p>第15回 研究領域に関連した学術論文のプレゼンテーションおよび既出事項の確認 自らの研究領域に関連した人体の構造・機能についての研究論文をプレゼンテーションし、研究の方向性との関連について考察する。また、これまで学んだ知識の確認を行う。</p>	<p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>浅見 知市郎</p> <p>浅見 知市郎</p> <p>長田 誠</p> <p>長田 誠</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p>
科目の目的	人体の構造および機能についての知識を深め、これらの知識を臨床における病態の理解と臨床・研究の実践に生かしていく筋道を組み立てる力を養う。	
到達目標	<p>1) 基礎教育で学んだ人体の構造および機能の知識を臨床の場での実践にどのように生かしてきたかを振り返りながら、より深い知識を獲得する。</p> <p>2) これらの知識を臨床における諸現象の理解と臨床・研究の実践に生かしていく筋道を組み立てる力を高める。</p>	
成績評価方法・基準	筆記試験（第15回に行う。講義から学んだこと全般について幅広く出題する。50%）、自らの研究領域に関連した人体の構造・機能についての学術論文のプレゼンテーションとレポートに対する評価（第15回に行う。作成方法の詳細については講義内で説明する。30%）、授業中に随時行う質問への回答（各講義で随時行う。20%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で解説した重要事項について、主に復習を中心とした自己学習を行い、自ら説明できるレベルまで理解しておくこと。概ね1.5時間の授業外学習の時間を確保すること。また、自らの研究領域に関連した人体の構造・機能についての学術論文をプレゼンテーションするとともに、レポートとして提出する課題があるので、そのための準備学習が必要である。	
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：「カラー図解 人体の正常構造と機能」 坂井建雄、河原克雅（日本医事新報社）	
オフィス・アワー	各教員（宗宮 真、浅見 知市郎、長田 誠）が、講義終了後に対応する。質問の内容により、各教員が別に時間を設定する。	
履修条件・履修上の注意	特にない。	



講義科目名称： 加齢医学特論

授業コード： M6004

英文科目名称： Aging Science and Anti-aging Medicine

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
栗田 昌裕	浅見 知市郎		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 加齢過程で生じる現象Ⅰ（栗田 昌裕） 人の一生の発達と加齢過程および老化の機序1 ---加齢の統御のメカニズム、など。	栗田昌裕
	第2回 加齢過程で生じる現象Ⅱ（栗田 昌裕） 人の一生の発達と加齢過程および老化の機序2 ---知能の老化と認知症、など。	栗田昌裕
	第3回 口腔の加齢医学Ⅰ（浅見 知市郎） 口腔の加齢	浅見 知市郎
	第4回 口腔の加齢医学Ⅱ（浅見 知市郎） 高齢者特有の歯科疾患	浅見 知市郎
	第5回 障害をもつ人の運動と健康（木村 朗） 障害者の身体活動に及ぼす加齢の影響	木村 朗
	第6回 加齢における健康と疾病について（木村 朗） Working ability に対する加齢の影響	木村 朗
	第7回 知的機能の発達と加齢の伴う変化（栗田 昌裕） 知能の生涯発達。流動的知能と結晶知能の違い。記憶の仕組み。エピソード記憶と意味記憶。記憶の加齢変化。人格と創造性の加齢変化。認知症。	栗田昌裕
	第8回 知的機能の健康度の維持改善改善Ⅰ（栗田 昌裕） 知的機能と情報処理機能の対応。知的機能と認知能力及び運動機能との相関。認知機能訓練および運動機能訓練による知的機能改善法とその効果。	栗田昌裕
	第9回 知的機能の健康度の維持改善Ⅱ（栗田 昌裕） 知的機能と自律機能及び感情の働きとの相関。自律機能を活用した知的機能改善法と成果。感情情緒の制御による知的機能改善法。	栗田昌裕
	第10回 知的機能の健康度の維持改善Ⅲ（栗田 昌裕） 知的機能と生活姿勢との相関。環境と習慣を活用した知的機能改善法。記憶力と創造性の維持法。	栗田昌裕
	第11回 抗加齢医学Ⅰ（栗田 昌裕） 抗加齢医学とは。抗加齢医学を理解するための老化と加齢のメカニズム。	栗田昌裕
	第12回 抗加齢医学Ⅱ（栗田 昌裕） 抗加齢医学の診断学。オプティマルヘルスとは。	栗田昌裕
	第13回 抗加齢医学Ⅲ（栗田 昌裕） 記憶と認知機能の加齢変化と抗加齢医学。	栗田昌裕
	第14回 抗加齢医学Ⅳ（栗田 昌裕） メタボリックドミノと動脈硬化の危険因子と抗加齢医学。	栗田昌裕
	第15回 抗加齢医学Ⅴ（栗田 昌裕） 新しい抗加齢の手法の紹介	栗田昌裕
科目の目的	出生から死亡に至るまでの加齢過程で生じる現象、加齢と生活の蓄積に伴って生じる生活習慣病や知的機能の変化、およびその予防や健康改善の理解・知識を、より精緻に発展させ、抗加齢医学の成果を知り、研究と臨床の実践に役立つようにする。	
到達目標	1. 加齢過程で生じる現象を理解し、臨床実践を発展させる知識を深める。2. 生活習慣病とその予防、改善について理解し、抗加齢医学を考慮する姿勢を養う。3. 加齢に伴う知的機能の変化と改善について理解し、臨床実践に役立てる発想を得る。4. 特に近年注目を浴びたり、期待されたりしている抗加齢（または抗老化）の方法の概略を学ぶ。	
成績評価方法・基準	出席状況、課題レポートを以て評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回で学んだ内容を1時間程度復習。	
教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書： 「アンチエイジング医学の基礎と臨床」（メジカルビュー社）日本抗加齢医学会 専門医・指導医認定委員会編。 「アンチエイジング医学-その理論と実践-」（診断と治療社）吉川敏一著。	
オフィス・アワー	講義の前後（いずれの講師も）。	

履修条件・履修上の注意	栗田の講義に関しては、（枚数が多いので）資料を事前配布せず、毎回の講義の場で、印刷したものを各人に渡します。
-------------	--

講義科目名称：保健医療統計学特論

授業コード：M6005

英文科目名称：Health and Medical Statistics

対象カリキュラム：2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
宮崎 有紀子	矢島 正栄		

授業形態	講義6回、演習9回		担当者
授業計画	第1回	オリエンテーション、保健医療分野における統計の活用・データの収集方法	宮崎 有紀子
	第2回	代表値とばらつき	宮崎 有紀子
	第3回	2つの変数の関係	宮崎 有紀子
	第4回	確率と分布	宮崎 有紀子
	第5回	推測統計の考え方	宮崎 有紀子
	第6回	推定と検定	宮崎 有紀子
	第7回	演習① グラフ作成等	宮崎 有紀子
	第8回	演習② データ分析等	宮崎 有紀子
	第9回	演習・文献検索と抄読①	矢島 正栄
	第10回	演習・文献検索と抄読②	矢島 正栄
	第11回	演習・学生によるプレゼンテーション①	宮崎 有紀子
	第12回	演習・学生によるプレゼンテーション②	宮崎 有紀子
	第13回	演習・学生によるプレゼンテーション③	宮崎 有紀子
	第14回	演習・学生によるプレゼンテーション④	宮崎 有紀子
	第15回	まとめ・保健医療分野の研究と統計の概観	宮崎 有紀子
科目の目的	保健医療系分野における研究に必要な情報の収集・分析方法および統計的方法の基礎を理解する。統計的方法と研究デザイン、データ集計等について、講義および演習を通して学ぶ。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの性質と統計的方法の種類について理解できる。</li> <li>代表値とばらつきの意味と表現方法について理解できる。</li> <li>統計的推定、検定の考え方が理解できる。</li> <li>種々の統計的手法を理解し、研究過程での適用の判断ができる。</li> </ul>		
成績評価方法・基準	プレゼンテーション（70%）、提出物（30%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業に対し1時間30分程度		
教科書・参考書	教科書：資料配布 参考書：浜田知久馬「学会・論文発表のための統計学」真興交易（株）医書出版部 田栗正章ほか「やさしい統計入門」講談社ブルーバックス 佐藤俊哉「宇宙怪人しまりす医療統計を学ぶ」岩波書店		
オフィス・アワー	宮崎：授業の前後（場所 非常勤講師室） 矢島：授業の前後（場所 328研究室）		
履修条件・履修上の注意	なし		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
内藤 和美			

授業形態	講義と討論	担当者
授業計画	第1回 戦後日本社会のジェンダー構造の全体図 第2回 製造装置としての性別分業 社会的労働と家事労働の性別分業 第3回 製造装置としての性別分業 基幹労働と周辺労働の性別分業 第4回 性別分業の帰結—一次生産物としての社会資源の男性偏在 第5回 社会資源の男性偏在の帰結—女性問題：女性に対する暴力を例に 第6回 ドメスティック・バイオレンスとはどういう問題か 第7回 調査結果にみる被害実態、配偶者間DVと恋人間DV 第8回 家族内暴力被害者の保護、回復・問題解決支援 第9回 ハラスメントについて 第10回 ケアとジェンダー 第11回 ジェンダー平等社会のすがた 第12回 ジェンダー平等社会を志向する法的根拠 第13回 ワークライフバランス 第14回 家事労働のゆくえ 第15回 博士論文紹介	内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美 内藤 和美
科目の目的	基礎教育で習得した家族に関する基本的知識をもとに、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識、とくに個人・家族と社会通念・社会慣習の相互関係に関する見識を深め、患者・対象者だけでなく家族を視野に入れた適切な保健医療サービスを提供し得る力を養う	
到達目標	1. 家族、労働、ケア、暴力に係るジェンダー構造を論理的に理解し、説明することができる 2. 前項の理解を、自身の修士論文研究や業務に活用できる	
成績評価方法・基準	1. 到達目標の達成度 到達目標1. 家族、労働、ケア 暴力に係るジェンダー構造を論理的に理解し、説明することができる：課題レポートの精緻さと考察の深さ60%、授業中のディスカッション20% 到達目標2. 前項の理解を、自身の修士論文研究や業務の遂行に活用できる：授業中のディスカッション 10% 2. 授業への取組の積極性：授業への参画姿勢の観察 10%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	教材（提供する）・博士論文（提供する）、参考書の講読 1回あたり120分	
教科書・参考書	<b>【教材】</b> 見上まり子：れんげ草の庭—一つの人生で人は生き直すことができる。内田伸子、見上まり子：虐待をこえて、生きる：負の連鎖を断ち切る力. 新曜社 2010 <b>【博士論文】</b> 菅森 朝子：乳がんの経験を継承する——乳がん同病者関係に関する社会学的研究. 福島 裕子：児童養護施設の思春期女子へのリプロダクティブ・ヘルスケアモデルの開発 <b>【参考書】</b> 岩間暁子・大和礼子・田間泰子：問いからはじめる家族社会学：多様化する家族の包摂に向けて・有斐閣 2022 高橋美恵子編：ワーク・ファミリー・バランス：これからの家族と共働き社会を考える。慶応義塾大学出版会、2021 仁藤夢乃：当たり前の日常を手に入れるために：性搾取社会を生きる私たちの闘い。影書房、2022	
オフィス・アワー	講義の前後	

履修条件・履修上の注意	講義で得た知見を自身の修士論文研究や業務の遂行に活用する意思があること
-------------	-------------------------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
荒木 泰行			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 生殖医療概論 現在行われている生殖医療、とりわけ不妊症治療の国内、国外の様子を含めた広範囲の概論。</p> <p>第2回 体外受精 国内外における体外受精の概要と治療原理。</p> <p>第3回 配偶子の発生（精子） 原始生殖細胞から成熟精子完成までの発生・分化学を学ぶ。</p> <p>第4回 配偶子の発生（卵子） 原始生殖細胞から成熟卵子までの発生・分化学を学ぶ。</p> <p>第5回 内分泌（1） 精子の生殖に関する中枢一下垂体一性腺のホルモン関係を学ぶ。</p> <p>第6回 内分泌（2） 卵子の生殖に関する中枢一下垂体一性腺のホルモン関係を学ぶ。</p> <p>第7回 胚発生 受精後の分割卵の発生、着床メカニズムを学ぶ。</p> <p>第8回 凍結技術学（1） 精子に関する凍結の理論と実際を学ぶ。</p> <p>第9回 凍結技術学（2） 卵子に関する凍結の理論と実際を学ぶ。</p> <p>第10回 凍結技術学（3） 受精卵（胚）に関する凍結の理論と実際を学ぶ。</p> <p>第11回 培養技術（1） 未成熟配偶子（精子）の培養に対する概論を学ぶ。</p> <p>第12回 培養技術（2） 未成熟配偶子（卵子）の培養に対する概論を学ぶ。</p> <p>第13回 染色体異常 （精子）染色体の構造、異常、分化過程の概念を学ぶ。</p> <p>第14回 （卵子）染色体の構造、異常、分化 卵子の染色体の構造、異常、分化の概念を学ぶ。</p> <p>第15回 総合討論 全般の概念から学んだ点を整理して生殖医療の問題点と将来を展望する。</p>	<p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p>
科目の目的	<p>学部で学んだ生殖医療の概念を構築できることを目的とする。 学部で生殖技術学科を学んでこない学生も含まれると考えられるので、他学科から進学した大学院生にも理解できることを目的に生殖医学の一般論が分かることを目的とする。</p>	
到達目標	<p>体外受精を中心とした生殖補助医療の広範囲の関連学問を修得することを目標とする。</p> <p>1) 不妊治療の現状を理解する。 2) 生物学的な生殖のメカニズムを理解する。 3) 生殖補助医療に関する課題を明確にする。</p>	
成績評価方法・基準	講義参加時の積極的なDiscussionの内容にて評価する（100%）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	常に予習復習の姿勢で、次回学ぶべきところを精査して1～2時間勉強することを期待する。各々学んだテーマについて討論する場合、積極的な発言をできるように準備をして講義に臨んでほしい。	
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：「生殖補助医療テキスト」 著 荒木康久	
オフィス・アワー	月～金の午前午後の時間帯で教員室に滞在している時間なら何時でも対応可能ですが、事前に連絡下さい（y-araki@paz.ac.jp）。	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 教育学

授業コード： M6008

英文科目名称： Education

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
高山 有紀			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 はじめに 「教育学」を学ぶ目的 「教育」とは何なのか、履修者個々の教育観を見つめ直し、大学院で教育学を学ぶ意味を確認する。授業のすすめ方についてガイダンスを行う。	高山有紀
	第2回 教育学の対象 子どもとは、人間とは 世界および日本の歴史のなかで、子どもがどのように捉えられてきたのかを学ぶ。人の育ちについて共通の認識を得た上で、働く子どもから学ぶ子どもへの「子ども観」の変遷を確認する。	高山有紀
	第3回 教育研究のあゆみ (1) 教育制度 主として日本の家庭で行われた教育から教育機関で行われる教育への転換を通し、教育の社会的意義について考える。	高山有紀
	第4回 教育研究のあゆみ (2) 理念と思想 新教育運動と近代的な教育理念・実践の事例を取り上げ、よい教育とはどのような営みなのか、をともに考える。	高山有紀
	第5回 教育研究のあゆみ (3) 社会構造 学校はどのような社会的役割を果たすべきなのか、地域社会はどのような教育役割を果たしていける可能性があるのか。教育と社会的環境について考える。	高山有紀
	第6回 教育政策と教育学 学校教育、社会教育、家庭教育に関わる近年の教育政策を取り上げ、現代的な教育課題を整理する。	高山有紀
	第7回 資料講読 (1) 歴史、思想、哲学 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第8回 資料講読 (2) 教育政策、教育制度 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第9回 資料講読 (3) 教育方法、教育実践 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第10回 資料講読 (4) 教師、教育者、専門職 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第11回 資料講読 (5) 現代的教育課題 (IT教育、STEM教育) 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第12回 資料講読 (6) 現代的教育課題 (「学びからの逃走」) 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第13回 資料講読 (7) 現代的教育課題 (教育支援、教育環境) 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第14回 資料講読 (8) 現代的教育課題 (多職種連携) 担当者が提示する資料の中から履修者の関心の高い資料を選び、共に読み意見交換を行う。	高山有紀
	第15回 おわりに 今後の実践課題を考える 本講の総括を行う。その上で履修者それぞれがどのような実践課題を持ったのか、について整理する。	高山有紀
科目の目的	教育に関わる様々な課題や問題点について知った上で、人々がよりよい「生」を求める営みを如何に支援するのか、について共に考える。	

到達目標	教育の課題や問題点について、その背景を含めて構造的に理解する。対人援助者として、自分なりの支援のあり方について見識を持つ。
成績評価方法・基準	最終テストまたはレポート（50%）、授業への参加度合い、授業内で求めるリアクションペーパーや課題の提出（50%）を総合して行う。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義各時間あたり2時間の予習復習の学習が必要となる。あらかじめ配布した資料の下読みや下調べを行い、授業後はリアクションペーパーや課題を提出する。
教科書・参考書	教科書は使用しない。参考書は適宜提示する。
オフィス・アワー	講義の前後
履修条件・履修上の注意	特になし



講義科目名称： 応用英語

授業コード： M6009

英文科目名称： Applied English

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
杉田 雅子	David Andrews		

授業形態	杉田：8回 講義中心だが、一部演習も含む      Andrews：7回 講義と演習		担当者
授業計画	第1回	文献精読 Changes in Sleep Patterns in COPDについての文献を読む。副詞節、動名詞の用法を学ぶ。	杉田
	第2回	文献精読 Confusionについての文献を読む。itの用法、理由原因を表す接続詞を学ぶ。	杉田
	第3回	文献精読 A Battered-Child Syndromeについての文献を読む。過去完了、appear、seemの文型を学ぶ。	杉田
	第4回	文献精読 Communicating with Infantsについての文献を読む。報告動詞、無生物主語の文型を学ぶ。	杉田
	第5回	文献精読 The Unique Function of Nursingについての文献を読む。否定表現、asの用法を学ぶ。	杉田
	第6回	文献精読 How to Read Abstracts #1 を読んで、英語のabstractの読み方、書き方を学ぶ。	杉田
	第7回	文献精読 How to Read Abstracts #2を読んで、英語のabstractの読み方、書き方を学ぶ。	杉田
	第8回	文献精読 受講者各自の分野のabstractをを読んで、内容を要約し、発表する。	杉田
	第9回	プレゼンテーション 良いプレゼンテーションとは何かを学ぶ。	Andrews
	第10回	プレゼンテーション 効果的な視覚資料の作成の仕方を学ぶ。	Andrews
	第11回	プレゼンテーション 受講者各自の分野の文献をを読んで、内容を要約し、発表する。	Andrews
	第12回	プレゼンテーション 受講者各自の分野の文献をを読んで、内容を要約し、発表する。	Andrews
	第13回	プレゼンテーション 受講者各自の分野の文献をを読んで、内容を要約し、発表する。	Andrews
	第14回	プレゼンテーション 受講者各自の分野の文献をを読んで、内容を要約し、発表する。	Andrews
	第15回	プレゼンテーション 受講者各自の分野の文献をを読んで、内容を要約し、発表する。	Andrews
科目の目的	研究に必要な情報・知識を得るための英文読解力と、各自の研究分野の論文の要旨をつかむ読解力の養成。 学会発表時等で必要なプレゼンテーションの方法を学び、パブリックスピーキングスキルを身につける。		
到達目標	1) 基礎的英文法を確認しながら構文を分析し、英語文献を正しく読み取ることができる 2) 読み取った内容から論旨を把握し、要約することができる 3) 良いプレゼンテーションの構成要素を理解し、効果的な視覚資料を作成することができるようになる 4) パブリックスピーキングに慣れ、英語でプレゼンテーションができるようになる		
成績評価方法・基準	授業での発表(100%)		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	わからない単語は調べ、構文を確かめながら英文を読んで大意をつかんでおく。わからない部分がどのようにわからないのかを明確にしておく。約90分間		
教科書・参考書	参考書：「看護英語読解15のポイント」園城寺康子他 (Medical View)		
オフィス・アワー	杉田：授業の前後 (教室) アンドリュース：授業の前後 (教室)		
履修条件・履修上	特になし。		



講義科目名称： 研究方法特論

授業コード： M6010

英文科目名称： Advanced Methodology in Health Care Research

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員	担当者		
藤田 清貴	藤田・木村朗	齋藤基・石井	長田・倉石
	大濱・木村博		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 研究の道義的責任と倫理	藤田 清貴
	第2回 医療系大学院における研究の意義	木村 朗
	第3回 看護学領域における研究の意義と方法論	齋藤 基
	第4回 病因・病態検査学領域にける研究の意義と方法論	長田 誠
	第5回 放射線学領域にける研究の意義と方法論	倉石 政彦
	第6回 臨床工学領域にける研究の意義と方法論	大濱 和也
	第7回 公衆衛生学領域における研究の意義と方法論	木村 博一
	第8回 リハビリテーション学領域における研究の意義と方法論	石井 良和
科目の目的	保健科学研究の意義、および研究を遂行する上で習得すべき基本的な事項を学修する。	
到達目標	研究を行う意義を説明できる。 保健科学研究の歴史について説明できる。 研究倫理について説明できる。 各領域における研究の概要と特質について説明できる。	
成績評価方法・基準	レポートによる評価（100%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習を中心に90分程度振り返り、整理する	
教科書・参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の講義終了後に対応する。	
履修条件・履修上の注意	必要事項があれば事前に連絡する	

講義科目名称： 研究方法論 I

授業コード： M6011

英文科目名称： Methodology in Health Care Research I

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
矢島 正栄	小林 亜由美		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 看護研究の意義と特質1	矢島
	第2回 看護研究の意義と特質2	矢島
	第3回 質的研究の展開方法	矢島
	第4回 看護学研究における倫理	矢島
	第5回 量的研究の展開方法1	小林
	第6回 量的研究の展開方法2	小林
	第7回 文献クリティーク1	小林、矢島
	第8回 文献クリティーク2	小林、矢島
科目の目的	看護学領域における課題とその探求方法、看護学研究の遂行に必要な基本的知識、技術を学ぶ。	
到達目標	1. 看護学研究の意義と特質を説明できる。 2. 看護学研究における着想から研究成果の公表までのプロセスと、研究成果を社会に還元する方法を説明できる。 3. 看護学研究で用いられる研究手法の特徴と具体的な展開方法を説明できる。	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	配付資料、関連する文献を読んで参加してください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。	
教科書・参考書	特に定めない	
オフィス・アワー	講義の前後	
履修条件・履修上の注意	なし	

講義科目名称： 研究方法論Ⅱ

授業コード： M6012

英文科目名称： Methodology in Health Care Research II

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
石井 良和	佐藤 満		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 理学療法領域の研究手法と研究デザインの変遷	佐藤 満
	第2回 運動学・運動解析学領域の研究手法と基礎的な研究デザイン	佐藤 満
	第3回 運動学・運動解析学領域の研究手法と応用的な研究デザイン	佐藤 満
	第4回 臨床的アウトカム分析の研究手法と研究デザイン	佐藤 満
	第5回 作業療法領域における研究手法と研究デザインの変遷	石井良和
	第6回 作業療法領域における量的研究の特徴	石井良和
	第7回 作業療法領域における質的研究の特徴	石井良和
	第8回 作業療法領域における混合研究手法	石井良和
科目の目的	健康課題における理学療法・作業療法を介する研究に用いられる研究法として実験研究および質的研究の種類を列挙し、俯瞰できるようになること。	
到達目標	1. 学生は保健学、理学療法分野、作業療法分野の研究手法の種類が説明出来るようになる。 2. 学生は理学療法学・作業療法学領域で頻度の高い研究手法について科学的根拠を示しうるデザインとは何かを説明出来るようになる。 3. 学生は研究課題の特性要因を説明できるようになる。	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	テーマに関する内容に関する専門用語、概念について予め調べておくこと。 60分。	
教科書・参考書	指定せず	
オフィス・アワー	各担当教員の講義後の時間帯（佐藤：mit-sato@paz.ac.jp），（石井 良和：y-ishii@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 研究方法論Ⅲ

授業コード： M6013

英文科目名称： Methodology in Health Care Research III

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
藤田 清貴	長田・亀子	松下・高橋克	岡山・林
	木村鮎		

授業形態	講義 オムニバス形式		担当者
授業計画	第1回	イントロダクション、免疫学分野の研究論文から学ぶ研究方法論	藤田 清貴
	第2回	血液学分野の研究論文から学ぶ研究方法論	林 由里子
	第3回	臨床化学分野の研究論文から学ぶ研究方法論	松下 誠
	第4回	遺伝子検査学分野の研究論文から学ぶ研究方法論	長田 誠
	第5回	細胞・組織検査学分野の研究論文から学ぶ研究方法論	岡山 香里
	第6回	培養細胞を解析手法に用いた研究論文から学ぶ研究方法論	高橋 克典
	第7回	生体情報分野の研究論文から学ぶ研究方法論	亀子 光明
	第8回	生体分子・タンパク質解析分野の研究論文から学ぶ研究方法論	木村 鮎子
科目の目的	病因・病態検査学領域で研究を遂行するものに必要な知識、態度、技術、科学的根拠に基づく分析能力を獲得するために、各検査学分野における科学的研究の種類と特徴、問題解決のための研究方法を探求する。		
到達目標	各病因・病態検査学領域における研究方法の特徴および研究の進め方を理解し説明できる。		
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと課題提出状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1～2時間予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書・参考書	教科書：特になし。 参考書：特になし。 必要に応じて資料を配布する。		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の講義終了後に対応する。		
履修条件・履修上の注意	修士課程1年生で、研究を開始する前に受講することが望ましい。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
倉石 政彦	加藤 英樹		

授業形態	講義と演習（輪読形式）8回（8回とも、倉石、加藤が担当する）		担当者
授業計画	第1回	研究方法論概論 ・診療放射線学研究とは ・「診療放射線技師の機能と役割」を研究テーマにするために ・放射線学研究における研究計画と研究スタイル	倉石・加藤
	第2回	放射線学研究における研究計画 ・研究デザインの選択 ・放射線学研究における研究計画の立案	倉石・加藤
	第3回	放射線学研究における先行研究と文献レビュー ・先行研究 ・文献検索の方法と整理 ・研究の目的	倉石・加藤
	第4回	放射線学研究における研究公正と研究倫理 ・診療放射線学研究における研究公正 ・研究倫理と審査 ・研究倫理審査の申請と意義 《レポート課題：受講者の研究テーマにおける研究デザインと研究倫理への配慮》	倉石・加藤
	第5回	放射線学研究における調査研究法 ・研究計画 ・実験計画、調査計画 ・研究結果の解析と評価	倉石・加藤
	第6回	放射線学研究における調査研究法 ・質的研究 ・質問紙調査、インタビュー調査、フィールドワーク ・質的研究の方法と評価 《第4回授業で課したレポートのフィードバック》	倉石・加藤
	第7回	放射線学研究における成果の整理 ・統計学的検定 ・結果の可視化（表・グラフ・その他） ・考察と結語	倉石・加藤
	第8回	放射線学研究における研究の公開 ・学会発表とプレゼンテーション ・論文執筆と論文投稿	倉石・加藤
科目の目的	放射線学研究の特質、意義を理解するために、放射線学研究の歴史的経緯、主要研究テーマ、研究方法など必要な基本的な知識、技術を学ぶ。また、従来の診療放射線学研究では、業務内容によって放射線画像検査、放射線治療の2分野に区分することが一般的であるが、本学研究科では、診療放射線技師の「機能と役割」に焦点をあて、診療放射線学の研究領域を捉える。本科目では、研究の意義、研究公正などの基本的姿勢から、研究計画の立案から実行、（先行研究レビュー、研究デザインの選択、調査・実験等の実観、結果の解釈、考察）、評価の一連の流れを理解することを目的とする。本科目の学修を通して、ディプロマポリシーに示す「保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力」を涵養する。		
到達目標	1 診療放射線技師の「機能と役割」の視点での放射線学研究の意義と研究公正が説明できる。 2 放射線学における研究テーマの立案、提示、研究計画の作成の意義が説明できる。 3 研究デザインの選択、研究方法と解析、評価の意義が説明できる。		
成績評価方法・基準	授業内試験（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 90分、事後学習 90分		
教科書・参考書	教科書：ヘルスリサーチの方法論〔改訂版〕：研究実践のための基本ガイド 放送大学教育振興会 2019 参考書1：コ・メディカルのための研究ガイド 下瀬川正幸監修 日本放射線技師会出版会 2009		

オフィス・アワー	<p>授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。面談を希望する場合は、予め担当教員（倉石・加藤）にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。</p> <p>倉石政彦：kuraishi@paz.ac.jp          加藤英樹：h-katou@paz.ac.jp</p>
履修条件・履修上の注意	放射線学領域の学生は、必修科目（研究方法特論）と連動して、この科目を履修する必要があります。



講義科目名称： 研究方法論V

授業コード： M6015

英文科目名称： Methodology in Health Care Research V

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
大瀧 和也	花田 三四郎	松岡 雄一郎	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 研究方法論Vのオリエンテーション	大瀧 和也
	第2回 研究理論の構築	花田 三四郎
	第3回 研究テーマの設定と研究方法の決定	松岡 雄一郎
	第4回 研究結果の分析、討論、結論	大瀧 和也
	第5回 医療機器の開発と研究	松岡 雄一郎
	第6回 実験システムの構築、装置の作成、予備実験と本実験	花田 三四郎
	第7回 データ整理、分析、解析および実験結果の検討	大瀧 和也
	第8回 まとめ：研究の客観性、信頼性、妥当性の確認	大瀧 和也
科目の目的	臨床工学領域における研究は、一般的な流れであるテーマの設定（研究目的）、理論の構築、方法の決定（実験、調査、観察）、結果分析、検討、結論の一貫した過程を取る。その中でもとりわけ医療機器の開発に関する研究が多く、以下のような手順による実験を伴う。本科目では過去に発表された文献を教材にその手順遂行時に必要となるさまざまな知識と技術について学ぶ。《手順》 1) 実験装置の製作あるいはシステムの構築（これ自体が研究目的の場合もある）、2) 予備実験による方法の客観性、信頼性、妥当性の確認、3) 本実験、4) データの整理・分析・解析、5) 実験結果の検討（解明できたこと、できなかったこと）、以上の手順を繰り返すことにより結論を導き出す。	
到達目標	生体医工学に関する特別研究を進めるために高い専門性と最新の研究に基づく知識・理解力・討論のためのコミュニケーション能力、専門的技術力が必要である。そのため論文抄読会や特別研究に必要な装置の操作習熟プログラム作成などを進める。これにより、高い専門知識を身につけるとともに、理解力、コミュニケーション能力および専門技術力をもち、この分野における指導的役割を果たすことを目標とする。	
成績評価方法・基準	レポート(60%)、総合的に判断し100%として評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自身の研究目的に準じた臨床工学領域の生体医工学に関連する文献及び専門書による学習。自身の研究に準じた研究の進め方やまとめ方に関する資料収集。文献・専門書については60分程度を要し内容を理解する。資料収集時間は適時。	
教科書・参考書	教科書：特になし 参考書：適時紹介	
オフィス・アワー	電子メールにて対応。大瀧和也：授業後、メール(oohama@paz. ac. jp) 電子メールにて対応。花田三四郎：hanada@paz. ac. jp 電子メールにて対応。松岡雄一郎：matsuoka@paz. ac. jp	
履修条件・履修上の注意	事前学習、学術論文の理解ならびに技術修得などを主体的に行うこと。	

講義科目名称： 研究方法論VI

授業コード： M6016

英文科目名称： Methodology in Health Care Research VI

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一	矢島・小林	廣田・星野修	倉石・木村朗

授業形態	講義・討論ならびに演習		担当者
授業計画	第1回	イントロダクション・感染症疫学分野の研究論文から学ぶ研究方法論	木村博一
	第2回	アレルギー疾患に関する疫学研究論文から学ぶ研究方法論	木村博一
	第3回	公衆衛生看護学に関する研究論文から学ぶ研究方法論	矢島正栄
	第4回	健康行動科学に関する疫学研究論文から学ぶ研究方法論	小林亜由美
	第5回	脳卒中3次予防の疫学研究分野の論文から学ぶ研究方法論	木村朗
	第6回	産業保健学の疫学研究分野の論文から学ぶ研究方法論	廣田幸子
	第7回	放射線疫学領域の研究論文から学ぶ研究方法論	星野修平
	第8回	環境保健学領域の疫学研究から学ぶ研究方法論	倉石政彦
科目の目的	公衆衛生学領域で研究を遂行する際に必要な知識、技術ならびにエビデンスに基づく分析能力を獲得する。		
到達目標	公衆衛生学主要領域において、エビデンスを基盤とする研究方法を獲得する。		
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。		
教科書・参考書	各教員配布資料等		
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける。		
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可		

講義科目名称：保健科学特別セミナー

授業コード：M6017

英文科目名称：Special Lectures on Health Science

対象カリキュラム：2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
藤田 清貴	齋藤基・早川・小林	佐藤満・石井・長田	荒木・岡山・倉石
	渡邊・大瀨・木村博	矢島・木村朗	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション・病因・病態検査学（1） 検査データの謎解きとトピックスについて講義する。	藤田 清貴
	第2回 病因・病態検査学（2） 遺伝子検査学における最新動向について講義する。	長田 誠
	第3回 病因・病態検査学（3） 生殖補助医療に関する概要と応用。	荒木 泰行
	第4回 病因・病態検査学（4） 病理細胞検査に関する概要とトピックスについて講義する。	岡山 香里
	第5回 放射線学（1） 放射線の利用状況を概観し、放射線学研究のトピックスを講義する。	倉石 政彦
	第6回 放射線学（2） 放射線学領域の研究動向を示し、放射線学特有のトピックスを講義する。	渡邊 浩
	第7回 臨床工学 臨床工学研究のトピックスを講義する。	大瀨 和也
	第8回 看護学 看護学領域における最新の研究動向について講義する。	齋藤 基
	第9回 母性看護学・助産学 母性看護学領域における最新の研究動向について講義する。	早川 有子
	第10回 リハビリテーション学（1） 理学療法関連領域の最新研究動向とトピックスについて講義する。	佐藤 満
	第11回 リハビリテーション学（2） リハビリテーション学領域における最新の研究動向について講義する。	石井 良和
	第12回 公衆衛生学（1） 公衆衛生学領域の研究手法論（特に疫学領域）の概要を講義する。	木村 博一
	第13回 公衆衛生学（2） 公衆衛生学領域の研究手法論の概要を講義する。	木村 朗
	第14回 公衆衛生学（3） 公衆衛生学領域の近年の課題と研究の動向について講義する。	小林 亜由美
	第15回 公衆衛生学（4） 地域保健（対人保健）に関する近年の課題と研究の動向について講義する。	矢島 正栄
科目の目的	保健科学研究科における各領域の最新の研究動向と争点や課題を知り、それらの知識・情報を各自の研究のテーマや視点や分析概念や方法の具体的検討に役立てることを目的とする。	
到達目標	各領域における最新の研究動向や争点を理解できる。	
成績評価方法・基準	レポート(50%)および討論内容(50%)から総合的に評価する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習を中心に90分程度振り返り整理すること	
教科書・参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	各担当教員の講義後の時間帯に対応する	
履修条件・履修上の注意	講義中は携帯電話の電源を切ること	

講義科目名称： 公衆衛生学特論

授業コード： M6018

英文科目名称： Advanced Public Health

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一	木村 朗	佐田 充	

授業形態	講義・討論	担当者
授業計画	第1回 公衆衛生学総論 諸外国を含めた公衆衛生学の歴史や対策の現状について講義を行う。	木村博一
	第2回 感染症学総論 細菌・ウイルス感染症の概要を講義する。	木村博一
	第3回 新興・再興感染症総論 エボラウイルス感染症や新型コロナウイルス感染症を主体とした新興再興感染症について講義する。	木村博一
	第4回 結核の疫学 諸外国を含めた結核の現状、疫学について講義する。	木村博一
	第5回 インフルエンザの疫学 新型インフルエンザを含めた疫学の概要を講義する。	木村博一
	第6回 悪性腫瘍に関する公衆衛生学 悪性腫瘍の危険因子と我が国の疫学について	木村博一
	第7回 アレルギー疾患に関する公衆衛生学1 種々のアレルギー疾患と公衆衛生学上の問題について	木村博一
	第8回 アレルギー疾患に関する公衆衛生学2 感染喘息と公衆衛生学について	木村博一
	第9回 生活習慣病に関する公衆衛生学1 糖尿病の疫学と国内の公衆衛生対策(保健医療)を概説する。	木村 朗
	第10回 生活習慣病に関する公衆衛生学2 国際糖尿病会議による世界の糖尿病患者の疫学と公衆衛生政策(社会)を概説する。	木村 朗
	第11回 生活習慣病に関する公衆衛生学3 国際肥満学会による肥満症の疫学と公衆衛生対策(保健医療、社会)を概説する。	木村 朗
	第12回 生活習慣病に関する公衆衛生学4 WHOによる高血圧症の疫学と公衆衛生対策(保健医療)を概説する。	木村 朗
	第13回 生活習慣病に関する公衆衛生学5 国際動脈硬化学会による脂質異常症、動脈硬化の疫学と公衆衛生対策(保健医療)を概説する。	木村 朗
	第14回 精神疾患に関する公衆衛生学1 公衆衛生学上問題となる精神疾患について	佐田 充
	第15回 精神疾患に関する公衆衛生学2 我が国における精神疾患の疫学と公衆衛生上の問題について	佐田 充
科目の目的	公衆衛生的対策の基盤である感染症、生活習慣病、精神性疾患ならびに障害者・高齢者保健、産業保健などを例にとり、発病要因の疫学的解明ならびに種々の疾患・障害の1次から3次にわたる予防対策および公衆衛生関連の福祉政策について学ぶ。	
到達目標	各疾患の発病要因の疫学ならびに種々の疾患・障害の1次から3次にわたる予防対策および公衆衛生関連の福祉政策の概要を修得する。	
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。	
教科書・参考書	【教科書】 社会・環境と健康 公衆衛生学2023年版、柳川洋・尾島俊之編 医歯薬出版社 【教科書】 Evidence-Based Public Health, Oxford University Press	
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける(木村博一:h-kimura@paz.ac.jp; 木村朗:a-kimura@paz.ac.jp; 佐田充:sada@paz.ac.jp)。	
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	加茂 智彦		

授業形態	講義および演習	担当者
授業計画	<p>第1回 目的に応じたデータの準備について 疫学前置主義</p> <p>第2回 データベース定義書のあらましと、実データを使った演習</p> <p>第3回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作1 記述統計</p> <p>第4回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作2 クロス集計</p> <p>第5回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作3 二群の平均値の差（ベイズ統計を含む）パラメトリック ノンパラメトリック（ブートストラップなど）</p> <p>第6回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作4 3群の平均値の差（ベイズ統計を含む）パラメトリック ノンパラメトリック（幾何分布の応用）</p> <p>第7回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作5 分散分析と回帰分析1（ベイズ統計を含む）パラメトリック</p> <p>第8回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作6 分散分析と回帰分析2（ベイズ統計を含む）ノンパラメトリック（所謂多重比較法の誤用について）</p> <p>第9回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作7 分散分析と回帰分析3（ベイズ統計を含む）線形代数と回帰</p> <p>第10回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作8 分散分析と回帰分析4 対数化と微分による精度制御</p> <p>第11回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作9 クロス表分析1 パラメトリックデータのコーディング</p> <p>第12回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作10 クロス表分析2 ノンパラメトリックデータの直接処理(所謂人工知能の演算のあらまし含む)</p> <p>第13回 各種統計データを用いたSPSSの基本操作11 多変量解析1 数量化理論1～4</p> <p>第14回 実務データに対しSPSSを用いた一連の分析に関するデモンストレーション</p> <p>第15回 実務データに対しSPSSを用いた一連の分析に関するプレゼンテーションとディスカッション</p>	<p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦</p> <p>加茂 智彦</p>
科目の目的	修士論文の作成および、研究実務において役立つデータ分析技術を身に付けること。	
到達目標	<p>1. 研究の目的に沿った、仮説生成のための探索的データ処理方法について、そのフレームワークが説明できるようになること。</p> <p>2. データ収集計画からデータベース定義書の作成、データ入力から統計ソフトウェアへの書き出し、読み込み、適切な確率分布関数の設定に基づく、検定、結果の出力から報告書の作成までの一連の手続きをIBM-SPSSを用いて実務データの処理が可能になること。</p>	
成績評価方法・基準	実務データを基にデータ処理の過程についてプレゼンテーションを行った際の資料の完成度（50%）および、プレゼンテーションの質（50%）に関して総合的に実施する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各自の情報処理能力に依存するため、一律の学習時間の目安はなじまない。統計検定2級程度の知識を有する場合で予習復習の時間は講義1に対し、2倍程度の時間を確保して欲しい。	
教科書・参考書	授業にて毎回資料を提示する。	
オフィス・アワー	授業日の休み時間	
履修条件・履修上の注意	PCを持参し、大学院生用IBM-SPSSを購入の上、インストールしておくこと。	

講義科目名称： 情報アクセシビリティ学特論

授業コード： M6020

英文科目名称： Advanced Information Accessibility Technology

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗			

授業形態	講義	担当者
授業計画	1回 情報アクセサビリティのあらし1	木村 朗
	2回 情報アクセサビリティのあらし2	木村 朗
	3回 アシステブテクノロジーと情報アクセサビリティ	木村 朗
	4回 視覚障害者の情報アクセサビリティ 情報アクセサビリティ研究論文を基にディスカッション1 講義ならびに演習	木村 朗
	5回 視覚障害者の情報アクセサビリティ 情報アクセサビリティ研究論文を基にディスカッション2 講義ならびに演習	木村 朗
	6回 聴覚障害者の情報アクセサビリティ 情報アクセサビリティ研究論文を基にディスカッション1 講義ならびに演習	木村 朗
	7回 聴覚障害者の情報アクセサビリティ 情報アクセサビリティ研究論文を基にディスカッション2 講義ならびに演習	木村 朗
	8回 盲聾者の情報アクセサビリティ 情報アクセサビリティ研究論文を基にディスカッション1 講義ならびに演習	木村 朗
	9回 盲聾者の情報アクセサビリティ 情報アクセサビリティ研究論文を基にディスカッション2 講義ならびに演習	木村 朗
	10回 肢体不自由者の情報アクセサビリティ 情報アクセサビリティ研究論文を基にディスカッション1 講義ならびに演習	木村 朗
	11回 肢体不自由者の情報アクセサビリティ 情報アクセサビリティ研究論文を基にディスカッション2 講義ならびに演習	木村 朗
	12回 加齢による能力低下に対する情報アクセサビリティ 情報アクセサビリティ研究論文を基にディスカッション1 講義ならびに演習	木村 朗
	13回 加齢による能力低下に対する情報アクセサビリティ 情報アクセサビリティ研究論文を基にディスカッション2 講義ならびに演習	木村 朗
	14回 学生が収集した情報アクセサビリティに関する報告 講義ならびに演習	木村 朗
	15回 使いやすさの追求と「ユーザービリティ」や「バリアフリー」との違い 講義ならびに演習	木村 朗
科目の目的	視覚、聴覚、触覚、手の動きなどにハンディがある先天的、後天的にある人のみならず、加齢によって能力が低下している人のことも考慮し、使いやすい製品やサービスを設計することで実現する技術と理論を理解すること。	
到達目標	アクセシビリティの歴史、概要について、学生は情報アクセサビリティの定義およびあらしを説明できるようになること。使いやすさの追求と「ユーザービリティ」や「バリアフリー」との違いが説明できるようになること。	
成績評価方法・基準	講義の中で作成する資料（50%）を用いて発表の質（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な	講義1時間に対し、予習復習2時間程度を想定している。	

学習時間の目安	
教科書・参考書	講義前に資料を提示する。
オフィス・アワー	講義日の授業終了後15分 (a-kimura@paz.ac.jp)
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称： 身体活動支援教育学特論

授業コード： M6021

英文科目名称： Physical Activity Science and Pedagogy

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 身体活動疫学の定義	木村 朗
	第2回 各種研究方法と身体活動疫学	木村 朗
	第3回 身体活動疫学指標の評価方法と利活用	木村 朗
	第4回 心疾患と身体活動疫学 教育的活用の視点1	木村 朗
	第5回 心疾患と身体活動疫学 教育的活用の視点2	木村 朗
	第6回 脳血管疾患と身体活動疫学 教育的活用の視点1	木村 朗
	第7回 脳血管疾患と身体活動疫学 教育的活用の視点2	木村 朗
	第8回 肥満症と身体活動疫学 教育的活用の視点1	木村 朗
	第9回 肥満症と身体活動疫学 教育的活用の視点2	木村 朗
	第10回 癌と身体活動疫学 教育的活用の視点1	木村 朗
	第11回 癌と身体活動疫学 教育的活用の視点2	木村 朗
	第12回 骨粗鬆と身体活動疫学 教育的活用の視点1	木村 朗
	第13回 骨粗鬆と身体活動疫学 教育的活用の視点2	木村 朗
	第14回 学生が収集した身体活動支援教育に関する報告	木村 朗
	第15回 公衆衛生学と身体活動支援教育	木村 朗
科目の目的	身体活動を軸とした生活習慣・健康行動変容に関する教育理論の整理を行い、各理論の枠組みを用いて対象集団の教育および実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点を学ぶ。既存研究のケースシナリオを基に、公衆衛生学における身体活動支援教育のマーケティング、エンパワメントアプローチ、メディアメッセージデザイン、そしてコミュニティ等を構築するための技法について、評価方法と実践活用法を理解すること。	
到達目標	身体活動を軸とした生活習慣・健康行動変容に関する教育理論の整理を行い、各理論の枠組みを用いて対象集団の教育および実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点を学ぶ。既存研究のケースシナリオを基に、公衆衛生学における身体活動支援教育のマーケティング、エンパワメントアプローチ、メディアメッセージデザイン、そしてコミュニティ等を構築するための技法について、評価方法と実践活用法について説明できるようになること。	
成績評価方法・基準	身体活動疫学に関連する個人及び集団における学習支援上の課題発見能力について、学生の作成した資料(50%)、プレゼンテーションの質(50%)を基に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義時間1時間あたり予習1時間、復習1時間を目安とする。	
教科書・参考書	教科書:身体活動学入門(三共出版) 教科書:Physical Activity Epidemiology(kinetics)	
オフィス・アワー	授業日において講義間の休み時間	
履修条件・履修上の注意		



講義科目名称： 医療情報科学特論

授業コード： M6022

英文科目名称： Medical Information Science

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回-7回 保健医療福祉における情報伝達、医療情報管理について	星野修平
	8回-14回 保健医療福祉における研究デザイン・研究方法について	星野修平
	第15回 総論	星野修平
科目の目的	保健医療分野における意思決定は、診療情報、検査情報、健康情報、医学的知識などからなる医療情報とその伝達によって形成される。現代では、コンピュータ技術の躍進と情報通信技術の開発・普及によって、情報伝達と情報共有が重要な役割を担っている。この講義では、医療情報の基礎として情報通信処理技術（ネットワーク、ハードウェア・ソフトウェア）を学び、保健医療における実践的活用方法について技術・制度などの側面から医療情報の電子化・標準化、保健医療制度、医療情報管理、医療評価、医療の質管理、意思決定支援、情報セキュリティ、プライバシー、個人情報保護をについて具体的事例をもとに学ぶ。	
到達目標	1 保健医療分野における情報通信処理技術の意義が説明できる。 2 保健医療における実践的活用方法として、（1）医療情報の電子化・標準化、（2）保健医療制度、（3）医療情報管理、（4）医療評価、医療の質管理、（5）意思決定支援、（6）情報セキュリティ、プライバシー、個人情報保護をについて説明できる。	
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと学習状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 90分、事後学習90分	
教科書・参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。 面談を希望する場合は、予め担当教員にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 医療安全管理学特論

授業コード： M6023

英文科目名称： Advanced Medical Safety Management

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
渡邊 浩	木村 博一		

授業形態	講義（一部、討論・演習を含む）15回		担当者
授業計画	第1回	医療機関における安全管理体制 医療安全を担保するための関係法令ならびに医療機関における安全管理体制を概説する。	渡邊 浩
	第2回	医療安全理論 医療安全を担保するための理論と取り組みを講義する。	渡邊 浩
	第3回	放射線安全管理Ⅰ 放射線安全管理の概要について講義する。	渡邊 浩
	第4回	放射線安全管理Ⅱ 放射線安全管理の実践について講義する。	渡邊 浩
	第5回	医療機器安全管理Ⅰ 医療機器安全管理の概要を講義する。	渡邊 浩
	第6回	医療機器安全管理Ⅱ 医療機器安全管理の実践について講義する。	渡邊 浩
	第7回	リスクコミュニケーション リスクコミュニケーションの考え方と実践例について講義する。	渡邊 浩
	第8回	リスクマネジメント リスクマネジメントの考え方と取り組みについて講義する。	渡邊 浩
	第9回	バイオセーフティ総論Ⅰ バイオセーフティ理論の概要を講義する。	木村博一
	第10回	バイオセーフティ総論Ⅱ バイオセーフティ技術の概要を講義する。	木村博一
	第11-12回	院内感染対策総論Ⅰ 院内感染の原因や疫学について概説する。	木村博一
	第13-14回	院内感染対策総論Ⅱ 院内感染の制御法について概説する。	木村博一
	第15回	新型コロナウイルス感染症の感染対策 新型コロナウイルス感染症の感染対策について概説する。	木村博一
科目の目的	医療安全を担保するためのリスクアセスメントならびにリスクマネジメントを理解する。		
到達目標	医療の各分野における医療機器安全管理学、放射線安全管理学ならびに感染防御安全管理学などにおける医療安全管理体制と諸課題解決のための研究手法を習得する。		
成績評価方法・基準	討論・演習内容（50%）ならびに当該科目の理解度（50%）から総合的に評価する（合計100%）。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。		
教科書・参考書	配布資料等		
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける（木村博一：h-kimura@paz.ac.jp；渡邊浩:watanabe@paz.ac.jp）。		
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
萩原 英子	堀越政孝	堀込由紀	萩原一美
	島田 恵(非常勤講師)		

授業形態	講義10回・演習5回		担当者
授業計画	第1回	イントロダクション／成人看護学とは〔講義〕 看護学における成人看護学領域の位置づけ、及び成人看護学領域における研究の特徴について学ぶ。	萩原英子
	第2回	基礎看護学とは〔講義〕 看護学における基礎看護学領域の位置づけ、及び基礎看護学領域における研究の特徴について学ぶ。	堀込由紀
	第3回	看護研究論文のクリティーク〔講義〕 看護研究論文のクリティーク方法について学ぶ。	堀越政孝
	第4回	基礎看護学領域における看護技術研究の動向と課題〔演習〕 看護技術の開発と効果の検証方法、看護技術研究の動向について学び、その課題について検討する。	堀込由紀
	第5回	基礎看護学領域における看護支援方法に関する研究の動向と課題〔演習〕 看護支援方法の開発と効果の検証方法、看護支援方法に関する研究の動向について学び、その課題について検討する。	堀込由紀
	第6回	看護管理における研究の動向と課題〔講義〕 看護マネジメントの実践について学び、その課題について考察する。	萩原一美
	第7回	看護基礎教育・看護継続教育における研究の動向と課題〔講義〕 看護基礎教育及び看護継続教育の現状を学び、その課題について考察する。	萩原一美
	第8回	成人期にある人を取り巻く保健・医療・福祉のシステム〔講義〕 成人期にある人の健康を支える保健・医療・福祉のシステムについて学び、その課題について考察する。	萩原英子
	第9回	成人期にある人を支える外来看護〔講義〕 HIV/AIDS患者のセルフマネジメントを支援する外来看護の実践について学ぶ。	島田 恵 (非常勤講師)
	第10回	慢性疾患と共に生きる患者の看護に関する研究の動向と課題〔演習〕 慢性疾患と共に生きる患者の看護に関する国内外の文献を講読し、その課題について検討する。	堀越政孝
	第11回	急性疾患に罹患した患者の看護に関する研究の動向と課題〔演習〕 急性疾患に罹患した患者の看護に関する国内外の文献を講読し、その課題について検討する。	萩原英子
	第12回	療養の場の移行支援〔講義〕 療養の場の移行支援の必要性と移行支援の実践を学び、その課題について考察する。	堀越政孝
	第13回	成人期にある患者の家族に対する看護〔講義〕 成人期にある患者の家族に対する看護の理念と方法について学び、その課題について考察する。	萩原英子
	第14回	看護実践に有用な理論の理解と活用①〔講義〕 患者の理解や看護の実践に有用な理論について学ぶ。	萩原英子
	第15回	看護実践に有用な理論の理解と活用②〔演習〕 自己の看護実践事例を振り返り、理論をもとに検討する。	萩原英子
科目の目的	様々な健康問題を持つ人とその家族に対する看護について、看護技術や看護支援方法、支援システム、看護教育や理論など多様な視点から理解を深め、その課題を考察する。また、看護の対象を多面的に捉え、科学的根拠に基づいた質の高い看護支援を探究する力を養う。		

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の開発や新たな看護支援方法の開発と評価の実際を学び、その課題について説明できる。</li> <li>2. 看護管理に関する基本的な知識とその実際を学び、看護管理における課題を説明できる。</li> <li>3. 看護基礎教育及び継続教育の現状と課題を説明できる。</li> <li>4. 様々な健康問題を持つ人とその家族を取り巻く保健・医療・福祉の現状と、看護支援における今日的な課題について説明できる。</li> <li>5. 様々な健康問題を持つ人とその家族の看護支援に有用な理論について、その活用方法を説明できる。</li> <li>6. 国内外の文献を活用して、看護の意義や役割、支援のあり方や課題について検討し、自己の考えを述べることができる。</li> </ol>
成績評価方法・基準	授業内で実施するプレゼンテーション(25%)、ディスカッション(25%)、最終レポート(50%)で評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	演習の準備（文献検索、研究論文の講読、発表資料作成）として、2時間程度の学習を要する。
教科書・参考書	教科書：使用しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書：授業の中で紹介する。
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義の前後。または、E-mail(hagiwara@paz.ac.jp)で対応する。 堀越政孝(研究室324)：講義の前後。または、E-mail(horikoshi@paz.ac.jp)で対応する。 萩原一美(研究室316)：講義の前後。または、E-mail(k-hagiwara@paz.ac.jp)で対応する。 堀込由紀(研究室312)：講義の前後。または、E-mail(horigome@paz.ac.jp)で対応する。 島田 恵(非常勤講師)：講義の前後。
履修条件・履修上の注意	欠席する際には事前に萩原英(hagiwara@paz.ac.jp)まで連絡をすること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
萩原 英子	堀越 政孝		

授業形態	講義(3回)、演習(12回)	担当者
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン/研究の進め方 [講義] 本科目のオリエンテーションを通して、リサーチクエストの設定から研究計画立案までのプロセスについて学習する。</p> <p>第2回 研究課題の明確化 [演習] これまでの学習や経験をもとに感じている問題(研究課題)について、ディスカッションを通して明確にする。</p> <p>第3回 文献検索と文献検討の方法 [講義] 学生の研究課題に基づき、文献を収集し、文献検討を行う方法について学習する。</p> <p>第4回 文献検討① [演習] 学生の研究課題に基づき、国内外の文献を収集し、文献検討を行う。</p> <p>第5回 文献検討② [演習] 学生の研究課題に基づき、国内外の文献を収集し、文献検討を行う。</p> <p>第6回 研究論文のクリティーク方法 [講義] 学生の研究課題に基づき、クリティークを行う方法について学習する。</p> <p>第7回 研究論文クリティーク① [演習] 学生の研究課題に基づき文献検索した論文について、クリティークを行う。</p> <p>第8回 研究論文クリティーク② [演習] 学生の研究課題に基づき文献検索した論文について、クリティークを行う。</p> <p>第9回 研究計画の立案Ⅰ-① [演習] 研究課題及び研究目的、研究デザインについて検討する。</p> <p>第10回 研究計画の立案Ⅰ-② [演習] 研究課題及び研究目的、研究デザインについて検討する。</p> <p>第11回 研究計画の立案Ⅱ-① [演習] 研究方法について検討する。</p> <p>第12回 研究計画の立案Ⅱ-② [演習] 研究方法について検討する。</p> <p>第13回 研究計画の立案Ⅲ [演習] 研究計画の倫理的側面について検討する。</p> <p>第14回 研究計画の立案Ⅳ [演習] 研究の実施に向けた準備として必要時はフィールドワークを行い、実施可能性について検討する。</p> <p>第15回 研究計画の立案Ⅴ [演習] 作成した研究計画書を発表し、その内容を検討する。</p>	<p>萩原英子</p> <p>萩原英子・堀越政孝</p> <p>萩原英子</p> <p>萩原英子</p> <p>萩原英子</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>堀越政孝</p> <p>萩原英子・堀越政孝</p> <p>萩原英子・堀越政孝</p> <p>萩原英子・堀越政孝</p> <p>萩原英子・堀越政孝</p> <p>萩原英子・堀越政孝</p> <p>萩原英子・堀越政孝</p> <p>萩原英子・堀越政孝</p> <p>萩原英子・堀越政孝</p> <p>萩原英子・堀越政孝</p>
科目の目的	患者及びその家族に対する、エビデンスに基づく看護支援のあり方を追究するため、俯瞰的な視点で研究課題を探求し、その研究課題を解決するための方策を具体的に立案する力を養う。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文献検討及び研究論文クリティークを実施することができる。</li> <li>2. 研究課題及び研究の意義について、論理的に説明することができる。</li> </ol>	

	<p>3. 研究課題を解決するための適切な方法を検討・選択することができる。</p> <p>4. 研究課題に基づき、具体的で実現可能な研究計画書を作成することができる。</p> <p>5. 自分の考えを整理し、分かりやすく説明することができる。</p>
成績評価方法・基準	文献検討の内容[10%]、研究論文クリティークの内容[20%]、最終提出課題(研究計画書)[50%]、研究計画書プレゼンテーション[20%]の計100%で評価をする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	演習に参加する際には、必要な資料を作成して持参すること。この資料の作成も含め、各回の準備学習に要する時間は1コマ当たり約4時間である。
教科書・参考書	教科書：特に指定しない。 参考書：授業の中で随時紹介する。
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義の前後。または、E-mail(hagiwara@paz.ac.jp)で対応する。 堀越政孝(研究室324)：講義の前後。または、E-mail(horikoshi@paz.ac.jp)で対応する。
履修条件・履修上の注意	欠席する際には事前に萩原英(hagiwara@paz.ac.jp)まで連絡をすること。

講義科目名称： ウイメンズヘルス・助産学特論

授業コード： M6027

英文科目名称： Women's Health and Midwifery

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
中島 久美子	早川 有子		

授業形態	講義11回・演習4回		担当者
授業計画	第1回	イントロダクション・ウイメンズヘルスの課題Ⅰ 看護基礎教育におけるウイメンズヘルス・助産学の位置づけ、理論	中島
	第2回	ウイメンズヘルスの課題Ⅱ マタニティケア・助産ケアのエビデンス（妊娠編）①	中島
	第3回	ウイメンズヘルスの課題Ⅲ マタニティケア・助産ケアのエビデンス（分娩編）②	中島
	第4回	ウイメンズヘルスの課題Ⅳ 妊・産・褥婦のよくあるトラブル（痔核 乳房トラブル）	早川
	第5回	ウイメンズヘルスの課題Ⅴ 妊・産・褥婦の母子の感染症予防	早川
	第6回	ウイメンズヘルスの課題Ⅵ 在留外国人の母乳育児支援	早川
	第7回	周産期の課題Ⅰ 周産期のメンタルヘルス	中島
	第8回	周産期の課題Ⅱ 周産期の夫婦関係①	中島
	第9回	周産期の課題Ⅲ 周産期の夫婦関係②	中島
	第10回	ウイメンズヘルス・助産学教育Ⅰ リプロダクティブヘルスに関わる健康教育（ピアエディケーション）	中島
	第11回	ウイメンズヘルス・助産学教育Ⅱ 助産教育に関する研究の動向と課題（シミュレーション教育）	中島
	第12回	ウイメンズヘルス・助産学における研究Ⅰ（演習） ウイメンズヘルス・助産学における研究論文（量的研究）	中島
	第13回	ウイメンズヘルス・助産学における研究Ⅱ（演習） ウイメンズヘルス・助産学における研究論文（質的研究）	中島
	第14回	ウイメンズヘルス・助産学における研究Ⅲ（演習） ウイメンズヘルス・助産学における研究論文（ミックスメソッド）	中島
	第15回	ウイメンズヘルス・助産学における研究Ⅳ（演習） 自己の研究課題に関する論文	中島
科目の目的	リプロダクティブ・ヘルス、女性のライフサイクルに沿った健康問題に対する助産ケアに必要な基礎的能力を養う。女性の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウイメンズヘルスにおける助産ケアを追究する。助産学教育の現状と課題、助産ケアの質を高めるために必要な継続教育について理解する。		
到達目標	1. 女性のライフステージ各期における健康問題について理解する。 2. 女性や子どもをめぐる健康問題と、夫婦関係・家族関係をめぐる課題を理解する。 3. 助産学教育に関する研究の動向や課題について理解する。 5. ウイメンズヘルス・助産学領域における研究の動向や課題について先行研究を基に探究し、自己の研究課題を明確にする。		
成績評価方法・基準	課題に関するプレゼンテーション（60%） 課題（40%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1コマについて2時間程度の学習を必要とする。		
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：必要時提示する		
オフィス・アワー	早川：各講義日の前後 中島：各講義日の前後		
履修条件・履修上の注意	特になし		

講義科目名称： ウイメンズヘルス・助産学演習

授業コード： M6028

英文科目名称： Practice in Women's Health and Midwifery

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
中島 久美子	早川 有子		

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 研究の進め方① オリエンテーション 第2回 研究の進め方② 第3回 文献抄読① 研究課題に関連した文献の抄読 第4回 文献抄読② 研究課題に関連した文献の抄読 第5回 文献抄読③ 研究課題に関連した文献の抄読 第6回 研究計画の検討① 研究課題・研究目的・研究デザイン 第7回 研究計画の検討① 研究課題・研究目的・研究デザイン 第8回 研究計画の検討① 研究課題・研究目的・研究デザイン 第9回 研究計画の検討② 研究方法 第10回 研究計画の検討② 研究方法 第11回 研究計画の検討② 研究方法 第12回 研究計画の検討③ 研究実施計画 第13回 研究計画の検討③ 研究実施計画 第14回 研究計画の検討③ 研究実施計画 第15回 研究計画の発表	
科目の目的	母性看護学/助産学に関する最近の看護知見・社会支援・教育について、国内外の文献抄録、各自の実践報告などを通して、研究の現状を学び、各自の研究計画書を作成する。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文献を通して母性看護学/助産学領域における研究の最新の知見を学ぶ。</li> <li>・自己の研究課題を明確にし、研究課題に適した研究手法の選択や研究の進め方を理解し、研究計画書を作成できる。</li> </ul>	
成績評価方法・基準	発表・討議（30％） 計画書（70％）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1コマにつき3時間程度の学習を必要とする。	
教科書・参考書	参考書 看護研究step by step 黒田裕子 医学書院 パソコンで進める やさしい看護研究 富田真佐子 ohmsha社 看護研究入門 実施・評価・活用 ナンシー・バーンズ他 エルビア・ジャパン	
オフィス・アワー	講義開講日	
履修条件・履修上の注意	母性看護・助産学領域を専攻する学生	





講義科目名称： 発達看護学演習

授業コード： M6030

英文科目名称： Practice in Developmental Nursing

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
中下 富子			

授業形態	演習	担当者	
授業計画	第1回	オリエンテーション 研究の進め方Ⅰ	中下富子
	第2回	研究の進め方Ⅱ	中下富子
	第3回	文献抄読Ⅰ 研究課題に関連した文献の抄読	中下富子
	第4回	文献抄読Ⅱ 研究課題に関連した文献の抄読	中下富子
	第5回	文献抄読Ⅲ 研究課題に関連した文献の抄読	中下富子
	第6回	研究計画の検討Ⅰ 研究課題・研究目的・研究デザイン	中下富子
	第7回	研究計画の検討Ⅰ 研究課題・研究目的・研究デザイン	中下富子
	第8回	研究計画の検討Ⅰ 研究課題・研究目的・研究デザイン	中下富子
	第9回	研究計画の検討Ⅱ 研究方法	中下富子
	第10回	研究計画の検討Ⅱ 研究方法	中下富子
	第11回	研究計画の検討Ⅱ 研究方法	中下富子
	第12回	研究計画の検討Ⅲ 研究実施計画の作成	中下富子
	第13回	研究計画の検討Ⅲ 研究実施計画の作成	中下富子
	第14回	研究計画の検討Ⅲ 研究実施計画の作成	中下富子
	第15回	研究計画の検討Ⅳ 研究計画の発表	中下富子
科目の目的	小児看護学に関する研究の動向への理解を深め、研究課題を探求することを通して研究課題探求のための具体的な方法を検討する。		
到達目標	①小児看護学領域における研究の動向について説明することができる。 ②研究課題追及のために適する研究デザインを選択し、研究計画を立案することができる。		
成績評価方法・基準	レポート100%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	課題に関して、各自必要な資料を作成して参加してください。準備する課題学習は2時間以上が目安となります。		
教科書・参考書	教科書はありません。 参考書を授業中に随時紹介します。		
オフィス・アワー	講義の前後、また随時受けます。nakashita@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	なし		

講義科目名称： 母子看護学特別研究

授業コード： M6031

英文科目名称： Mother and Child Nursing Thesis Guidance

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
早川 有子・中島 久美子・中下 富子	早川 有子	中島 久美子	中下 富子

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>4月～7月 研究指導教員と研究計画書作成 ・設定したテーマについて研究計画書を作成する。</p> <p>6月～7月 大学研究倫理審査委員会審査の申請（7月通常審査） ・設定したテーマについて大学研究倫理審査委員会の承認を得る。</p> <p>7月～9月 研究活動の展開 ・研究計画に沿って、自主的に研究を遂行する。進捗状況を報告する。</p> <p>8月 研究中間発表会 ・中間発表会のプレゼンテーションを行い、意見交換を通して、研究結果のまとめ方や考え方を学ぶ。</p> <p>10月～11月 学位論文の作成 ・結果の図表の作成、論文の書き方を学び、関連文献の検索から考察のまとめを行う。</p> <p>12月～2月 学位論文、最終試験の可否審査、学位授与判定 ・論文審査申請書類の作成を行う。審査会での意見から論文とプレゼン資料を修正し、最終試験で合格する。</p>	
科目の目的	<p>（早川 有子） 妊・産・褥婦のよくあるトラブル、母子と感染症、母乳育児支援、母性・助産学教育に関する研究指導を行う。</p> <p>（中島 久美子） 周産期のメンタルヘルス、妊娠期からの継続的な親意識の発達および夫婦の関係性への看護支援、ウイメンズヘルス・助産学教育に関する研究指導を行う。</p> <p>（中下 富子） 疾病・障害を持つ子どもや社会的に弱い立場にある子どもと家族の健康課題の改善・解決、学齢期・思春期にある子どもの健康の支援、子どもの健康および看護に関する研究指導を行う。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマを設定し、研究の意義・目的を理解することができる。</li> <li>2. 研究目的を実現するために、研究方法を組み立て実施することができる。</li> <li>3. 研究者としての倫理観や看護者としての倫理観を理解した上で研究遂行ができる。</li> <li>4. 研究計画や研究成果を中間発表会や審査会で解りやすくプレゼンテーションできる。</li> <li>5. 指導者と積極的にディスカッションを行い、学術論文としてまとめることができる。</li> </ol>	
成績評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 研究計画書作成（研究計画書を作成、倫理審査委員会での承認）30%</li> <li>2) 研究実施状況（研究計画書に基づき、研究倫理を理解した研究遂行）20%</li> <li>3) 学術論文作成（研究目的から結果・考察に至る過程で一貫性のある論文作成）30%</li> <li>4) 研究成果発表（研究中間発表会や審査会での発表内容）20%</li> </ol>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>研究テーマについて積極的に情報収集を行うと共に、定期的に研究の進捗状況の報告と討論を行う（1-2時間）。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：特になし 参考書：必要に応じて担当指導教員から指示する</p>	
オフィス・アワー	<p>担当指導教員が随時、メールや相談に対応する。</p>	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 公衆衛生看護学特論

授業コード： M6032

英文科目名称： Advanced Public Health Nursing

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
小林 亜由美	廣田幸子	中下 富子	奥野みどり

授業形態	講義、プレゼンテーション、ディスカッション		担当者
授業計画	第1回	公衆衛生看護学の理念 オリエンテーション、公衆衛生看護学の理念と目的	小林亜由美
	第2回	公衆衛生行政と保健師の役割 公衆衛生行政の現状と保健師の役割	小林亜由美
	第3回	地域における保健師の活動 個人、家族、集団を対象とした保健師活動の基盤となる理論と技術	小林亜由美
	第4回	対象別公衆衛生看護活動1 母子保健の課題と活動の展開方法	奥野みどり
	第5回	対象別公衆衛生看護活動2 成人保健の課題と活動の展開方法	小林亜由美
	第6回	対象別公衆衛生看護活動3 高齢者保健の課題と活動の展開方法	小林亜由美
	第7回	対象別公衆衛生看護活動4 精神保健の課題と活動の展開方法	小林亜由美
	第8回	対象別公衆衛生看護活動5 感染症対策・健康危機管理の課題と活動の展開方法	小林亜由美
	第9回	対象別公衆衛生看護活動6 難病、障害者対策の課題と活動の展開方法	小林亜由美
	第10回	公衆衛生看護実践1 産業保健の現状と課題、活動の展開方法	廣田幸子
	第11回	公衆衛生看護実践2 学校保健の現状と課題、活動の展開方法	中下富子
	第12回	公衆衛生看護実践3 公衆衛生看護管理、施策形成の現状と課題、活動の展開方法	小林亜由美
	第13回	公衆衛生看護に関する論文抄読1 関心のあるテーマに関する論文についてプレゼンテーションとディスカッション	小林亜由美
	第14回	公衆衛生看護に関する論文抄読2 関心のあるテーマに関する論文についてプレゼンテーションとディスカッション	小林亜由美
	第15回	公衆衛生看護学教育、まとめ 公衆衛生看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題、今後の研究課題	小林亜由美
科目の目的	地域社会の健康レベル向上に関わる看護の理論と技術、母子保健、成人保健、高齢者保健、精神保健、産業保健、学校保健等の対象別公衆衛生看護実践方法に関連する研究課題について理解を深める。また、地域の健康課題の解決に必要な社会資源の開発と施策への反映、健康な地域づくりにおける公衆衛生看護の役割について洞察する。さらに、公衆衛生看護学の基礎教育及び現任教育の役割と課題、公衆衛生看護管理に関連する研究課題について理解する。		
到達目標	1) 地域社会の健康レベル向上に関わる理論について説明できる。 2) 現代における公衆衛生看護に関わる課題について説明できる。 3) 公衆衛生看護に関わる研究の動向について説明できる。		
成績評価方法・基準	プレゼンテーション及びディスカッション内容30%、レポート70%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前の配付資料、関連文献を読んで参加してください。1コマにつき4時間程度の事前学習を求めます。		
教科書・参考書	教科書：指定せず（必要に応じて資料を配布する） 参考書：授業の中で紹介する		
オフィス・アワー	小林亜由美（研究室326）：平日9:00～18:00、土曜が講義日の場合は講義前後20分間；E-mail:a-kobayashi@paz.ac.jp 奥野みどり（研究室327）：同上 中下 富子（研究室323）：同上 廣田 幸子（非常勤講師室）：講義前後20分間		
履修条件・履修上の注意	なし		



講義科目名称： 在宅看護学特論

授業コード： M6034

英文科目名称： Advanced Home Care Nursing

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
齋藤 基			

授業形態	講義 (15回)	担当者
授業計画	第1回 オリエンテーション、在宅看護の概念① 在宅看護の目的、在宅看護の歴史・社会的背景、在宅看護の基本理念 第2回 在宅看護の概念② 地域包括ケアシステムと在宅看護における看護師の役割 第3回 在宅看護の概念③ 在宅看護の現状と課題 第4回 在宅看護の対象者① 発達段階及び健康レベル、国際生活機能分類 (IFC) による対象者の理解 第5回 在宅看護の対象者② 在宅療養者の家族・介護者、家族システム論による家族の捉え方 第6回 在宅療養を支える支援 在宅看護の提供方法、療養の場の移行 第7回 在宅療養を支える制度① 介護保険制度及び医療保険制度等による訪問看護 第8回 在宅療養を支える制度② ケアマネジメント、地域における多職種連携・協働 第9回 訪問看護の展開① 訪問看護制度、訪問看護サービスの提供 第10回 訪問看護の展開② 療養上のリスクマネジメント、在宅看護における権利保障 第11回 状態像に応じた訪問看護の展開① 小児の療養者に対する看護 第12回 状態像に応じた訪問看護の展開② 認知症の療養者に対する看護 第13回 状態像に応じた訪問看護の展開③ 難病の療養者に対する看護 第14回 状態像に応じた訪問看護の展開④ 終末期の療養者に対する看護 第15回 在宅看護における課題と展望 在宅看護の課題に基づいた今後の展望に対する考察	齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤
科目の目的	質の高い訪問看護を提供するために必要な条件とは何かを多角的に教授する。また、根拠に基づいた在宅看護に必要なアセスメント技術、看護技術、療養者・家族支援、在宅ケアシステムの構築に関する理論と方法について教授する。	
到達目標	1. 在宅看護の歴史及び在宅看護が必要とされる社会的背景・現状を踏まえ、在宅看護の目的、基本理念、役割が説明できる。 2. 在宅療養者・家族を支える制度、ケアマネジメント、多職種連携・協働の方法について説明できる。 3. 訪問看護事例を通して在宅看護の特徴を理解し、根拠に基づいた看護過程の展開について説明できる。	
成績評価方法・基準	ディスカッション (30%)、課題レポート (70%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業準備のため、2時間程度の学修が必要である。	
教科書・参考書	教科書：必要に応じて授業時に資料を配付する。 参考書：必要に応じて授業において紹介する。	
オフィス・アワー	研究室(322) 各回授業の前後またはメール (m-saito@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称： 在宅看護学演習

授業コード： M6035

英文科目名称： Practice in Home Care Nursing

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
齋藤 基			

授業形態	演習 (15回)	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 論文作成のプロセス、進行スケジュール</p> <p>第2回 研究課題の探索① 研究課題に関連した文献の抄読と課題の整理</p> <p>第3回 研究課題の探索② 研究課題に関連した文献の抄読と課題の整理</p> <p>第4回 研究課題の探索③ 研究課題に関連した文献の抄読と課題の整理</p> <p>第5回 研究計画書の作成① 文献検討の結果、研究課題</p> <p>第6回 研究計画書の作成② 研究目的、用語の定義</p> <p>第7回 研究計画書の作成③ 研究デザイン、概念枠組み</p> <p>第8回 研究計画書の作成④ 研究対象者、データ収集項目、データ収集方法</p> <p>第9回 研究計画書の作成⑤ 質問紙の作成</p> <p>第10回 研究計画書の作成⑥ データ分析方法</p> <p>第11回 研究計画書の作成⑦ 研究依頼に必要な書類の作成</p> <p>第12回 倫理審査申請準備① 研究計画書に基づく研究課題、研究目的、研究デザイン</p> <p>第13回 倫理審査申請準備② 研究計画書に基づく研究対象者、データの収集項目、収集方法、分析方法</p> <p>第14回 倫理審査申請準備③ 研究実施に当たっての倫理的配慮</p> <p>第15回 倫理審査申請準備④ 研究実施計画、研究計画発表</p>	齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤 齋藤
科目の目的	在宅看護に関する研究の動向を理解し、自己の研究課題を探求する。具体的には、関心のある課題に関連した先行研究を検索し、批判的考察を通して研究課題を明確にする。さらに、研究課題の研究方法に関して最新の研究成果の精読から適切な研究デザインを選択し、研究計画を立案する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 在宅看護の研究に関する動向について説明できる。</li> <li>2. 先行研究の批判的考察から研究課題を明確することができる。</li> <li>3. 最新の研究成果の精読から適切な研究デザインを選択することができる。</li> <li>4. 研究デザインに基づき研究計画書を作成することができる。</li> </ol>	
成績評価方法・基準	ディスカッション (40%)、研究計画書 (60%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業準備のため、3時間程度の学修が必要である。	
教科書・参考書	教科書：必要に応じて授業時に資料を配付する。 参考書：必要に応じて授業において紹介する。	
オフィス・アワー	研究室 (322) 各回授業の前後またはメール (m-saito@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称： 地域・在宅看護学特別研究

授業コード： M6036

英文科目名称： Community Health and Home care Nursing Reserch

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
齋藤 基・小林 亜由美			

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>4月～6月 研究計画書作成 設定した研究テーマに関する研究計画書を作成する。</p> <p>6月～7月 研究倫理審査申請書の作成および申請（7月通常審査） 設定した研究テーマに関する研究倫理審査の承認を得る。</p> <p>7月～9月 研究の遂行 研究計画書に沿って自主的に研究を遂行する。</p> <p>[8月] 中間発表会におけるプレゼンテーション 中間発表会のプレゼンテーション資料を作成し、プレゼンテーションを通して意見交換を行う。</p> <p>10月～11月 修士論文の作成 研究結果の作成および関連文献に基づく考察を行う。</p> <p>12月～2月 修士論文の審査および公開論文発表会 修士論文審査を受け、論文およびプレゼンテーション資料を修正する。公開論文発表会において最終試験を受ける。</p>	<p>齋藤、小林</p> <p>齋藤、小林</p> <p>齋藤、小林</p> <p>齋藤、小林</p> <p>齋藤、小林</p> <p>齋藤、小林</p>
科目の目的	公衆衛生看護、在宅看護と関連領域に関する深い洞察に基づいて抽出された研究課題を科学的に探求することをおし、看護学研究を遂行する能力、及び看護学研究における科学的かつ倫理的態度を身につける。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 公衆衛生看護、在宅看護とそれに関連する文献検討を踏まえ、研究課題を抽出できる。</li> <li>2. 研究課題の探求に適する方法を選択し、研究計画を立案できる。</li> <li>3. 科学的、論理的思考に基づいて研究データの収集、分析、考察を行い、研究論文にまとめることができる。</li> <li>4. 看護学研究における科学的態度、倫理的態度を説明できる。</li> </ol>	
成績評価方法・基準	<p>研究計画書作成および研究倫理審査の承認 30%</p> <p>研究遂行状況 20%</p> <p>修士論文作成 30%</p> <p>研究成果発表 20%</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究計画書作成、研究遂行、修士論文作成、研究成果発表において進捗状況の報告と討議資料の作成のため、2～3時間の学修が必要である。	
教科書・参考書	<p>教科書：なし</p> <p>参考書：必要に応じて担当教員から指示する。</p>	
オフィス・アワー	<p>齋藤 基（研究室 322） 随時またはメール（m-saito@paz.ac.jp）</p> <p>小林亜由美（研究室 326） 随時またはメール（a-kobayashi@paz.ac.jp）</p>	
履修条件・履修上の注意	特になし	



講義科目名称： 総合理学療法学特論

授業コード： M6037

英文科目名称： Advanced Physiotherapy

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	佐藤 満	高橋 正明	鈴木 学
	岡崎 大資	城下 貴司	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 理学療法の実践におけるエビデンスの利活用 1	木村 朗
	第2回 理学療法の実践におけるエビデンスの利活用 2 JPTA ガイドライン2版	木村 朗
	第3回 理学療法の実践におけるエビデンスの利活用 3 PEDro	木村 朗
	第4回 基礎運動学と理学療法のエビデンス 1	高橋 正明
	第5回 基礎運動学と理学療法のエビデンス 2	高橋 正明
	第6回 応用運動学 工学的手法のあらましと理学療法のエビデンス 1	佐藤 満
	第7回 応用運動学 工学的手法のあらましと理学療法のエビデンス 2	佐藤 満
	第8回 神経系機能障害に対する総合理学療法の開発と理学療法のエビデンス 1	鈴木 学
	第9回 神経系機能障害に対する総合理学療法の開発と理学療法のエビデンス 2	鈴木 学
	第10回 行動科学及び生態学的環境制御による身体能力の変化に基づく健康リスクと理学療法のエビデンス 1	岡崎 大資
	第11回 行動科学及び生態学的環境制御による身体能力の変化に基づく健康リスクと理学療法のエビデンス 2	岡崎 大資
	第12回 運動器系機能障害に対する総合理学療法の開発と理学療法のエビデンス 1	城下 貴司
	第13回 運動器系機能障害に対する総合理学療法の開発と理学療法のエビデンス 2	城下 貴司
	第14回 理学療法機器の効果検証と理学療法のエビデンス	佐藤 満
	第15回 内部系機能障害に対する総合理学療法の開発と理学療法のエビデンス	木村 朗
科目の目的	理学療法に関する臨床研究報告、RCTに関する論文を批判的に読むための研究手法と統計処理、理学療法の実施について検証ができるようになること。DP1・2に対応する知識を理解すること。	
到達目標	理学療法を構成する応用運動学及び身体活動計測、運動器系・神経系・内部障害系機能障害に対する総合理学療法の開発を進めるために必要な、 1. 障害者の動作困難と関連する疾患・障害に適応する理学療法に必要な病態理解、臨床動作能力評価に基づく科学的指導法の開発、理学療法機器の効果検証方法について説明できるようになること。 2. 健常者の健康増進・維持において応用可能な理学療法に必要な行動科学及び生態学的環境制御による身体能力の変化に基づく健康リスク等について説明できるようになること。	
成績評価方法・基準	講義を基に、学生が作成する理学療法のエビデンスデータベースを用いた研究疑問について、発表する際の資料（50%）、プレゼンテーションの質（50%）	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義1時間に対し、予習復習時間は3時間程度と見積もる。	
教科書・参考書	授業中に資料を提示する。	
オフィス・アワー	講義の後の15分とする。(a-kimura@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 総合理学療法学演習

授業コード： M6038

英文科目名称： Physiotherapy Practice

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
佐藤 満	高橋 正明	木村 朗	鈴木 学
	目黒 力	浅田 春美	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 新しい工学的手法を用いた理学療法研究課題1 超小型センサを用いた理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	佐藤満
	第2回 新しい工学的手法を用いた理学療法研究課題2 人工知能関連技術を用いた理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	佐藤満
	第3回 姿勢・動作に関わる理学療法研究課題1 姿勢に関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	高橋正明
	第4回 姿勢・動作に関わる理学療法研究課題2 動作に関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	高橋正明
	第5回 内部障害に関わる理学療法研究課題1 糖尿病に関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	木村朗
	第6回 内部障害に関わる理学療法研究課題2 糖尿病合併症に関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	木村朗
	第7回 内部障害に関わる理学療法研究課題3 脈管機能に関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	木村朗
	第8回 新しい工学的手法を用いた理学療法研究課題3 画像解析を用いた理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	佐藤満
	第9回 神経障害の理学療法研究課題1 脳血管障害に関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	鈴木学
	第10回 神経障害の理学療法研究課題2 脳血管障害以外の神経障害疾患に関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	鈴木学
	第11回 交通工学の理学療法研究課題 交通弱者に関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	目黒力
	第12回 都市環境の理学療法研究課題 都市の環境アプローチに関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	目黒力
	第13回 在宅障害者の理学療法研究課題 在宅障害者に関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	浅田春美
	第14回 訪問理学療法の研究課題 訪問サービスに関わる理学療法研究課題のトピックスとエビデンスに基づく理学療法実践について討論する	浅田春美
	第15回 理学療法研究課題の今後の発展 5～10年先に予想される理学療法研究手法を概観して、その実現可能性と発展可能性について討論する	佐藤満
科目の目的	理学療法の実践における研究から有用な情報を取捨選択し、自ら再構築する能力を滋養する。総合的理学療法の開発を進めるために必要な理学療法のエビデンスの構築の基礎的知識および情報機器の実践的応用能力を身に付け、自ら研究計画案を立案し、遂行する一連の過程を通して、リハビリ	

	テーションを必要とする対象者や集団、あるいは地域の理学療法と関連する健康リスク等を指標とした研究課題を明らかにする知識を理解すること。
到達目標	学習者が理学療法の実践における研究から有用な情報を取捨選択し、自ら再構築する能力を滋養する。総合的理学療法の開発を進めるために必要な理学療法のエビデンスの構築の基礎的知識および情報機器の実践的応用能力を身に付け、自ら研究計画案を立案し、遂行する一連の過程を通して、リハビリテーションを必要とする対象者や集団、あるいは地域の理学療法と関連する健康リスク等を指標とした研究課題を明らかにする知識について説明できるようになること。
成績評価方法・基準	レポート（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義1時間に対し、予習1時間、復習1時間程度を目安とする。
教科書・参考書	資料を提示する。
オフィス・アワー	講義日の授業終了15分後（mit-sato@paz.ac.jp）
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称： 理学療法学特別研究

授業コード： M6039

英文科目名称： Physical Therapy Thesis Guidance

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
佐藤 満・高橋 正明	佐藤 満	高橋 正明	

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1-6 研究テーマ関連成果の調査 先行文献通読 第7-13 研究計画の立案 研究計画立案、倫理審査申請書作成 第14-20 予備実験 予備実験を経て計画修正・確認 第21-26 本実験 実験を開始しデータを得る、データを分析する 第27-30 論文作成 論文の形での執筆	高橋正明・佐藤満 高橋正明・佐藤満 高橋正明・佐藤満 高橋正明・佐藤満 高橋正明・佐藤満
科目の目的	基礎理学療法領域の一実験研究をまとめることで院生は必要な文献の抽出、研究課題の絞り込み、バイアスの回避の仕方、信頼性・妥当性のチェック、実験計画作成、結果をまとめて文章並びに口述発表での注意点など研究の流れに沿って実験を遂行できるようになること。加えて人に対する倫理配慮をすることができること。	
到達目標	①臨床仮説を考えることができる ②選考文献により仮説の位置を理解し確定できる ③仮説を証明する研究計画を立てることができる ④実際に実験を遂行することができる ⑤臨床データを解析し結果を意味づけることができる ⑥結果から臨床的な提言を導き出すことができる ⑦倫理的手続きが実行できる	
成績評価方法・基準	先行文献の検討、研究計画立案、実験実施、データ処理、論文のできばえが80%、論文の内容についての口頭試問が20%で評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究の進度に応じるが、最低でも週当たり3時間の学習は必要で、実験に入ると週当たり5~6時間は学習が必要である	
教科書・参考書	特に指定しないが、テーマ関連の文献や成書の通読は必須とする	
オフィス・アワー	各指導日の前後15分 (mit-sato@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意	# 相互に確認したロードマップに沿って研究が進められるよう、指導教員とコミュニケーションをとり、努力すること # 修士では学術上の新奇性は求められないが、仮説証明の作業過程の正しさと誠実さは求められる	

講義科目名称： 総合作業療法学特論

授業コード： M6040

英文科目名称： Advanced Occupational Therapy

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
石井 良和	村田・竹原	南・宮寺	馬場・吉岡・近藤

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 人間作業モデルとシステム論	石井良和
	第2回 精神領域における作業療法史と作業機能障害	石井良和
	第3回 精神領域における作業機能障害と人間作業モデル	石井良和
	第4回 高齢期における作業機能障害のとりえ方	村田和香
	第5回 高齢期作業作業法のリーズニング	村田和香
	第6回 高齢者の健康に対する作業療法の実践と理論	竹原敦
	第7回 認知症の人と家族に対する作業療法の実践と理論	竹原敦
	第8回 在宅支援の実践技術開発（理論）	南征吾
	第9回 在宅支援の実践技術開発（実践）	南征吾
	第10回 社会的弱者をとりまく環境と健康	宮寺寛子
	第11回 社会的弱者における環境と健康の相互作用	宮寺寛子
	第12回 発達領域における家族・兄妹支援について考える	吉岡和哉
	第13回 特別支援教育における作業療法の実践	吉岡和哉
	第14回 障害者の就業生活に関連する要因	馬場順子
	第15回 最新のエビデンスから医療または地域社会における作業療法介入の可能性を考える	近藤健
科目の目的	作業機能障害という概念を理解し、複雑な要因の関連が各領域におけるクライアントの作業機能障害をどのように引き起こし、また、治療的变化にもなりうる可能性を考えることによって、先進・高度化する各専門分野の基本的技術を提供する実践能力を涵養する。	
到達目標	1. 作業機能障害をもたらす個人的要因および環境的要因をシステム論として理解できるようになる。 2. 高齢障害、発達障期害、身体障害、精神障害等の各領域における作業機能障害を説明できる。	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	60分程度の復習により講義内容を整理しその展開および可能性を考える	
教科書・参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	各担当教員の講義後の時間帯で対応します。それ以外では次のアドレスにて約束してください。村田和香murata@paz.ac.jp, 石井良和 y-ishii@paz.ac.jp, 竹原敦takehara@paz.ac.jp, 南征吾minami@paz.ac.jp, 吉岡和哉k-yoshioka@paz.ac.jp, 宮寺寛子miyadera@paz.ac.jp, 馬場順子baba@paz.ac.jp, 近藤健kondou@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 総合作業療法学演習

授業コード： M6041

英文科目名称： Practice in Occupational Therapy

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
石井 良和	村田・石井	竹原・南	宮寺・馬場
	吉岡・近藤		

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	第1回 人間作業モデルに関連する文献レビュー	石井良和
	第2回 人間作業モデルに関連する量的研究の吟味	石井良和
	第3回 人間作業モデルに関連する質的研究の吟味	石井良和
	第4回 高齢期障害における文献レビュー	村田和香
	第5回 高齢期障害におけるアウトカム指標	村田和香
	第6回 高齢者及び認知症の人と家族に関する文献レビュー	竹原敦
	第7回 高齢者及び認知症の人と家族に対する実践課題と解決策の批判的吟味	竹原敦
	第8回 総合的作業療法の実践技術に関する文献プレビュー	南征吾
	第9回 在宅支援の実践と質的研究	南征吾
	第10回 社会的弱者における環境と健康の相互作用～環境が作業に及ぼす影響	宮寺寛子
	第11回 社会的弱者における環境と健康の相互作用～アウトカム指標と新たな支援方法の可能性	宮寺寛子
	第12回 発達領域における文献レビュー	吉岡和哉
	第13回 発達領域におけるアウトカム指標の批判的吟味	吉岡和哉
	第14回 障害者の就業生活におけるアウトカム指標の吟味と新たな支援方法の可能性	馬場順子
	第15回 医療または地域社会における作業療法介入の可能性をアウトカム指標を吟味することを通して考える	近藤健
科目の目的	国内外の作業療法文献レビューをもとに具体的な研究計画を立案できる見通しを立てることで、問題の探求・解決を図る高度な研究能力を身につける。	
到達目標	1. 量的研究と質的研究の特徴を説明できる。 2. 作業療法の各領域（高齢期障害、発達障害、身体障害、精神障害等）で使われるアウトカム指標を吟味し、一連の研究プロセスの説明が出来る。 3. 自身の研究計画立案に関して具体的に疑問や解説ができる。	
成績評価方法・基準	レポート100%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	60分程度の復習により講義内容を整理しその展開および可能性を考える	
教科書・参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	各担当教員の講義後の時間帯で対応します。それ以外では次のアドレスにて約束してください。村田和香murata@paz.ac.jp, 石井良和 y-ishi@paz.ac.jp, 竹原敦takehara@paz.ac.jp, 南征吾minami@paz.ac.jp, 吉岡和哉k-yoshioka@paz.ac.jp, 宮寺寛子miyadera@paz.ac.jp, 馬場順子baba@paz.ac.jp, 近藤健kondou@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 作業療法学特別研究

授業コード： M6042

英文科目名称： Occupational Therapy Thesis Guidance

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
村田 和香・石井 良和・竹原 敦・南 征吾	村田 和香 南 征吾	石井 良和	竹原 敦
授業形態	演習		担当者
授業計画	研究論文の完成に向けて 各指導教員により、文献研究、研究デザインの探索、データ収集法の検討、データ収集、データ解析、結果の表記、考察の視点、学会発表などの指導・フィードバックを行う。		村田和香、 石井良和、 竹原敦、南 征吾
科目の目的	本課程で習得した知識を基盤として、指導教員の指導のもとで研究課題を明確にし、学位取得のための研究論文作成を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 関連する領域における文献をレビューし、研究課題を明確にできる。</li> <li>2. 適切な研究デザインを見つけ、研究計画を立案できる。</li> <li>3. データ収集法の検討から実際のデータ収集、解析を行い、論文としてまとめることができる。</li> <li>4. 研究成果を発表することができる。</li> </ol>		
成績評価方法・基準	研究中間発表会および最終的な研究論文の内容で総合的に評価するが、論文のできばえ80%、口頭試問20%を目安とする。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	指導教員の指示に従うとともに、関連論文をよく読むこと。そのための事前準備には最低3時間程度の学習が必要。		
教科書・参考書	とくに指定しないが、各指導教員の指示に従い、テーマ関連の文献をよく読むこと。		
オフィス・アワー	各指導教員と随時指導を受けられるように、事前に次のアドレスにてアポイントメントを取って対応してください。村田和香murata@paz.ac.jp, 石井 良和 y-ishii@paz.ac.jp, 竹原敦takehara@paz.ac.jp, 南 征吾minami@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意			

講義科目名称： コミュニケーション障害学特論

授業コード： M6043

英文科目名称： Communicative Disorders Thesis Guidance

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
白坂 康俊	神山 政恵		

授業形態	講義（アクティブラーニングを含む）	担当者
授業計画	1回 ICFの意味 2回 医療モデルと社会モデル 3回 機能レベルの評価 4回 活動レベルの評価 5回 参加レベルの評価 6回 聴覚の機能評価と生活・参加上の課題 加齢性難聴と認知症を含む 7回 失語症のICF評価 機能評価 8回 失語症のICF評価 活動と参加 9回 認知症のICF評価 機能評価 10回 認知症のICF評価 活動と参加 11回 発声発語障がいのICF評価 機能評価 12回 発声発語障がいのICF評価 活動と参加 13回 摂食嚥下障がいのICF評価 機能評価 14回 摂食嚥下障がいのICF評価 活動と参加 15回 ICF評価から社会モデルにそった共生の街づくりへ	
科目の目的	コミュニケーションの障がいは、障がいを持つ方の機能制限だけから発生するものではなく、コミュニケーション相手との相互関係によって生じる。その相手は、家族や友人・知人などのほかに社会生活をするためには、不特定多数の人も含まれる。そのためには、コミュニケーション上の課題とは、障がい者個人の課題のみならず、社会の側の課題も含むものであり、そこまで評価するのがICFにそった評価であることを理解する。	
到達目標	ICFにそった的確な評価と、それに基づく個人的要因と環境的要因についての的確な支援プログラムを立案できる。同時に現状でのICFの課題についても理解できる。	
成績評価方法・基準	筆記試験ならびに口頭試問	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1時間の予習、小レポート提出による復習	
教科書・参考書	なし	
オフィス・アワー	授業後	
履修条件・履修上の注意		



講義科目名称： 病態検査解析学

授業コード： M6044

英文科目名称： Analytical Clinical Pathology

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
藤田 清貴	藤田・長田	亀子・松下	高橋克・岡山
	林・木村鮎		

授業形態	講義	担当者	
授業計画	第1回	イントロダクション, 免疫化学検査データからの病態解析	藤田 清貴
	第2回	血液学検査データからの病態解析 (1)	林 由里子
	第3回	血液学検査データからの病態解析 (2)	林 由里子
	第4回	臨床化学検査データからの病態解析 (1)	松下 誠
	第5回	臨床化学検査データからの病態解析 (2)	松下 誠
	第6回	遺伝子情報検査データからの病態解析 (1)	長田 誠
	第7回	遺伝子情報検査データからの病態解析 (2)	長田 誠
	第8回	電気泳動・質量分析からの病態解析 (1)	木村 鮎子
	第9回	電気泳動・質量分析からの病態解析 (2)	木村 鮎子
	第10回	培養細胞による病態解析と検証法 (1)	高橋 克典
	第11回	培養細胞による病態解析と検証法 (2)	高橋 克典
	第12回	病理組織検査データからの病態解析 (1)	岡山 香里
	第13回	病理組織検査データからの病態解析 (2)	岡山 香里
	第14回	生体分子情報検査データからの病態解析 (1)	亀子 光明
	第15回	生体分子情報検査データからの病態解析 (2)	亀子 光明
科目の目的	臨床検査データから各種疾患の病態を解析するための技術・方法論とその意義について学ぶ (オムニバス方式)。		
到達目標	1. 各種疾患における病態と臨床検査データとの関連性について説明できる。 2. 臨床検査の異常データから病態を推測し, さらに進めるべき検査および病態解析法について説明できる。		
成績評価方法・基準	レポート50%、討論内容50%により評価する。レポートは返却しない。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1～2時間予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書・参考書	教科書：特になし。 参考書：特になし。 必要に応じて資料を配布する。		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の講義終了後に対応する。		
履修条件・履修上の注意	講義中は携帯電話の電源を切ること		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
藤田 清貴	高橋 克典		

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション, 血清蛋白異常症 (1) 血清蛋白異常症に関する基礎知識	藤田 清貴
	第2回 血清蛋白異常症 (2) 血清蛋白異常症の分析法	藤田 清貴
	第3回 蛋白質の分離・精製法 (1) 蛋白質の分離・精製法の種類と各理論, 蛋白質の分離・精製の進め方	藤田 清貴
	第4回 抗体の分離・精製法 (2) 血清中からのIgG, IgA, IgM, IgD, IgE免疫グロブリンの精製法	藤田 清貴
	第5回 異常蛋白の分離・精製法 (1) 血清, 尿中からの異常蛋白の分離・精製の進め方	藤田 清貴
	第6回 各種電気泳動分析法 (1) 免疫電気泳動法・免疫固定電気泳動法を用いた病態解析	藤田 清貴
	第7回 各種電気泳動分析法 (2) SDS-PAGE・Western blotting法を応用した病態解析	藤田 清貴
	第8回 異常蛋白の分子構造解析法 電気泳動分析による異常蛋白の分子構造解析例	藤田 清貴
	第9回 蛋白質電気泳動分析法 (1) Western blottingの基本原理	高橋 克典
	第10回 蛋白質電気泳動分析法 (2) 癌免疫分野におけるWestern blottingの活用法	高橋 克典
	第11回 蛋白質電気泳動分析法 (3) Western blottingを利用した免疫細胞内シグナル解析法	高橋 克典
	第12回 サイトカイン蛋白解析法 (1) 主なサイトカイン蛋白の種類と解析法	高橋 克典
	第13回 サイトカイン蛋白解析法 (2) ELISA法、Real-timePCR法などによるサイトカインの定量	高橋 克典
	第14回 レポーター遺伝子アッセイによる核内蛋白質の解析法 リポフェクション法、ルシフェラーゼアッセイなど	高橋 克典
	第15回 蛋白質解析と創薬 サイトカインを指標とした創薬スクリーニングの実践例	高橋 克典
科目の目的	生体の病変は血清蛋白に反映され, また血清蛋白の量的, 質的变化は生体に変調を来すことから, 血清蛋白異常を見逃すことなくとらえ, 適切に検索をすすめることは患者の病態を正しく把握する上できわめて重要である。本特論では, 免疫化学的手法を用いた抗原・抗体分離精製法, 異常蛋白の分子構造解析などの分析技術についての理論や血清蛋白異常症の検査法および解析手順について教授する。また, 異常免疫グロブリンが体液性成分と結合, あるいは相互作用によって測定系に影響を及ぼす異常蛋白例について対処できる能力を育成する。さらに, 蛋白電気泳動分析, 質量分析により得られるデータから病態解析するための応用研究について教授する。	
到達目標	1. 各種分離・精製法および電気泳動分析法の知識と技術を理解し異常蛋白の解析ができる。 2. 異常蛋白の知識と解析法を習得し病態を反映しない異常値に対処できる。 3. 蛋白電気泳動分析, 細胞質内・核内蛋白解析法の原理を理解し, 得られた情報から病態解析できる	
成績評価方法・基準	レポート50%、討論内容50%により評価する。レポートは返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1～2時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書：特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書：藤田清貴：臨床検査で遭遇する異常蛋白質—基礎から発見・解析法まで（医歯薬出版）	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の講義終了後に対応する。	
履修条件・履修上の注意	講義中は携帯電話の電源を切ること	

講義科目名称： 病態免疫化学検査学演習

授業コード： M6046

英文科目名称： Practice in Pathological Immunology

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
藤田 清貴	高橋 克典		

授業形態	演習	担当者	
授業計画	第1回	イントロダクション，症例検討会：臨床検査データの謎解き（1）	藤田 清貴
	第2回	症例検討会：臨床検査データの謎解き（2）	藤田 清貴
	第3回	関連研究論文の講読および発表討論会（1）	藤田 清貴
	第4回	関連研究論文の講読および発表討論会（2）	藤田 清貴
	第5回	関連研究論文の講読および発表討論会（3）	藤田 清貴
	第6回	関連研究論文の講読および発表討論会（4）	藤田 清貴
	第7回	関連研究論文の講読および発表討論会（5）	藤田 清貴
	第8回	関連研究論文の講読および発表討論会（6）	藤田 清貴
	第9回	関連研究論文の講読および発表討論会（7）	高橋 克典
	第10回	関連研究論文の講読および発表討論会（8）	高橋 克典
	第11回	関連研究論文の講読および発表討論会（9）	高橋 克典
	第12回	関連研究論文の講読および発表討論会（10）	高橋 克典
	第13回	関連研究論文の講読および発表討論会（11）	高橋 克典
	第14回	関連研究論文の講読および発表討論会（12）	高橋 克典
	第15回	関連研究論文の講読および発表討論会（13）	高橋 克典
科目の目的	血清蛋白異常症に関する検査法の基礎的技術や質量分析などの新しい検査技術とその意義を教授し，病因・病態解析ができる応用能力を育成するとともに，臨床検査の実践の場で異常値や異常反応に対応できる基礎知識と応用技術を習得させる。また，研究内容に関連する文献講読と指導教員を交えた討論より研究を進めるための基礎的能力を養う。		
到達目標	1. 異常蛋白血症の病態と検査値との関連性，および質量分析の技術・活用法を理解し病態解析ができる。 2. 関連研究論文を読み，討論を通して実践的な研究を進めることができる。		
成績評価方法・基準	レポート50%、討論内容50%により評価する。レポートは100点を基準に採点後返却する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1～2時間予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書・参考書	教科書：特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書：藤田清貴：臨床検査で遭遇する異常蛋白質—基礎から発見・解析法まで（医歯薬出版）		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。		
履修条件・履修上の注意	演習中は携帯電話の電源を切ること		

講義科目名称： 遺伝子情報検査学特論

授業コード： M6047

英文科目名称： Advanced Genom Informatics

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
長田 誠			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 医学的基礎知識① 生化学，解剖学，血液学，臨床病態学	長田 誠
	第2回 医学的基礎知識② 分子生物学，遺伝子工学，人類遺伝学	長田 誠
	第3回 遺伝子関連検査に必要な知識① ラボラトリーセーフティ，機器の取り扱い，試薬の調製	長田 誠
	第4回 遺伝子関連検査に必要な知識② 検体の取り扱い，精度管理，法律・倫理	長田 誠
	第5回 臨床遺伝学的検査 疾患関連遺伝子の同定，検査結果の解釈，検査の利用	長田 誠
	第6回 遺伝子関連検査の技術① 遺伝子関連検査の分類，動物，植物の遺伝子解析	長田 誠
	第7回 遺伝子関連検査の技術② 核酸増幅，検出技術	長田 誠
	第8回 遺伝学的検査の実践① 遺伝医療，家系図の書き方，実践	長田 誠
	第9回 遺伝学的検査の実践② ウェブ上で得られる遺伝子に関連した情報，実践	長田 誠
	第10回 遺伝子関連検査結果の評価① 感染症，血液疾患	長田 誠
	第11回 遺伝子関連検査結果の評価② 固形腫瘍，主な単一遺伝子疾患	長田 誠
	第12回 遺伝子関連検査結果の評価③ 生活習慣病，個人識別，再生医療，ファーマコゲノミクス	長田 誠
	第13回 染色体検査の技術と実践 構造と機能，分類と核型記載法，染色体地図，細胞培養法，標本作製，染色法，核型分析，FISH法，マイクロアレイ染色体検査	長田 誠
	第14回 染色体検査結果の評価 染色体異常の種類，腫瘍と染色体異常，環境変異原と染色体異常，実践	長田 誠
	第15回 インターネットを用いた情報収集 遺伝子解析技術を構築するための情報収集，実践	長田 誠
科目の目的	遺伝子の構造と遺伝情報の伝達や発現調整のメカニズムを知り，分子生物学的解析（遺伝子分析）技術を用いて臨床診断する手法を理解する．最新の遺伝子関連検査技術を応用した研究の構築や結果の解釈などが出来る能力を育成する．	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 遺伝子の構造と発現調節メカニズムを理解し説明できる．</li> <li>・ 最新の遺伝子関連検査について理解し説明できる．</li> <li>・ 研究に用いるための遺伝子解析技術を構築できる．</li> <li>・ 研究に用いるための遺伝子関連検査を構築できる．</li> <li>・ 遺伝情報の倫理的取り扱いを理解し説明できる．</li> </ul>	
成績評価方法・基準	レポート50%，討論内容50%により成績を評価する．レポートは100点満点を基準に採点し返却しない．	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について約1時間予習復習を行い，理解を深めること．	
教科書・参考書	教科書：なし 参考書1：「遺伝子検査技術-遺伝子分析科学認定士テキスト-改訂第2版」克誠堂出版 参考書2：「トンプソン&トンプソン 遺伝医学」メディカル・サイエンス・インターナショナル	
オフィス・アワー	講義終了後質問を受け付ける．個別の相談は事前連絡にて対応する（osada@paz. ac. jp）．	
履修条件・履修上の注意	特になし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
長田 誠			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 DNAの構造と機能 DNAの構造と機能について詳細に学ぶ。	長田 誠
	第2回 遺伝学的多様性と変異 遺伝学的多様性と変異について詳細に学ぶとともに、色素性乾皮症、Charcot-Marie-Tooth病について検討する。	長田 誠
	第3回 遺伝形式, ヒトゲノム 遺伝形式, ヒトゲノムについて詳細に学ぶとともに、常染色体劣性遺伝による先天性難聴、Rett症候群、MELASやHuntington病、嚢胞性線維症について検討する。	長田 誠
	第4回 1-3の関連論文、遺伝情報検索 関連論文の講読とインターネットによる遺伝情報検索	長田 誠
	第5回 多因子遺伝 多因子遺伝について詳細に学ぶとともに、肥厚性幽門狭窄症、Alzheimer病、糖尿病について検討する	長田 誠
	第6回 細胞分裂と染色体 細胞分裂と染色体について詳細に学ぶとともに、Down症候群、Turner症候群、22q11.2欠失症候群について検討する。	長田 誠
	第7回 集団遺伝学、がん遺伝学 集団遺伝学、がん遺伝学を詳細に学ぶとともに、鎌状赤血球症、Tay-Sachs病や網膜芽細胞腫、遺伝性大腸がんについて検討する	長田 誠
	第8回 5-7の関連論文、遺伝情報検索 関連論文の講読とインターネットによる遺伝情報検索	長田 誠
	第9回 染色体転座、分子遺伝学的診断 染色体転座、分子遺伝学診断について詳細に学ぶとともに、Wolf-Hirschhorn症候群、4番染色体欠失や神経線維腫症について検討する。	長田 誠
	第10回 新生児スクリーニング、発生遺伝学 新生児スクリーニング、発生遺伝学について詳細に学ぶとともに、フェニルケトン尿症やCHARGE症候群を検討する。	長田 誠
	第11回 がん発生リスク、薬理遺伝学、遺伝性疾患の治療に対する遺伝学的検査 がん発生リスク、薬理遺伝学、遺伝性疾患の治療に対する遺伝学的検査について詳細に学ぶとともに、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群やファーマコゲノミクスについて検討する。	長田 誠
	第12回 関連研究論文の講読① 関連研究論文の原著講読①	長田 誠
	第13回 関連研究論文の発表検討会① 関連研究論文の講読内容について発表討論①	長田 誠
	第14回 関連研究論文の講読② 関連研究論文の原著講読②	長田 誠
	第15回 関連研究論文の発表検討会② 関連研究論文の講読内容について発表討論②	長田 誠
科目の目的	遺伝医学の最新情報を駆使するためには、遺伝医学、臨床遺伝学の知識を持ち、情報を適切に処理する能力が必要である。前半では、それぞれの症例を含めながら臨床遺伝学を学び遺伝情報の知識を蓄積する。後半は、関連する研究論文を講読し、簡潔にまとめる的確に発表する能力を養う。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>• DNA構造と機能、遺伝の多様性と遺伝形式を理解し説明できる。</li> <li>• 細胞分裂と染色体、遺伝の法則を理解し説明できる。</li> <li>• それぞれの疾患を含め、臨床遺伝医学を理解し説明できる。</li> <li>• 研究に必要な論文講読と、論点を的確に整理し発信する能力を身につける。</li> </ul>	
成績評価方法・基準	講読論文の発表討論内容80%、各症例のレポート20%により成績を評価する。レポートは100点を基準とし、採点後返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について約1時間予習復習を行い、理解を深めること。	

教科書・参考書	教科書：使用しない。便宜資料を配付する。 参考書：「コルブ臨床遺伝医学 原書4版」 丸善出版 参考書1：「一目でわかる臨床遺伝学 第2版」 メディカル・サイエンス・インターナショナル 参考書2：「バイオリソース&データベース活用術」 秀潤社
オフィス・アワー	講義終了後質問を受け付ける。個別の相談は事前連絡にて対応する (osada@paz. ac. jp) 。
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
林 由里子			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 貧血と血液疾患（1） 貧血総論、骨髄不全、骨髄浸潤による貧血	林 由里子
	第2回 貧血と血液疾患（2） 鉄代謝（欠乏と過剰）、巨赤芽球性貧血、慢性疾患に伴う続発性貧血	林 由里子
	第3回 貧血と血液疾患（3） サラセミア、鎌状赤血球症、赤血球膜または赤血球代謝異常による溶血性貧血	林 由里子
	第4回 貧血と血液疾患（4） 後天性溶血性貧血、赤血球増加症	林 由里子
	第5回 止血と血栓症（1） 止血総論、血小板異常症	小河原 はつ江
	第6回 止血と血栓症（2） 遺伝性凝固異常症	小河原 はつ江
	第7回 止血と血栓症（3） 後天性血液凝固異常症	小河原 はつ江
	第8回 止血と血栓症（4） 血栓性疾患	小河原 はつ江
	第9回 白血球系疾患（1） 白血球の機能と非腫瘍性白血球系疾患	小河原 はつ江
	第10回 白血球系疾患（2） 造血器腫瘍（序説）	小河原 はつ江
	第11回 白血球系疾患（3） 骨髄増殖性疾患、骨髄異形性症候群	小河原 はつ江
	第12回 白血球系疾患（4） 急性白血病	小河原 はつ江
	第13回 白血球系疾患（5） 非ホジキンリンパ腫および慢性リンパ性白血病	小河原 はつ江
	第14回 白血球系疾患（6） 多発性骨髄腫および類縁疾患	小河原 はつ江
	第15回 輸血医学 輸血と造血幹細胞移植について	林 由里子
科目の目的	血液には造血幹細胞より分化・成熟した赤血球、白血球、血小板の3系統の細胞が存在し、凝固・線溶因子及びその制御因子を含む血漿成分とともに流動性を保ちつつ全身を循環している。病態血液検査学特論では各種血液疾患の病態を理解し、検査データからの解析能力を向上させることを目的とする。	
到達目標	血液疾患の病態を理解し、付加価値をもった情報提供ができる。病態血液検査学分野における最近の動向を理解する。	
成績評価方法・基準	レポート100点にて評価する。レポートは返却する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に配布する英文資料を和訳しておくこと。（60分程度）	
教科書・参考書	教科書：特になし。血液疾患の病態生理に関する英文書籍「Pathophysiology of Blood Disorders」 H. Franklin Bunn & J C Aster著, McGraw Hill社刊の一部をプリントして配布する。 参考書：WHO分類改訂第4版による白血病・リンパ系腫瘍の病態学 木崎昌弘編著、中外医学社、2019	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の質問は事前の連絡により随時対応する。 小河原 ogawara@paz. ac. jp 林 hayashi@paz. ac. jp	
履修条件・履修上の注意	特になし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
林 由里子			

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 形態学的分析法 オリエンテーションおよび末梢血液像・骨髓像の見方、考え方、レポートの書き方について説明する。	小河原はつ江
	第2回 形態学的分析法 骨髓像 (1) 症例1. 骨髓像判定	小河原はつ江
	第3回 形態学的分析法 骨髓像 (2) 症例2. 骨髓像判定	小河原はつ江
	第4回 形態学的分析法 骨髓像 (3) 症例3. 骨髓像判定	小河原はつ江
	第5回 形態学的分析法 骨髓像 (4) 症例4. 骨髓像判定	小河原はつ江
	第6回 形態学的分析法 骨髓像 (5) 症例5. 骨髓像判定	小河原はつ江
	第7回 形態学的分析法 骨髓像 (6) 判定した5症例の骨髓像について判定結果をとりまとめ、口頭で発表する。	小河原はつ江
	第8回 フローサイトメトリー法に関する演習 (1) フローサイトメトリーの原理およびリンパ球サブセット測定について	林 由里子
	第9回 フローサイトメトリー法に関する演習 (2) Th1/Th2比測定法について	林 由里子
	第10回 フローサイトメトリー法に関する演習 (3) 制御性T細胞測定法について	林 由里子
	第11回 フローサイトメトリー法に関する演習 (4) 末梢血幹細胞の同定について	林 由里子
	第12回 論文講読1 図書館にある英文雑誌Blood、他より研究に関連する原著論文を検索し、内容をまとめる。	小河原はつ江 林由里子
	第13回 論文講読2 第12回でまとめた原著論文について発表・討論	小河原はつ江 林由里子
	第14回 論文講読3 文献検索システムPubMedなどでさらに関連論文を検索し、内容をまとめる。	小河原はつ江 林由里子
	第15回 論文講読4 第14回でまとめた原著論文について発表・討論	小河原はつ江 林由里子
科目の目的	最新の血液検査学における分析技術、研究方法を学ぶ。また、血液像および骨髓像を読むことができ、CBCデータや各種検査結果も含めて、的確な情報を提供できる知識・技術を学ぶ。	
到達目標	1) 血液像・骨髓像の報告ができる。 2) フローサイトメトリー法による細胞解析技術を学ぶ。	
成績評価方法・基準	レポート50点および口頭発表内容50点で評価する。レポートは返却する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に内容を把握し、関連事項を調べておくことを勧める。30分～60分程度。	
教科書・参考書	教科書：指定せず。プリントを配布し、適宜紹介する。 参考書1：検査と技術増刊号「血液形態アトラス」検査と技術 vol.13, No.10, 2015 (医学書院) 参考書2：スタンダードフローサイトメトリー第2版 日本サイトメトリー技術者認定協議会編, 2017 (医歯薬出版)	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の質問は事前の連絡により随時対応する。 小河原 ogawara@paz.ac.jp 林 hayashi@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意	実験室では白衣および上履きを着用する。その他は特になし。	



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
松下 誠	亀子 光明	木村 鮎子	

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 酵素 1	松下
	第2回 酵素 2	松下
	第3回 酵素 3	松下
	第4回 酵素 4	松下
	第5回 酵素5	松下
	第6回 酵素 6	松下
	第7回 電気泳動を用いたタンパク質の解析	木村
	第8回 電気泳動を用いた翻訳後修飾・タンパク質複合体解析	木村
	第9回 電気泳動を用いた病態解析	木村
	第10回 質量分析を用いたタンパク質の解析	木村
	第11回 質量分析を用いた翻訳後修飾・タンパク質複合体解析	木村
	第12回 質量分析を用いた病態解析	木村
	第13回 低分子蛋白の変動	亀子
	第14回 RBP 4 によるビタミンAの体内輸送	亀子
	第15回 栄養アセスメント蛋白と糖尿病における変動	亀子
科目の目的	1. 生体成分に含まれる微量タンパク質，尿中低分子タンパク質の生理学的変動を解析し，健康状態からの逸脱が生じた時に，これらの成分がどのように変動するかを学ぶ。 2. 細胞内情報伝達機構，シグナル伝達におけるの異常と疾患との関係を学ぶ。 3. 様々な生体分子の変動により引き起こされる疾患について学ぶ。 3. 各種の生体分子の解析法，定量方法を探求する。	
到達目標	1. 生体成分の生理学的変動（個体間・個体内変動）の解析ができる。 2. 細胞内情報伝達機構の異常と疾患との関連を説明できる。 3. 疾患に関連する有用な微量成分の解析と測定ができる。	
成績評価方法・基準	レポート（70%），課題テーマの作成（30%）から総合的に評価する。レポートは返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1～2 時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：なし 必要に応じ資料を配布する。	
オフィス・アワー	松下：随時質問を受ける。（??????@paz. ac. jp） 亀子：随時質問を受ける。（kameko@paz. ac. jp） 木村：随時質問を受ける。（ay-kimura@paz. ac. jp）	
履修条件・履修上の注意	修士課程1年で，研究を開始する前に受講することが望ましい。	

講義科目名称： 生体分子情報検査学演習

授業コード： M6052

英文科目名称： Practice in Biological Molecular Informatics

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
松下 誠	亀子 光明	木村 鮎子	

授業形態	演習	担当者
授業計画	第1回 酵素測定技術 1	松下
	第2回 酵素測定技術2	松下
	第3回 酵素測定技術3	松下
	第4回 酵素測定技術4	松下
	第5回 酵素測定技術5	松下
	第6回 酵素測定技術6	松下
	第7回 電気泳動技術 1	木村
	第8回 電気泳動技術2	木村
	第9回 電気泳動技術3	木村
	第10回 質量分技術 1	木村
	第11回 質量分技術 2	木村
	第12回 質量分技術 3	木村
	第13回 血漿蛋白の分析法と検出方法	亀子
	第14回 レチノール蛋白4 (retinol-binding protein 4 ; RBP) の解析方法	亀子
	第15回 トランスサイレチン (transthyretin ; TTR) の解析方法	亀子
科目の目的	生体に影響を及ぼす様々な生体分子について、その生体分子の構造異常、シグナルの伝達方法、各種疾患により起こるその変動などを講義し、解析に必要な測定系の設計ができる能力や病態解析に有用となる生体分子の解析より臨床応用への対応ができる能力も習得させる。また、研究内容に関連する文献講読と指導教員との討論により研究の進め方の基礎的能力を養う。	
到達目標	1. 生体分子蛋白を分析、測定し、得られたデータを使って解析を行い、その結果から臨床応用への評価ができる。 2. 生体分子の構造異常、シグナルの伝達の異常により引き起こされる病態の解析が出来る。 3. 測定方法の技術を習得する。	
成績評価方法・基準	レポート (60%, ) 課題テーマ作成 (40%) から総合的に評価する。レポートは返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布する資料を読み数時間予習をし、講義後は1時間復習する。	
教科書・参考書	教科書：特に使用せず、適宜、資料を事前配布する。 参考書：岡田雅人/宮崎 香 (編) 改訂第4版 タンパク質実験ノート上・下 (羊土社)	
オフィス・アワー	松下：随時質問を受ける。(??????@paz. ac. jp) 亀子：随時質問を受ける。(kameko@paz. ac. jp) . 木村：随時質問を受ける。(ay-kimura@paz. ac. jp) .	
履修条件・履修上の注意	実験に際しては、整理整頓に心がける。	

講義科目名称： 組織細胞検査技術学特論

授業コード： M6053

英文科目名称： Advanced Clinical Laboratory Pathology

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
岡山 香里			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 女性生殖器疾患① 外陰、子宮腔部の病変における組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第2回 女性生殖器疾患② 子宮頸部の非腫瘍性病変における組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第3回 女性生殖器疾患③ 子宮頸部の腫瘍性病変における組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第4回 女性生殖器疾患④ 子宮体部および卵巣の病変における組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第5回 呼吸器疾患① 呼吸器の非腫瘍性病変における組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第6回 呼吸器疾患② 呼吸器の腫瘍性病変における組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第7回 消化器疾患① 食道および胃における病変の組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第8回 消化器疾患② 小腸および大腸における病変の組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第9回 消化器疾患③ 肝臓、胆嚢、膵臓における病変の組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第10回 乳腺疾患 乳腺における非腫瘍性および腫瘍性疾患の組織細胞学的特徴	岡山 香里
	第11回 病理組織細胞検査学実践① 免疫組織化学染色法	岡山 香里
	第12回 病理組織細胞検査学実践② 核酸抽出法	岡山 香里
	第13回 病理組織細胞検査学実践③ in situ hybridization法	岡山 香里
	第14回 関連研究論文の講読 関連研究原著論文の講読	岡山 香里
	第15回 関連研究論文の発表討論会 関連研究論文の講読内容について発表・討論	岡山 香里
科目の目的	本特論では、各臓器における疾患の特徴を追究し理解を深め、疾病の本態を考察する。また、論文を精読し、病理学および細胞診断学における研究デザインやデータ解析法を教授する。	
到達目標	各臓器における腫瘍の特徴を理解し、説明できる。 病理細胞診に関連した研究手法を理解し、説明できる。	
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと課題提出状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価。レポートは返却する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1～2時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書：特になし。 参考書：特になし。 必要に応じて資料を配布する	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。岡山：okayama@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 組織細胞検査技術学演習

授業コード： M6054

英文科目名称： Clinical Laboratory Pathology Practice

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
岡山 香里			

授業形態	演習	担当者	
授業計画	第1回	オリエンテーション	岡山 香里
	第2回	関連研究論文の講読および発表討論会1	岡山 香里
	第3回	関連研究論文の講読および発表討論会2	岡山 香里
	第4回	関連研究論文の講読および発表討論会3	岡山 香里
	第5回	関連研究論文の講読および発表討論会4	岡山 香里
	第6回	関連研究論文の講読および発表討論会5	岡山 香里
	第7回	関連研究論文の講読および発表討論会6	岡山 香里
	第8回	関連研究論文の講読および発表討論会7	岡山 香里
	第9回	関連研究論文の講読および発表討論会8	岡山 香里
	第10回	関連研究論文の講読および発表討論会9	岡山 香里
	第11回	関連研究論文の講読および発表討論会10	岡山 香里
	第12回	関連研究論文の講読および発表討論会11	岡山 香里
	第13回	関連研究論文の講読および発表討論会12	岡山 香里
	第14回	関連研究論文の講読および発表討論会13	岡山 香里
	第15回	関連研究論文の講読および発表討論会14	岡山 香里
科目の目的	本演習では、免疫組織化学および分子物学的手法に基づいた解析から、形態学へフードバックさせる意義や技術を教授し、病態解析ができる応用能力を育成する。また、病理細胞診断学分野に関する論文講読と、指導教員を交えた討論により、研究を進めるための基礎的能力を養う。		
到達目標	1. 免疫組織化学および分子生物学的手法に基づいた病態解析ができる。 2. 関連研究論文の講読、討論を通して実践的な研究を進めることができる。		
成績評価方法・基準	レポート50%、討論内容50%により評価する。レポートは100点を基準に採点后返却する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1時間予習・復習を行い理解しておくこと。		
教科書・参考書	教科書：特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。 参考書：特になし。		
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する (okayama@paz.ac.jp)。		
履修条件・履修上の注意	特になし。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
荒木 泰行			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 生殖医療概論 現在行われている生殖医療、とりわけ不妊症治療の国内、国外の様子を含めた広範囲の概論。	荒木泰行
	第2回 体外受精 国内外における体外受精の概要と治療原理。	荒木泰行
	第3回 配偶子の発生（精子） 原始生殖細胞から成熟精子完成までの発生・分化学を学ぶ。	荒木泰行
	第4回 配偶子の発生（卵子） 原始生殖細胞から成熟卵子までの発生・分化学を学ぶ。	荒木泰行
	第5回 内分泌（1） 精子の生殖に関する中枢一下垂体一性腺のホルモン関係を学ぶ。	荒木泰行
	第6回 内分泌（2） 卵子の生殖に関する中枢一下垂体一性腺のホルモン関係を学ぶ。	荒木泰行
	第7回 胚発生 受精後の分割卵の発生、着床メカニズムを学ぶ。	荒木泰行
	第8回 凍結技術学（1） 精子に関する凍結の理論と実際を学ぶ。	荒木泰行
	第9回 凍結技術学（2） 卵子に関する凍結の理論と実際を学ぶ。	荒木泰行
	第10回 凍結技術学（3） 受精卵（胚）に関する凍結の理論と実際を学ぶ。	荒木泰行
	第11回 培養技術（1） 未成熟配偶子（精子）の培養に対する概論を学ぶ。	荒木泰行
	第12回 培養技術（2） 未成熟配偶子（卵子）の培養に対する概論を学ぶ。	荒木泰行
	第13回 染色体異常 （精子）染色体の構造、異常、分化過程の概念を学ぶ。	荒木泰行
	第14回 （卵子）染色体の構造、異常、分化 卵子の染色体の構造、異常、分化の概念を学ぶ。	荒木泰行
	第15回 総合討論 全般の概念から学んだ点を整理して生殖医療の問題点と将来を展望する。	荒木泰行
科目の目的	学部で学んだ生殖医療の概念を構築できることを目的とする。 学部で生殖技術学科を学んでこない学生も含まれると考えられるので、他学科からの進学大学院生にも理解できることを目的に生殖医学の一般論が分かることを目的とする。 ディプロマーポリシーとの関連： 1) 生殖医療分野の諸課題に関する科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力 2) 先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力	
到達目標	体外受精を中心とした生殖補助医療の広範囲の関連学問を修得することを目標とする。	
成績評価方法・基準	講義参加時の積極的なDiscussionの内容にて評価する（100%）。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行って下さい。 準備学習に必要な学習時間の目安は 1 コマあたり 1 時間とします。	
教科書・参考書	教科書：なし 参考書：「生殖補助医療テキスト」 荒木康久著（医歯薬出版）	
オフィス・アワー	月～金の午前午後の時間帯で教員室に滞在している時間なら何時でも対応可能ですが、事前に連絡下さい（y-araki@paz.ac.jp）。	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 生殖補助医療技術学演習

授業コード： M6056

英文科目名称： Practice in Assisted Reproductive Technology

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
荒木 泰行			

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>第1回 体外受精 体外受精の実際の様子を習得できるよう各論的に各部の内容を講義する。</p> <p>第2回 顕微授精（ICSI） 特殊な受精法（卵細胞内精子注入法）を含めた講義をする。</p> <p>第3回 受精に関する生理学 精祖細胞/卵原細胞から成熟した精子までの分化過程を学ぶ。</p> <p>第4回 内分泌 卵巣機能/精巣機能を理解する各論的講義で学ぶ。</p> <p>第5回 胚発生 受精の仕組みと胚発生（分化）を各論的に学ぶ。</p> <p>第6・7回 凍結技術の応用 概論で学んだ基礎知識をベースに凍結分野で臨床応用されている各論を学ぶ。技術を習得。</p> <p>第8・9回 凍結技術の応用 未受精卵、余剰卵、卵巣組織におよぶ凍結技術が臨床応用されている各論を学ぶ。</p> <p>第10・11回 体外受精法 マウスの卵子、精子を用いたIVF実技</p> <p>第12・13回 顕微授精操作法 マウス卵子を用いた顕微授精、マニピレーター操作技術</p> <p>第14回 染色体分析法の理論と実技 臨床に役立てられている染色体の現状を学ぶ。</p> <p>第15回 総合討論 特論で学んだ中から各自が選択した課題をpresentationして多角的に討論する。</p>	<p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p> <p>荒木泰行</p>
科目の目的	<p>生殖医療として行われている技術の理論を学ぶとともに、それぞれの技術を中心とした臨床応用までを理解できることを目標にする。 ディプロマーポリシーとの関連： 1) 生殖医療分野の諸課題に関する科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力 2) 先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力</p>	
到達目標	<p>生殖医療として行われている技術の現況をとおして臨床に何が役立てられているか理解できることを目標にする。</p>	
成績評価方法・基準	<p>演習参加時の積極的なDiscussionの内容にて評価する（100%）。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>講義資料をもとに授業該当箇所の予習と復習を行って下さい。 準備学習に必要な学習時間の目安は 1 コマあたり 1 時間とします。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：なし 参考書： 生殖補助医療技術学テキスト 荒木康久著 医歯薬出版 卵子学（総編集 森 崇英）（京都大学出版） 精子学（編集 毛利・森沢・星）（東京大学出版）</p>	
オフィス・アワー	<p>月～金の午前午後の時間帯で教員室に滞在している時間なら何時でも対応可能ですが、事前に連絡下さい（y-araki@paz.ac.jp）。</p>	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 病因・病態検査学特別研究

授業コード： M6059

英文科目名称： Aetiological and Pathological Examination …

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
藤田・長田・亀子・松下・高橋克・岡山・荒木・木村鮎	藤田・長田	亀子・松下	高橋克・岡山
	林・荒木・木村鮎		

授業形態	実験・実習		担当者
授業計画	1年次	4月～9月 指導教員と研究計画書作成 設定したテーマについて研究計画書を作成する。	
	1年次	10月～3月 大学研究倫理審査委員会審査、研究活動の展開指導と進捗状況確認 設定したテーマについて大学の研究倫理審査委員会での承認を得る。 研究計画に沿って自主的に実験・研究を遂行する。	
	2年次	6月 研究中間発表会 研究中間報告会を実施しながらディスカッションを行い、データ解析の仕方や考え方を学ぶ。	
	2年次	～10月 学位論文の草稿に関する指導 図表作成の仕方、論文の書き方などを学び、修士論文の完成に向け、関連文献の検索を行うとともに、研究目的、方法、結果、考察のまとめを行う。	
	2年次	11月 学位論文及び学位論文審査申請書類の提出指導	
	2年次	2月 研究科委員会にて学位論文及び最終試験の可否審査、学位授与判定	
	2年次	3月 博士前期課程修了	
科目の目的	<p>【藤田・木村(鮎)】クロマトグラフィー、二次元電気泳動分析などの最新分離・分析法および免疫化学的手法を駆使しながら生体試料から異常蛋白質を分離・分析し、その性状と発現(あるいは修飾)メカニズムを明らかにすることを目的に研究を行う。</p> <p>【松下】ALPなどのアイソザイムに関する研究を行う。</p> <p>【林】血液細胞をフローサイトメトリなどの解析技術を基盤にして、病態との関連あるい予防医学的観点から研究を行う。</p> <p>【荒木】生殖医療に関する臨床材料から集積したデータを中心に解析・討論を行う、それを通じて考察から結論が得られる過程を学ぶ技術を修得することを目的とする。</p> <p>【亀子】生体内に存在する微量成分の分離・精製とその定量方法を立案し、病態解析を行う上で、如何なる疾患の指標となるかを研究する。</p> <p>【長田】血小板と血管の病因について研究を行う。</p> <p>【高橋克】培養細胞を用いたサイトカイン分析に関する研究を行う。</p> <p>【岡山】HPV感染症及びハイリスク型HPV感染細胞に関する研究を行う。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究テーマを設定し、研究の意義・目的を理解することができる。</li> <li>2. 研究目的を実現するために、自立して研究方法を組み立て、実施することができる。</li> <li>3. 研究中間発表会、ゼミ、各種学会などでプレゼンテーションをすることができる。</li> <li>4. 研究成果を学術論文としてまとめることができる。</li> </ol>		
成績評価方法・基準	研究中間発表会での発表内容(30%)及び研究論文内容(70%)で総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究テーマについて積極的に情報収集を行うとともに、定期的に研究の進捗状況の報告と討論を1～2時間行うこと。		
教科書・参考書	教科書：特になし 参考書：必要に応じて担当指導教員からしじ、もしくはプリントを配布する。		
オフィス・アワー	個別の相談・質問は各担当指導教員が随時対応する。		
履修条件・履修上の注意	自主的かつ責任を持った実験・研究を進めること。		

講義科目名称：放射線教育学特論

授業コード：M6060

英文科目名称：Advanced Radiological Education

対象カリキュラム：2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	講義と演習（討論）15回	担当者
授業計画	<p>以下のテーマについて、関連の文献を収集・要約・発表し、ディスカッションする。</p> <p>第1回 診療放射線学教育の意義① 診療放射線技師の医療・社会における役割</p> <p>第2回 診療放射線学教育の意義② 診療放射線技師の業務拡大の歴史</p> <p>第3回 診療放射線学教育の意義③ 診療放射線技師の業務・養成，学問・教育</p> <p>第4回 診療放射線技師教育とその基盤① 診療放射線技師法，指定規則</p> <p>第5回 診療放射線技師教育とその基盤② 学校教育法，大学設置基準</p> <p>第6回 診療放射線技師教育とその基盤③ 診療放射線技術，診療放射線技師，診療放射線学 《レポート課題：利用専門職者の養成を4年制大学で行うことの意義》</p> <p>第7回 教育組織① ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシー</p> <p>第8回 教育組織② 教員組織</p> <p>第9回 教育組織③ 組織的な運営 《第6回で課したレポートのフィードバック》</p> <p>第10回 診療放射線技師教育① カリキュラム編成法</p> <p>第11回 診療放射線技師教育② 授業計画の立案とその評価</p> <p>第12回 診療放射線技師教育③ 学生の学習活動及び到達度の評価 《レポート課題：模擬試験を実施する時期とその意義》</p> <p>第13回 非専門職者に対する放射線教育 社会人，児童・生徒・学生，医療人</p> <p>第14回 放射線教育学研究 研究対象，研究手法</p> <p>第15回 診療放射線学教育学の基本原則とは 診療放射線学教育学，診療放射線教育学，放射線教育学，… 《第12回授業で課したレポートのフィードバック》</p>	倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦 倉石 政彦
科目の目的	<p>医学の進歩と共に、医療の高度化、細分化、専門化が進み様々な医療専門職としての国家資格が誕生した。近年では、看護師、臨床検査技師、理学療法士、臨床工学技士などのメディカル・スタッフが連携し協働するチーム医療の時代となり、資格制度や教育環境も大きく変化した。医療専門職が、大学院において教育や研究を行う意義に着目し、医療専門職教育の進め方、カリキュラム編成、教育評価について考察し、放射線学における高度職業人養成と高等教育の特質を踏まえた大学学科運営の知識と実践について学ぶ。本科目の学修を通して、ディプロマポリシーに示す「地域保健医療の実践現場で他の分野と連携して社会に貢献できる教育能力」を涵養する。</p>	
到達目標	<p>1 診療放射線技師養成の歴史的背景と法的根拠について説明できる。</p> <p>2 診療放射線技師養成における大学教育の意義及び教育研究について説明できる。</p> <p>3 診療放射線技師養成を行う大学の組織編成及びその運営について説明できる。</p>	
成績評価方法・基準	授業内試験（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 90分、事後学習 90分	
教科書・参考書	教科書：指定しない 参考書：大学教育学 京都大学高等教育研究開発センター編 培風館	
オフィス・アワー	個別に担当教員と連絡を取り適宜実施する。	



履修条件・履修上の注意	将来、診療放射線技師教育に携わる可能性があるもの、大学教員を希望するものは、履修すること。
-------------	---

講義科目名称：放射線教育学演習

授業コード：M6061

英文科目名称：Practice in Radiological Education

対象カリキュラム：2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	演習15回	担当者
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン この科目で学ぶこと、この科目の進め方</p> <p>第2回 文献講読（1） 大学教育に関連した文献の講読、討論</p> <p>第3回 文献講読（2） 医療専門職に関連した文献の講読、討論</p> <p>第4回 文献講読（3） 看護教育に関連した文献の講読、討論</p> <p>第5回 文献講読（4） 診療放射線技師教育に関連した文献の講読、討論</p> <p>第6回 文献講読（5） 診療放射線技師教育に関連した文献の講読、討論 《レポート課題：医療者教育に関連する文献を選定し、レビューしなさい》</p> <p>第7回 基礎課程カリキュラム編成（1） 診療放射線技師養成所指定規則に基づくカリキュラム編成</p> <p>第8回 基礎課程カリキュラム編成（2） 専門学校と大学の設置目的</p> <p>第9回 基礎課程カリキュラム編成（3） 学部教育による診療放射線技師養成カリキュラムの編成 《レポートのフィードバック：第6回授業で課したレポートについての討論》</p> <p>第10回 大学院教育のカリキュラム編成（1） 大学院の目的：大学院で何を学び獲得するか</p> <p>第11回 大学院教育のカリキュラム編成（2） 大学院修士課程（博士前期課程）と後期課程</p> <p>第12回 大学院教育のカリキュラム編成（3） 大学院における診療放射線技師教育カリキュラムの編成 《レポート課題：診療放射線技師教育のカリキュラム編成について》</p> <p>第13回 非専門職者に対する放射線教育（1） 医療人に対する放射線教育カリキュラム</p> <p>第14回 非専門職者に対する放射線教育（2） 小中高校生及び社会人に対する放射線教育カリキュラム</p> <p>第15回 診療放射線学教育学における実践的課題 この科目を通して見出した問題点とその解決方法 《レポートのフィードバック：第12回授業で課したレポートについての討論》</p>	<p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p>
科目の目的	放射線教育学特論で学んだ知識を基に、診療放射線技師を取り巻く環境における専門職としての研究テーマ「放射線教育」に関し文献収集、論文講読を経て、先行研究から、研究デザイン、研究計画、データ収集・処理などの一連の研究方法を実践的に学ぶ。本科目の学習を通して、ディプロマポリシーに示す「保健医療分野、及び公衆衛生学の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力」を培い、併せて「保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力」の涵養を計る。	
到達目標	<p>1 診療放射線技師教育に関連する文献講読後の討論を通して問題点を抽出し、解決するための研究手法を見出すことができる。</p> <p>2 診療放射線技師の基礎教育カリキュラム及び特定の専門に絞ったカリキュラムを作成できる。</p> <p>3 非専門者への放射線教育について、対象に応じたカリキュラムを作成できる。</p>	
成績評価方法・基準	授業内試験（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：文献調査、検討、私案作成 事前学習の時間：2時間程度	
教科書・参考書	必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	随時。夜間・休日については、事前の連絡で対応する。	
履修条件・履修上の注意	積極的に文献収集、文献講読を行うこと。 状況に応じて内容を変更する場合がある。	

講義科目名称：放射線防護学特論

授業コード：M6062

英文科目名称：Advanced Radiological Protection

対象カリキュラム：2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
渡邊 浩			

授業形態	講義（討論を含む）	担当者
授業計画	第1回 放射線防護学特論の概要 放射線防護の概要と履修するために必要な知識や技術について講義する。	渡邊 浩
	第2回 放射線防護体系 ICRPの勧告等に基づく世界的な放射線防護体系について講義する。	渡邊 浩
	第3回 放射線防護法令Ⅰ 放射性同位元素等の規制に関する法律に基づく放射線管理の実際について講義する。	渡邊 浩
	第4回 放射線防護法令Ⅱ 医療法における放射線防護の概要と実際について講義する。	渡邊 浩
	第5回 放射線防護法令Ⅲ 労働法の放射線防護に基づく実際について講義する。	渡邊 浩
	第6回 医療被ばく管理 医療被ばくの適正管理の手法と実際について講義する。	渡邊 浩
	第7回 職業被ばく管理 職業被ばくの安全管理の手法と実際について講義する。	渡邊 浩
	第8回 放射線施設管理 放射線施設の安全管理の実際について講義する。	渡邊 浩
	第9回 放射線業務従事者管理 放射線業務従事者の安全管理の実際について講義する。	渡邊 浩
	第10回 放射線防護領域の研究 放射線防護領域における研究について医療を中心に講義する。	渡邊 浩
	第11回 職業被ばくに関する研究 職業被ばく分野における放射線防護学研究について講義する。	渡邊 浩
	第12回 リスクコミュニケーション リスクコミュニケーションの手法と研究について講義する。	渡邊 浩
	第13回 遮へい計算研究 遮へい計算に関する研究について医療放射線装置を中心に講義する。	渡邊 浩
	第14回 医療被ばくに関する研究 医療被ばくを適正に管理するための研究について講義する。	渡邊 浩
	第15回 放射線防護特論の総括 放射線防護学特論で講義してきた実践と研究について総括して講義する。	渡邊 浩
科目の目的	放射線防護は放射線利用の基盤的学問であり、放射線利用が高度かつ広範囲になるにつれて放射線防護学の重要性が高まる。また、放射線の医療利用である放射線診療にはエックス線診断、核医学および放射線治療があるが、放射線診療を受ける患者の被ばくは医療被ばくであり、放射線診療を実施する医療従事者が受ける被ばくは職業被ばくである。両者の被ばくを合理的に低減、最適化することも放射線防護学の役割である。本科目では放射線防護関係法令を学ぶとともに医療被ばくと職業被ばくの合理的防護手法を学ぶことを目的とする。 また、これらの講義と討論を通して、「DP「保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力」、「保健医療分野の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力」、「先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力」ならびに「地域保健医療の実践現場で他の分野と連携して社会に貢献できる教育能力」を修得する。	
到達目標	1 放射線防護関係法令の基準とその役割を説明できる。 2 放射線防護関係法令を遵守するために必要な知識と技術を説明できる。 3 医療被ばくを合理的に最適化するための手法を説明できる。 4 職業被ばくを合理的に低減するための手法を説明できる。	
成績評価方法・基準	レポート・提出課題（100%）。次回講義で解説する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義前学習90分。講義後学習90分。	
教科書・参考書	必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	個別に担当教員と連絡を取り適宜実施する。	
履修条件・履修上の注意	各回ごとに事前に担当教員と連絡を取り授業準備を行うこと。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
渡邊 浩			

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>第1回 放射線防護学演習の概要 放射線防護演習の概要と履修するために必要な知識や技術について講義する。</p> <p>第2回 研究テーマ 研究テーマの見つけ方を病院業務の疑問点、改善点から見つける方法と最近の話題、病院業務等の方向から見つける方法を演習する。</p> <p>第3回 研究ストーリーの構築 研究テーマから研究ストーリーを構築する手法を演習する。</p> <p>第4回 研究・発表・論文作成全体の流れ 研究テーマに沿って論文の区分と論文のOriginalityならびに研究ツリーを構築方法を演習する。</p> <p>第5回 先行研究の検討 先行研究の検討を行い論文の緒言を構成方法を演習する。</p> <p>第6回 研究計画方法 仮説の立案ならびに研究方法を演習する。</p> <p>第7回 研究計画書の構成 研究計画書を作成するための構成および必要資料を収集する。</p> <p>第8回 研究計画書作成 研究計画書全体を作成する演習を行う。</p> <p>第9回 倫理委員会申請 研究計画書に基づく倫理委員会申請方法を習得する。</p> <p>第10回 研究の実践 研究計画書に基づく研究の実践方法を習得する。</p> <p>第11回 データ解析 研究によって得られた結果やデータの解析週報を習得する。</p> <p>第12回 統計解析 研究によって得られた結果やデータの統計解析手法を習得する。</p> <p>第13回 論文執筆 研究によって得られたデータならびに解析結果に基づき論文執筆手法を習得する。</p> <p>第14回 論文投稿 執筆した論文を投稿する準備や手法を習得する。</p> <p>第15回 放射線防護学演習の総括 放射線防護学演習で習得した研究ならびに論文執筆手法を総括する。</p>	<p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p> <p>渡邊 浩</p>
科目の目的	放射線防護学は放射線利用全般の基盤的学問であり、放射線利用技術の健全な発展には欠かせない。放射線利用が高度化するにつれてその重要性が高まるとともに放射線技術の安全利用のための放射線防護学も日々成長し続けることが求められる。そのため、放射線防護基準の新たな策定や放射線防護基準を遵守するための手法の開発が必要となる。本科目では放射線防護学分野の研究手法として医療被ばくや職業被ばくの適正管理を中心に実践的な研究手法を学ぶことを目的とする。また、これらの演習を通して、DP「保健医療専門職としての基礎的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る高度な研究能力」、「保健医療分野の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づく的確な判断能力」、「先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力」ならびに「地域保健医療の実践現場で他の分野と連携して社会に貢献できる教育能力」を修得する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 放射線防護学研究をデザインできる。</li> <li>2 放射線防護学研究の様々な手法を説明できる。</li> <li>3 放射線防護学研究を実践できる。</li> </ol>	
成績評価方法・基準	レポート・課題（100%）。次回講義で解説する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	演習前学習90分。演習後学習90分。	
教科書・参考書	必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	事前に担当教員と連絡を取り適宜実施する。	
履修条件・履修上	各回ごとに事前に担当教員と連絡を取り受講準備を行うこと。	





講義科目名称：放射線利用学演習

授業コード：M6065

英文科目名称：Practice in Radiological Utilization

対象カリキュラム：2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
酒井 健一	酒井健一		

授業形態	講義（アクティブ・ラーニング形式：学生による演習内容の報告・考察を含む）	担当者
授業計画	第1回 放射線利用：演習に関する講義の説明 講義の説明	酒井健一
	第2回 放射線利用：（1）医療分野に関する文献報告 その1	酒井健一
	第3回 放射線利用：（2）医療分野に関する文献報告 その2	酒井健一
	第4回 放射線利用：（3）農業分野に関する文献報告 その1	酒井健一
	第5回 放射線利用：（4）農業分野に関する文献報告 その2	酒井健一
	第6回 放射線利用：（5）農業分野に関する文献報告 その3	酒井健一
	第7回 放射線利用：（6）工業分野に関する文献報告 その1	酒井健一
	第8回 放射線利用：（7）工業分野に関する文献報告 その2	酒井健一
	第9回 放射線利用：（8）食品保存分野に関する文献報告	酒井健一
	第10回 放射線利用：（9）害虫駆除分野に関する文献報告	酒井健一
	第11回 放射線利用：（10）分野に関する文献報告 その1	酒井健一
	第12回 放射線利用：（11）複合分野に関する文献報告 その1	酒井健一
	第13回 放射線利用：（12）複合分野に関する文献報告 その2	酒井健一
	第14回 放射線利用学のまとめ	酒井健一
	第15回 放射線利用学の全体的整理	酒井健一
科目の目的	放射線利用学演習では、本科目の講義と討論、さらに文献調査と発表などを通して、ディプロマポリシーに示した「先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力」を習得することを目的とする。	
到達目標	放射線類を用いた治療や動植物類の変異株育種・加工など、放射線を利用する各分野における最先端の技術を具体的な公開情報から解明する実践能力を習得する。さらに、放射線を用いた新技術の提案能力の育成を目指す。	
成績評価方法・基準	授業内レポート（70%） 授業内口頭試問（30%） 授業内レポートおよび口頭試問などの評価などについては、次回講義内で評価結果を知らせるなどのフィードバックを行い、指導項目などを明示する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	3時間（事前60分、事後120分）	
教科書・参考書	使用しない。	
オフィス・アワー	月曜16時から18時	
履修条件・履修上の注意		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
倉石 政彦・渡邊 浩・酒井 健一	倉石 政彦	渡邊 浩	酒井 健一

授業形態	演習		担当者
授業計画	<p><b>【指導教員 研究指導テーマ】</b>          学生は入学出願時に下記の指導教員の研究指導テーマから自分の研究テーマに合った指導教員を選択し出願する。          各領域毎に、1年次前期科目（特論）と後期科目（演習）と連動し、2年次に特別研究（所属領域）を履修する。          学生は自ら立案した研究テーマに沿って研究計画を策定し、論文作成に向けた、研究指導、研究実践を受ける。          なお、詳細な授業計画を初回授業の際に指導教員と調整し、1年次末に提出した研究計画書を沿って研究指導計画を指導教員が立案し、研究指導を受ける。</p> <p>倉石 政彦 研究指導テーマ：放射線教育学          ・診療放射線技師の職業に関わる役割に関する研究          ・診療放射線技師の教育・研究に関する研究          ・診療放射線技師の技術に関する研究</p> <p>渡邊 浩 研究指導テーマ：放射線防護学          ・診療放射線技師が果たすべき安全管理に関する研究          ・診療放射線技師が果たすべき放射線防護に関する研究          ・診療放射線技師による医療被曝の適正管理に関する研究</p> <p>酒井 健一 研究指導テーマ：放射線利用学          ・診療放射線技師の職域拡大と放射線を利用した開発に関する研究          ・放射線利用による食物や植物対象の品種改良等に関する研究          ・放射線検知による医薬品等の開発に関する研究</p>		
科目の目的	<p>（概要）放射線学特別研究では、『放射線学』を「放射線学教育」「放射線防護」「放射線利用」の診療放射線技師の基本的な知識・技術から構成される能力として捉え、また臨床実践で求められる「画像生成・解析と評価」「放射性物質の特質と医学的動態」「放射線治療と効果」の側面から捉え、いずれかの視点で研究テーマを設定し、研究、開発を行うことにより、放射線学の社会における役割の向上、保健医療福祉や関係する分野への貢献を目指す。共通科目、保健科学専攻専門科目（特論、演習）で得られた知識、技術、考え方を基に、研究テーマ設定、文献レビュー、先行研究の検討、問題解決のための研究計画の立案、さらに観察、実験などによる検証と評価を一連の研究活動を通して、その成果を修士論文としてまとめ、保健科学における新たな知見を獲得することを目的とする。本科目の学習を通して、ディプロマポリシーに示す研究能力、判断能力、実践能力および教育能力について総合的に涵養する。</p>		
到達目標	<p>講義・演習（ゼミ）を通して、診療放射線技師が行う放射線学研究の研究立案、評価、公開を行う能力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 診療放射線技師の基盤となる放射線学の先行研究・研究論文の意義が説明できる。</li> <li>2 診療放射線技師の基盤となる放射線学に関する研究デザインを選択、研究計画の立案ができる。</li> <li>3 診療放射線技師の基盤となる放射線学研究の検証と評価を通して、その成果を修士論文としてまとめる。</li> </ol>		
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと学習状況、研究論文作成の評価から総合的に行う（研究実践50%、論文作成50%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 90分、事後学習90分		
教科書・参考書	参考書：特に指定しない		
オフィス・アワー	<p>授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。          相談を希望する場合は、予め所属する領域の担当教員（倉石・渡邊・酒井）にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。          倉石政彦：kuraishi@paz.ac.jp          渡邊 浩：h-watanabe@paz.ac.jp          酒井健一：k-sakai@paz.ac.jp</p>		
履修条件・履修上の注意	所属する領域（1）放射線教育学、（2）放射線防護学、（3）放射線利用学のそれぞれの特論、演習を履修済であること。		



講義科目名称：放射線学特論

授業コード：M6067

英文科目名称：Advanced Radiological Sciences

対象カリキュラム：2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
倉石 政彦	加藤 英樹		

授業形態	講義と演習（討論） 15回		担当者
授業計画	第1回	放射線学の教育・研究の変遷 マリー・キュリーに始まる診療放射線技術教育の変遷をたどり、その目的と方法について理解する。	倉石 政彦
	第2回	放射線学の教育・研究における学術体系の現状 日本放射線技術学会の論文投稿区分を参照しながら、診療放射線学の学術体系について議論する。	倉石 政彦
	第3回	放射線学の教育・研究における教育・研究組織 眞慮放射線技師教育を行っている大学の教員組織を参照しながら、教育・研究組織の在り方を議論する。	倉石 政彦
	第4回	診療放射線技師養成と診療放射線教育の変遷 日本における眞慮放射線技師教育の変遷を概観し、法改正の目的とその成果について議論する。	倉石 政彦
	第5回	診療放射線技師養成と診療放射線教育の意義と発展 診療放射線技師養成の現状を理解し、大学における診療放射線学教育の意義・目的について議論する。	倉石 政彦
	第6回	放射線学研究における放射線機器の変遷 診療放射線技術を具現化する機器類の変遷について、一般工業界における技術革新との対比において概観する。	加藤 英樹
	第7回	放射線学研究における放射線機器の意義と発展 医療にいて放射線を利用するために改良されてきた放射線機器の改良・改善の目的とその成果について概観する。	加藤 英樹
	第8回	放射線学研究における画像解析の変遷 診療目的の画像検査において、情報の質と量の向上をどのように図ってきたか概観する。	加藤 英樹
	第9回	放射線学研究における画像解析の意義と発展 診療目的の画像検査において、情報の質と量の向上が医学的診断にもたらした影響について議論する。	加藤 英樹
	第10回	放射線学研究における放射線計測・治療の変遷 的確な放射線治療を実施する際に不可欠な正確な線量計測技術について、照射技術の改善と対比しながら概観する。	加藤 英樹
	第11回	放射線学研究における放射線計測・治療の意義と発展 多様な照射法、照射技術に対応する放射線計測機器・計測技術について議論する。 《レポート課題：診療放射線学における研究の目的について》	加藤 英樹
	第12回	放射線学研究における質的研究の意義と発展 診療放射線技術を適用する対象は人間であり、質的研究の重要性は高い。これまでの取組と今後の展開について議論する。	倉石 政彦
	第13回	放射線学研究における技術評価の在り方 技術とは再現性を保証するものである。どのような観点で技術を評価する必要があるか議論する。	倉石 政彦
	第14回	診療放射線技師が行う放射線学研究的将来 診療放射線技師が取り組む研究の対象と研究方法について議論する。	倉石、加藤
	第15回	放射線学の教育・研究における近未来予測 放射線学に関する教育・研究のシステム、方法などについて議論する。 《レポートのフィードバック：第11回授業で課したレポートについて議論する》	倉石、加藤
科目の目的	療放射線学の研究領域は、新たな放射線画像検査法、放射線治療法の開発、関連機器の開発、精度管理や性能評価、放射線防護や医療被曝、環境放射線や測定方法の開発、医療情報の伝達と共有、画像情報処理、解析と評価方法など多岐に渡る。放射線学研究を進めるにあたって基盤となる『放射線学』を歴史的な変遷、取り巻く技術や学術、教育制度などの総合的な視点から概観し、放射線学の知識・技術に基づいた科学的思考能力を体系的・総合的に学ぶ。また、従来の検査、治療に大		

	別される学術領域にとらわれることなく、放射線を取り巻く環境及び融合的領域に焦点を当て、新たな知見、学術を見出すことを目的とする。本科目の学習を通して、ディプロマポリシーに示す「保健医療分野、及び公衆衛生学の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づいた確かな判断能力」を培い「先進・高度化する専門分野の基本的技術を提供する実践能力」を涵養する。
到達目標	講義・演習（ゼミ）を通して、診療放射線技師の学術的基盤となる放射線学の意義を見出す。 1 診療放射線技師の学術的基盤となる放射線学の歴史的な技術や学術の変遷について説明できる。 2 診療放射線技師の学術的基盤となる放射線学の学術、教育制度について説明できる。 3 放射線を取り巻く環境及び融合的領域において、新たな知見、学術を見出す
成績評価方法・基準	授業時間内の試験（40%）、レポート提出課題（60%）の総合点による評価
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 90分、事後学習90分
教科書・参考書	参考書：特に指定しない
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。 面談を希望する場合は、予め担当教員にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。 倉石政彦：kuraishi@paz.ac.jp 加藤英樹：h-katou@paz.ac.jp
履修条件・履修上の注意	各回の内容については、事前に各担当教員と連絡をとり、文献収集、授業準備を行うこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
加藤 英樹			

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>各回は、個別の学習テーマを提示し、輪講形式で講義・演習をおこなう</p> <p>医療における情報システムの役割</p> <p>第1回</p> <p>第2回 医療情報システム、放射線情報システムの役割と基盤について（1） 基盤、人材、運用管理</p> <p>第3回 医療情報システム、放射線情報システムの役割と基盤について（2） ガイドラインと法的諸問題</p> <p>第4回 医療情報システム、放射線情報システムの役割と基盤について（3） PACSの課題①</p> <p>第5回 医療情報システム、放射線情報システムの役割と基盤について（4） PACSの課題②</p> <p>第6回 医療情報システム、放射線情報システムの役割と基盤について（5） セキュリティ① サイバーアタック事例研究</p> <p>第7回 医療情報システム、放射線情報システムの役割と基盤について（6） セキュリティ② サイバーアタック事例研究</p> <p>第8回 医療画像解析に関する情報システムと放射線学研究について（1） 医用モニタ①</p> <p>第9回 医療画像解析に関する情報システムと放射線学研究について（2） 医用モニタ①</p> <p>第10回 医療画像解析に関する情報システムと放射線学研究について（3） 臨床の中での三次元画像①</p> <p>第11回 医療画像解析に関する情報システムと放射線学研究について（4） 臨床の中での三次元画像②</p> <p>第12回 医療画像解析に関する情報システムと放射線学研究について（5） 深層学習①</p> <p>第13回 医療画像解析に関する情報システムと放射線学研究について（6） 深層学習②</p> <p>第14回 医療画像解析に関する情報システムと放射線学研究について（7） 深層学習③</p> <p>第15回 放射線情報システムに関わる研究の将来</p>	加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹 加藤 英樹
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健医療専門職としての基本的知識、科学的根拠及び高い倫理観に基づいて問題の探求・解決を図る研究能力の基盤形成を目指す。</li> <li>先進・高度化しヘルスケア領域で不可欠となった医療情報システムについて、電子カルテやPACS（画像情報システム）等の役割と基本的な技術について理解する。</li> <li>サイバーアタックなどの脅威、運用管理、そして情報連携の概念を獲得する。</li> <li>深層学習や機械学習などの最新技術による生体機能・画像解析・治療計画などへの応用について理解する。</li> </ul>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>保健医療専門職を取りまく「情報システム」の意義が説明できる。</li> <li>「情報システム」の視点で放射線画像検査・治療等に関する研究の意義が説明できる。</li> <li>深層学習、機械学習など臨床応用の可能性について説明できる。</li> </ol>	
成績評価方法・基準	講義・演習内での口頭試問（40%）、レポート提出課題（60%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 90分、事後学習90分	
教科書・参考書	参考書：特に指定しない 参考書：特に指定しない	
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とする。E-mailでの相談も受ける。 面談希望はE-mailで予約を行うことが望ましい。	
履修条件・履修上の注意	各回の内容については、事前に各担当教員と連絡をとり、文献収集、授業準備を行うこと。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
大瀧 和也	花田 三四郎	松岡 雄一郎	

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 生体医工学の学問と歴史 臨床と工学の両面から医療機器開発を含めその歴史を学ぶ</p> <p>第2回 臨床と生体機能代行機器 人体のしくみと生体機能代行</p> <p>第3回 IABP① 構造と補助効果論ならびにバルーンの種類と特徴</p> <p>第4回 IABP② 駆動信号処理法と装置内部構造、治療成績ならびに合併症と安全対策</p> <p>第5回 PCPS① 流量補助装置の特徴と補助効果論。遠心ポンプの特徴</p> <p>第6回 PCPS② カニューレ、人工肺、血液回路、治療成績ならびに合併症と安全対策</p> <p>第7回 VAS① 流量補助装置の特徴と補助効果論、拍同型血液ポンプの種類と特徴ならびに連続流型血液ポンプの種類と特徴</p> <p>第8回 VAS② 連続流型血液ポンプの種類・特徴および合併症と治療成績。</p> <p>第9回 生体モニタリング機器 心電図、血圧計ならびにサチュレーションモニタ</p> <p>第10回 生体検査機器 MRI</p> <p>第11回 生体情報収集と各種センサー VR技術</p> <p>第12回 生命維持管理装置の適正使用と安全管理</p> <p>第13回 生命維持管理装置の有用性と問題点 人工心肺、人工呼吸器ならびに人工臓器など</p> <p>第14回 医療用ロボット① 医療現場で活躍するロボット</p> <p>第15回 医療用ロボット② 今後の展望（人工知能）</p>	<p>花田三四郎</p> <p>花田三四郎</p> <p>大瀧和也</p> <p>大瀧和也</p> <p>大瀧和也</p> <p>大瀧和也</p> <p>花田三四郎</p> <p>花田三四郎</p> <p>花田三四郎</p> <p>松岡 雄一郎</p> <p>松岡 雄一郎</p> <p>松岡 雄一郎</p> <p>大瀧和也</p> <p>松岡 雄一郎</p> <p>松岡 雄一郎</p>
科目の目的	<p>（概要）生体医工学は、医学分野に工学的知識や技術を導入する事で創出された比較的新しい学問分野で、そこから誕生した臨床工学技士は、高度な検査やモニタリング機器、人工心臓及び多岐にわたる生命維持管理装置の操作・保守点検が任せられ、医学と工学の融合した高度な知識と技術が求められる。本科目では、生命維持管理装置等について臨床と工学の両面からその開発の歴史、現状での有用性と問題点、及び医療用ロボットを含む今後の展開を学ぶことで、本分野で指導的役割を果たすための基本的かつ統合的な知識と技術を身に付ける。</p> <p>（オムニバス／全15回） （大瀧 和也／5回） 臨床で用いられている生体機能代行装置の最新知見について学ぶ。 （松岡 雄一郎／5回） 生体検査や医療応用されるロボットなどに関する原理、技術およびセンサなどについて、工学的な観点から学ぶ。 （花田 三四郎／5回） 生体医工学の歴史と意義および化学工学的視点からみた人工臓器の理解と最近の動向について学ぶ。</p>	
到達目標	<p>医学領域に工学知識および技術を導入する事で創出された新しい学問分野である。生命維持管理装置などを臨床と工学の両面からその開発の歴史、現状での有用性と問題点、さらには医療用ロボットを含む今後の展開を学ぶ。その結果として、当該分野における指導的役割を果たすため、基本的かつ統合的な臨床と工学知識力および技術力を身に付ける。</p>	
成績評価方法・基準	<p>レポート(80%)および討論(20%)を基に評価する。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>生体機能の学習、医療機器開発手順（国際規格、国内規格）、それぞれの資料に60分程度の時間を掛け内容を理解をする。また、人工知能や医用ロボットに関する資料は基礎的な文献および参考資料を収集する。得た資料は60分程度の時間を掛け内容を理解する。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：なし 参考書：適時紹介、必要に応じて資料を配布する。</p>	

オフィス・アワー	電子メールにて対応する。大濱和也 : oohama@paz. ac. jp 花田三四郎 : hanada@paz. ac. jp 松岡雄一郎 : matsuoka@paz. ac. jp
履修条件・履修上の注意	学部レベルの数学知識を必要とする。機械工学、システム制御論の基礎に関する知識を事前学習していることが望ましい。

講義科目名称： 生体医工学演習

授業コード： M6070

英文科目名称： Practice in Biomedical Engineering

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
大濱 和也	花田 三四郎	松岡 雄一郎	

授業形態	講義及び演習	担当者
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、生体医工学の歴史</p> <p>第2回 生体機能代行装置における工学的知識に関する調査</p> <p>第3回 生体機能代行装置における工学的知識に関する討論・発表</p> <p>第4回 体外循環装置に関する抄読会</p> <p>第5回 体外循環装置に関する討論・発表</p> <p>第6回 呼吸療法装置に関する抄読会</p> <p>第7回 呼吸療法装置に関する討論・発表</p> <p>第8回 血液浄化装置に関する抄読会</p> <p>第9回 血液浄化装置に関する討論・発表</p> <p>第10回 生体計測機器に関する抄読会</p> <p>第11回 生体計測機器に関する討論・発表</p> <p>第12回 再生医療分野に関する抄読会（1）</p> <p>第13回 再生医療分野に関する抄読会（2）</p> <p>第14回 再生医療分野に関する討論・発表</p> <p>第15回 生体医工学の未来について討論・発表</p>	<p>大濱 和也 花田 三四郎 松岡 雄一郎</p> <p>花田 三四郎 松岡 雄一郎</p> <p>花田 三四郎 松岡 雄一郎</p> <p>大濱 和也</p> <p>大濱 和也</p> <p>大濱 和也</p> <p>大濱 和也</p> <p>大濱 和也</p> <p>大濱 和也</p> <p>松岡 雄一郎</p> <p>松岡 雄一郎</p> <p>花田 三四郎</p> <p>花田 三四郎</p> <p>花田 三四郎</p> <p>大濱 和也 花田 三四郎 松岡 雄一郎</p>
科目の目的	<p>（概要）「生体医工学特論」で学んだ臨床工学の統合的な枠組みの中で、基礎系の生体情報計測学（光応用計測学等）あるいは臨床系の生体機能代行学（呼吸、循環、代謝）から、より専門的な分野を選択し、課題を決めて文献収集し、討論等の演習形式でより高度な理解を目指す。同時に批評的（critique）な文献講読を通して研究デザイン、研究計画、データ収集・処理、論文の書き方など問題解決のための一連の研究過程を実践的に学ぶ。</p>	
到達目標	<p>生体安全・生体システム・生体信号処理および生体計測制御などの融合領域で、特別研究を進めるために高い専門性と最新の研究に基づく知識・理解力・討論のためのコミュニケーション能力、専門的技術力が必要である。そのため、少数グループで専門的教科書、教材を用いた輪講及び専門分野学術論文、国際会議資料などによる論文抄読会や特別研究に必要な装置の操作習熟プログラム作成などを進める。これにより、専門知識を高めるとともに、理解力、コミュニケーション能力および専門技術力を身につけることを目標とする。</p>	
成績評価方法・基準	<p>討論(100%)にて評価する。</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>事前に研究テーマに関する文献を検索し、関連文献リストおよび修得をする。</p>	
教科書・参考書	<p>教科書：特になし 参考書：特になし 必要に応じて資料を配布する。</p>	

オフィス・アワー	電子メールにて対応。大濱和也 : oohama@paz. ac. jp 花田三四郎 : hanada@paz. ac. jp 松岡雄一郎 : matsuka@paz. ac. jp
履修条件・履修上の注意	事前学習、学術論文の理解、技術修得などを主体的に行うこと。

講義科目名称： 臨床工学特別研究

授業コード： M6071

英文科目名称： Clinical Engineering Thesis Guidance

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
大瀨 和也・花田 三四郎	大瀨 和也	花田 三四郎	
授業形態	演習		担当者
授業計画	※2023年度開講せず		
科目の目的	<p>(概要) 特論、演習で学んだ知識、理論、技術に基づいて、指導教員の下で生体医工学に関連した内容について研究テーマを設定し、文献調査、研究計画の立案、研究結果の解析、分析を行う。研究課題の成果は修士論文としてまとめ、臨床工学領域における問題発見能力、問題設定能力及び問題解決能力を養う。</p> <p>(大瀨 和也)          医用危機管理システムの開発と応用に関する研究          医用材料の生体適合性に関する研究          透析液清浄化に関する研究          通信システムの医療応用に関する研究          臨床工学関連の設計・設備に関する研究          臨床工学領域の臨床医学が優先する医療機器に関する研究</p> <p>(花田 三四郎)          非接触生体計測技術に関する研究</p>		
到達目標	臨床医学と臨床工学の融合領域における最新の研究動向を踏まえ、生体安全、生体システム、生体信号処理、生体情報計測における解決すべき問題点について指導と実践を行う。指導教員および副指導教員により臨床工学に関する研究計画を策定し、研究計画の下で実験や理論を展開し研究論文を仕上げる。この過程を通して当該分野の高度な専門知識と実験技術、自主的に計画的に研究を推進し、直面する問題を解決する能力および創造力を身につけることを目標とする。		
成績評価方法・基準	研究のオリジナリティーとアイデアの程度(30%)、修士論文の品質(30%)、成果物の品質(30%)、学会及び修士論文発表会での質疑応答(10%)より評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究テーマに関する他の研究を参照し、研究計画を立てておくこと。自身の研究に対する他研究の参照には十分な時間を掛けて行う。また、研究計画立案は最終目標時期から逆算し、十分な時間を掛けて行う。参照および研究立案は研究と平衡してもかまわない。		
教科書・参考書	教科書：特になし 参考書：特になし 必要に応じて資料を配布する。		
オフィス・アワー	電子メールにて対応。大瀨和也：oohama@paz.ac.jp 花田三四郎：hanada@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	問題や課題の発見と解決を主体的に行い、研究遂行能力を養う。		



講義科目名称： 疫学特論

授業コード： M6072

英文科目名称： Advanced Epidemiology

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一			

授業形態	講義・討論ならびに演習		担当者
授業計画	第1回	疫学総論 疫学の概要を講義する。	木村博一
	第2-3回	新型コロナウイルス感染症の疫学 新型コロナウイルス感染症の最新疫学を講義する。	木村博一
	第4-5回	ノロウイルス感染症の疫学 ノロウイルス感染症の最新疫学を講義する。	木村博一
	第6-7回	インフルエンザの疫学 インフルエンザの最新疫学を講義する。	木村博一
	第8-9回	RSウイルス感染症の疫学 RSウイルス感染症の最新疫学を講義する。	木村博一
	第10-11回	ヒトレスピロウイルスの疫学 ヒトレスピロウイルス感染症の最新疫学を講義する。	木村博一
	第12-13回	麻疹・風疹の疫学 麻疹・風疹の最新疫学を講義する。	木村博一
	第14-15回	動脈硬化・糖尿病の疫学 動脈硬化・糖尿病の最新疫学を講義する。	木村博一
科目の目的	疫学の基盤である集団を対象とした各疾患の発生原因や予防法などを学ぶ。		
到達目標	感染症や生活習慣病を中心とした記述疫学、分子疫学の概要を習得する。		
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。		
教科書・参考書	<b>【教科書】</b> 「社会・環境と健康 公衆衛生学 2022年版」柳川 洋、尾島 俊之 編集（医歯薬出版） <b>【教科書】</b> 「感染症疫学－感染性の計測・数学モデル・流行の構造」ヨハン ギセック（著）山本 太郎（訳）門司和彦（訳）（昭和堂）		
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける（木村博一：h-kimura@paz.ac.jp）。		
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可		

講義科目名称： 感染症学特論

授業コード： M6073

英文科目名称： Advanced Research on Infectious Diseases

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一			

授業形態	講義・討論および演習	担当者
授業計画	<p>第1回 感染症学総論</p> <p>第2-3回 病原体検査法（細菌・ウイルス培養法）</p> <p>第4-5回 病原体検査法（PCR法、リアルタイムPCR法）</p> <p>第6-7回 病原体検査法（PFGE法・RFLP法）</p> <p>第8-9回 病原体検査法（シーケンス法）</p> <p>第10回 病原体検査法（次世代シーケンス法）</p> <p>第11回 病原体検査法（イムノクロマト法）</p> <p>第12-13回 緑膿菌のキノロン系抗菌薬耐性機構機序</p> <p>第14-15回 ウイルス感染症と喘息</p>	<p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p> <p>木村博一</p>
科目の目的	細菌、ウイルス感染症の発症機序、病原体検査法（特に遺伝子検査法、抗原検査法、イムノクロマト法など）、生体防御ならびに感染症の予防法ならびに治療法を理解する。	
到達目標	呼吸器感染症、腸管感染症、腸管出血性大腸菌感染症ならびに緑膿菌による敗血症の発症機序、検査法、予防法ならびに治療法を習得する。	
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。	
教科書・参考書	【参考書】 ウイルス感染症の検査診断スタンダード 編集田代真人、牛島廣治、羊土社	
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける。（木村博一：h-kimura@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可	

講義科目名称： 生物統計学特論

授業コード： M6074

英文科目名称： Advanced Biostatistics

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	加茂 智彦		

授業形態	講義	担当者
授業計画	1回 臨床研究デザインと生物統計手法 生物統計における疫学前置主義	木村 朗
	2回 臨床研究デザインと記述統計、推測統計	木村 朗
	3回 公衆衛生学的アプローチと生物統計手法1 パラメトリック手法	木村 朗
	4回 公衆衛生学的アプローチと生物統計手法2 ノンパラメトリック手法 多重比較法の応用	木村 朗
	5回 因果グラフ分析1 因果推定論1 数理統計による回帰モデルの概説	木村 朗
	6回 因果グラフ分析2 因果推定論2 回帰分析 線形代数による回帰モデルの概説 行列とベクトルによるd次回帰 自由度調整済み決定係数 正則性と多重共線性	木村 朗
	7回 因果探索における行列データと制約条件の応用1 生物統計における対数化 回帰モデルにおける誤差項の偏微分と連立方程式 回帰モデルのパラメータを求めるための数理統計	木村 朗
	8回 因果探索における行列データと制約条件の応用2	木村 朗
	9回 確率分布の応用1 確率関数	加茂智彦
	10回 確率分布の応用2 確率密度関数	加茂 智彦
	11回 回帰モデル1 医療・保健データに対する重回帰モデルのあらまし ベイズ統計手法による回帰モデル PCによる演習	加茂 智彦
	12回 回帰モデル2 医療・保健データに対するロジスティック回帰モデルのあらまし マルチモデル パネルデータ解析 PCによる演習	加茂 智彦
	13回 生存時間解析1 PCによる演習	加茂 智彦
	14回 生存時間解析2 微分方程式を用いたSIRモデルのあらまし PCによる演習	加茂 智彦
	15回 寿命推定法 生物統計学手法に関するトピックスについて（学生による資料作成とプレゼンテーション） ガンマ分布を用いた寿命推定他 トピックス	木村 朗
科目の目的	一般的な臨床研究デザインに対応した記述統計、推測統計の基本を学ぶ。公衆衛生学的アプローチを念頭に、問題事象を因果グラフを用いて分析するための基本的理論および、因果探索における行列データと制約条件の応用など数理学的な理解を基に、様々の結果変数に対し適切な統計手法の適応について学ぶ。また、生物・医療統計の基礎となる回帰モデル、生存時間解析といった発展的手法を統計ソフト、シンタックスの操作について理解すること。	
到達目標	一般的な臨床研究デザインに対応した記述統計、推測統計の基本を学ぶ。公衆衛生学的アプローチを念頭に、問題事象を因果グラフを用いて分析するための基本的理論および、因果探索における行列データと制約条件の応用など数理学的な理解を基に、様々の結果変数に対し適切な統計手法の適応について学ぶ。また、生物・医療統計の基礎となる回帰モデル、生存時間解析といった発展的手法を統計ソフト、シンタックスの操作が実践できるようになること。	
成績評価方法・基準	試験（50％）資料作成およびプレゼンテーション（50％）但し、統計検定2級資格を取得している場合、試験は免除する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義1時間に対し、予習復習3時間を目安とする。	
教科書・参考書	教科書:松原望の確率過程 超!入門 (松原 望、東京図書) 参考書:授業で資料を配布	
オフィス・アワー	講義日の授業終了後15分 (a-kimura@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意		



開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
小林 亜由美			

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	第1回 健康行動に関するエビデンスと施策（総論） オリエンテーション、最近の動向	小林 亜由美
	第2回 健康行動に関する研究と支援の実際1 母子に関する研究	小林 亜由美
	第3回 健康行動に関する研究と支援の実際2 成人に関する研究	小林 亜由美
	第4回 健康行動に関する研究と支援の実際3 高齢者に関する研究	小林 亜由美
	第5回 健康行動に関する研究と支援の実際4 研究課題に通じる健康行動に関する研究1（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第6回 健康行動に関する研究と支援の実際5 研究課題に通じる健康行動に関する研究2（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第7回 健康行動に関する研究と支援の実際6 研究課題に通じる健康行動に関する研究3（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第8回 健康行動に関する研究と支援の実際7 研究課題に通じる健康行動に関する研究4（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第9回 健康行動に関する研究と支援の実際8 研究課題に通じる健康行動に関する研究5（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第10回 健康行動に関する研究と支援の実際9 研究課題に通じる健康行動に関する研究6（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第11回 健康行動に関する研究と支援の実際10 研究課題に通じる健康行動に関する研究7（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第12回 健康行動に関する研究と支援の実際11 研究課題に通じる健康行動に関する研究8（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第13回 健康行動に関する研究と支援の実際12 研究課題に通じる健康行動に関する研究9（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第14回 健康行動に関する研究と支援の実際13 研究課題に通じる健康行動に関する研究10（英文抄読とプレゼンテーション、ディスカッション）	小林 亜由美
	第15回	まとめ 健康行動に関する研究結果を活用した支援と今後の課題について
科目の目的	様々な対象領域における健康行動と健康への影響について論文を紹介しながら、最近のトレンドや研究結果を共有する。また、研究のベースになる理論や具体的手法、研究結果を活用した支援の実際について学ぶ。	
到達目標	1) 健康行動と健康に関する最近の研究動向について説明できる。 2) 健康行動と健康に関する研究のベースになる理論や研究手法について説明できる。 3) 健康行動と健康に関する論文を読み、専門分野の異なる人々との意見交換を通して新しい視点を見いだす。 4) 自身の研究課題につながる健康行動に関する英語論文を読み、専門分野の異なる人々に説明できる。	
成績評価方法・基準	プレゼンテーション25%、解説資料25%、ディスカッション25%、レポート25%	

準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業ごとに担当者を割り振り、担当者は最近のトレンドや関心の高いものから論文を選ぶ。論文のベースになる理論や具体的手法、研究結果の解釈等についてディスカッションできるよう、担当者を中心に準備をして授業に臨む。1回の授業あたり平均5時間の学習時間が必要である。
教科書・参考書	特になし。その都度、扱う文献を配布する。
オフィス・アワー	小林亜由美（研究室326） 随時またはメール（a-kobayashi@paz.ac.jp）
履修条件・履修上の注意	担当者は、担当する授業の1週間前までに扱う論文を配布してください。解説資料については、授業前までに配布できるよう準備しておいてください。担当者以外の方は、論文を読んで質問事項をまとめて授業に参加してください。

講義科目名称：ヘルスコミュニケーション学特論

授業コード：M6076

英文科目名称：Advanced Health Communication

対象カリキュラム：2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	奥野 みどり		

授業形態	講義	担当者	
授業計画	第1回	ヘルスコミュニケーション（学）の定義	木村 朗
	第2回	ヘルスコミュニケーション（学）の課題1	木村 朗
	第3回	ヘルスコミュニケーション（学）の課題2	木村 朗
	第4回	医療・公衆衛生分野を対象とした保健医療福祉専門職間におけるヘルスコミュニケーション（学）	木村 朗
	第5回	保健医療福祉専門職と患者・市民間、患者・市民間等におけるヘルスコミュニケーション（学）	木村 朗
	第6回	健康や医療・福祉に関連した知識や情報などのコミュニケーション（学）の実践的理論1	木村 朗
	第7回	健康や医療・福祉に関連した知識や情報などのコミュニケーション（学）の実践的理論2	木村 朗
	第8回	健康や医療・福祉に関連した知識や情報などのコミュニケーション（学）の実践的理論	木村 朗
	第9回	コミュニケーションの基本的な理論	木村 朗
	第10回	コミュニケーションの具体的な方略	木村 朗
	第11回	スキルコミュニケーションの評価・分析方法	木村 朗
	第12回	健康情報および医療コミュニケーションの実践例1	木村 朗
	第13回	健康情報および医療コミュニケーションの実践例2	木村 朗
	第14回	健康情報および医療コミュニケーションの実践例 演習とディスカッション1	木村 朗
	第15回	健康情報および医療コミュニケーションの実践例 演習とディスカッション2	木村 朗
科目の目的	医療・公衆衛生分野を対象とした保健医療福祉専門職間、保健医療福祉専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療・福祉に関連した知識や情報などのコミュニケーションの実践的理論を体系的に学ぶ。コミュニケーションの基本的な理論、コミュニケーションの具体的な方略や、スキルコミュニケーションの評価・分析方法等を学ぶ。健康情報および医療コミュニケーションの実践例を俯瞰し、改善していくために必要な基礎的な知識を理解すること。		
到達目標	医療・公衆衛生分野を対象とした保健医療福祉専門職間、保健医療福祉専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療・福祉に関連した知識や情報などのコミュニケーションの実践的理論を体系的に学ぶ。コミュニケーションの基本的な理論、コミュニケーションの具体的な方略や、スキルコミュニケーションの評価・分析方法等を学ぶ。健康情報および医療コミュニケーションの実践例を俯瞰し、改善していくために必要な基礎的な知識について説明できるようになること。		
成績評価方法・基準	レポート（100%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義時間1時間に対し、予習1時間、復習1時間を目安とする。		
教科書・参考書	教科書：保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門(大修館書店)		
オフィス・アワー	講義日の講義後15分 (a-kimura@paz.ac.jp) (okuno@paz.ac.jp)		
履修条件・履修上の注意			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
倉石 政彦			

授業形態	講義と演習（討論）15回	担当者
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 本科目で何を学ぶか討論する</p> <p>第2回 疫学の基礎、統計解析 因果関係の捉え方、偶然誤差とバイアス、多変量解析と数理統計モデルについて整理する</p> <p>第3回 環境と健康 環境保健学の対象について検討する</p> <p>第4回 生活習慣 個人の判断が他者の健康に影響する場合について検討する</p> <p>第5回 社会的環境 暴露の回避と発生源のコントロールについて検討する</p> <p>第6回 生物学的環境 感染症の疫学</p> <p>第7回 物理化学的環境 環境物質による健康問題について検討する 《レポート課題：環境とは何か》</p> <p>第8回 放射線とは何か 電離放射線について基本的知識を整理する</p> <p>第9回 放射線と物質の相互作用と生物効果 物理的相互作用から生物学的影響まで時間的空間的広がり整理する</p> <p>第10回 放射線の健康への影響 確定的影響と確率的影響について整理する 《レポートのフィードバック：第7回授業で課したレポート課題について議論する》</p> <p>第11回 放射線疫学調査① 被爆者の健康問題について検討する</p> <p>第12回 放射線疫学調査② 原発事故と健康問題について検討する</p> <p>第13回 放射線疫学調査③ 自然放射線と健康問題について検討する</p> <p>第14回 放射線疫学調査④ 医療被ばくと健康問題について検討する</p> <p>第15回 一人ひとりの環境保健学 「環境とは何か」「健康とは何か」「両者の関係をどうとらえるか」について討論する</p>	<p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p> <p>倉石 政彦</p>
科目の目的	<p>科学技術の進歩は人の生活を豊かにする一方で、その発展の副産物に由来する健康障害をも生んでいる。この副産物は化学物質・物理現象に限定されず、広く社会システムも環境と捉え、それらの健康への影響評価について、環境保健学における方法論の一つである疫学の基礎を理解し、環境疫学に関する問題を整理する。本科目では、現代社会では避けることができない放射線・放射性物質の安全利用に関する考え方についての討論を通して、環境と健康に関する諸問題への向き合い方について学ぶことを目的とする。本科目の学習を通して、ディプロマポリシーに示す「保健医療分野、及び公衆衛生学の諸課題に関して、科学的な手続きと洞察に基づく確かな判断能力」の涵養を計る。</p>	
到達目標	<p>1. 基本的な疫学研究の手法について説明できる。</p> <p>2. 健康に影響を与える基本的な環境疫学的問題について説明することができる。</p> <p>3. 現代社会での放射線利用場面とそれにより生じる可能性がある問題について説明することができる。</p>	
成績評価方法・基準	授業内試験（40%）、レポート課題（60%）を総合的に評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業回ごとのテーマについて事実を調査し、学生自身が考える問題点等を確認する必要があるため、準備学習は各授業回について2時間程度は必要である。	
教科書・参考書	教科書：特に指定しない 参考書：テーマに関連した参考書・資料等は授業中に紹介する。	
オフィス・アワー	特に定めない。事前にメール（kuraishi@paz.ac.jp）で予約のこと。	



履修条件・履修上の注意	
-------------	--

講義科目名称： 産業保健学特論

授業コード： M6078

英文科目名称： Advanced Industrial Health Sciences

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
浅見 知市郎	廣田 幸子		

授業形態	講義	担当者
授業計画	1回 産業保健学の意義 労働と健康、事業者の責任について、産業医とその責務など 2回 労働者としての人間の仕組みと特性 生理的特性、心理的特性、身体的特性など 3回 職場における特定健診について メタボリックシンドローム、特定保健指導など 4回 職場における漏洩物について 電流、電磁波、光線、磁界、電離放射線、熱、音、振動など 5回 職場における物理的環境 情報の受け取りを妨害する環境、労働者に不快感を与える環境など 6回 安全衛生委員会の役割 本学における安全衛生委員会の役割など 7回 産業保健の現状と健康課題① 産業保健の現状を示すデータによる分析 8回 産業保健の現状と健康課題② 産業保健における健康課題の明確化 9回 産業保健の法体系および管理の基本 産業保健に関わる法体系および3管理と5分野による管理 10回 作業や職場環境に起因する健康障害 職業性疾病と作業関連疾患の考え方 11回 産業保健の実際 1 過重労働対策 12回 産業保健の実際 2 メンタルヘルス対策 13回 産業保健の実際 3 職場巡視 14回 近年の労働環境の変化に伴う多様な働き方に存在するニーズへの対応 1 高齢労働者、障害・疾病をかかえる労働者への支援 15回 近年の労働環境の変化に伴う多様な働き方に存在するニーズへの対応 2 女性労働者、非正規労働者への支援、地域・職域連携活動	浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 浅見知市郎 廣田幸子 廣田幸子 廣田 幸子 廣田 幸子 廣田 幸子 廣田 幸子 廣田 幸子 廣田 幸子 廣田 幸子 廣田 幸子
科目の目的	労働者の健康と労働の調和を図り、作業能力の維持増進、安全と健康への作業環境と作業改善に必要な3管理と5分野から成る産業保健活動と法体系、それに基づく管理体制について学ぶ。また、産業保健に関わる現状について、労働災害と業務上疾病の発生、労働者の健康状況を把握し、課題の明確化と解決への理解を深める。また、作業や職場環境に起因する健康障害について主要な側面から学び、対策について理解する。更に、近年の労働環境の変化に伴う多様な働き方に存在するニーズへの対応について理解すること。	
到達目標	学習者は労働者の健康と労働の調和を図り、作業能力の維持増進、安全と健康への作業環境と作業改善に必要な3管理と5分野から成る産業保健活動と法体系、それに基づく管理体制について学ぶ。また、産業保健に関わる現状について、労働災害と業務上疾病の発生、労働者の健康状況を把握し、課題の明確化と解決への理解を深める。また、作業や職場環境に起因する健康障害について主要な側面から学び、対策について理解する。更に、近年の労働環境の変化に伴う多様な働き方に存在するニーズへの対応について説明できるようになること。	
成績評価方法・基準	レポート (100%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義1時間に対し、予習1時間、復習1時間を目安とする。	
教科書・参考書	資料を提示する。	
オフィス・アワー	授業日の講義終了後15分 (asami@paz.ac.jp)	
履修条件・履修上の注意	特になし	

講義科目名称：健康・医療政策特論

授業コード：M6079

英文科目名称：Advanced Health Policy

対象カリキュラム：2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回-7回 保健医療福祉における法律・制度・生活様式の与える影響について	星野修平
	8回-14回 保健医療福祉における政策展開における課題とその対応について	星野修平
	第15回 総論	星野修平
科目の目的	医療や保健活動は、エビデンスに基づく医学的知識、最新の科学技術による医療適応など医科学的な側面に裏打ちされているが、現実の世界では、様々な法律・制度・生活様式に依存して、その活動内容が策定され、実施される。健康・医療・福祉に関する行政・経済・政治や社会環境などの側面から、保健・医療・福祉分野における政策について概観し、健康・医療・福祉政策の具体的な方策、政策展開における課題とその対応について学ぶ。講義では、具体的なケーススタディを題材にして、法律・条例・ガイドラインなどに基づく制度設計をグループワーク形式で討論し、基礎知識と政策応用を学ぶ。	
到達目標	1 保健・医療・福祉分野における政策提案ができる。 2 保健医療における実践的活用方法として、法律・条例・ガイドラインなどに基づく制度設計と政策応用についてその意義を説明できる。	
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと学習状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前学習 120分、事後学習120分	
教科書・参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。 面談を希望する場合は、予め担当教員にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 国際保健政策特論

授業コード： M6080

英文科目名称： Advanced Global Health Policy

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
堀込 由紀	木村 博一	森 淑江	早川 有子

授業形態	講義10回 演習5回		担当者
授業計画	第1回	グローバルヘルスとは(講義) グローバルヘルスの定義、概念について学ぶ。	堀込由紀
	第2回	健康の決定要因と測定指標、動向(講義) 多方面から捉えた健康への影響について学ぶ。	堀込由紀
	第3回	保健医療システム(講義) 保健医療システムの機能や各国の特徴、課題について学ぶ。	堀込由紀
	第4回	非感染症疾患(講義) 世界における非感染症疾患(NCD)の現状について学ぶ。	堀込由紀
	第5回	国際感染症(講義) 国際的に問題となっている感染症の概要(特にCOVID-19)を講義する。	木村博一
	第6回	文化と健康(講義) 文化が健康に与える影響や行動変容に関わる政策について学ぶ。	堀込由紀
	第7回	女性と健康(講義) 女性の健康問題や課題、政策について学ぶ。	早川有子
	第8回	グローバルヘルスにおける組織的活動(講義) 発展途上国における健康支援の現状と課題についてJICAの活動の実際から学ぶ。	森 淑江
	第9回	グローバル社会と国際看護(講義) グローバル社会における国際看護の現在と未来の視座について学ぶ。	森 淑江
	第10回	異文化コミュニケーション トラブル事例を題材にして、異文化コミュニケーションについて学ぶ。	堀込由紀
	第11～15回	グローバルヘルスにおける諸課題に対する現状分析と提言(演習) これまでの学習内容を踏まえたグローバルヘルスに関する現状分析と提言について討議する。	堀込由紀
科目の目的	グローバルヘルスに関する主なテーマを基軸に、国際保健政策の現状を学び、社会情勢の変化の展望を見据えて考察することを目的とする。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. グローバルヘルスの概要を理解し、その現状や課題について説明することができる。</li> <li>2. 国内外の医療福祉システムを知り、課題や提言について説明することができる。</li> <li>3. 日本における国際協力(健康支援)のシステムや実際を知り、グローバルヘルス推進の組織活動を理解し、課題や提言について説明することができる。</li> <li>4. 国際的医療人材の活動や育成に関する現状を知り、課題や提言について説明することができる。</li> </ol>		
成績評価方法・基準	プレゼンテーション及び討議30%、レポート70%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習やプレゼンテーション準備等で2時間程度の準備学習が必要である。		
教科書・参考書	<b>【教科書】</b> なし <b>【参考書】</b> 木原正博(翻訳)、木原雅子(翻訳)：グローバルヘルス世界の健康と対処戦略の最新動向、メディカルサイエンスインターナショナル、2017。他適宜紹介する。 ISBN-13：978-4895928977		
オフィス・アワー	堀込由紀(研究室312)：講義日9：00～20：00 horigome@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	主体的に参加してください。 やむを得ず欠席する場合にはあらかじめ申し出てください。		

講義科目名称： 先端感染制御学特論

授業コード： M6081

英文科目名称： Advanced Infection Control Theory

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一	未定 (2コマ担当)		

授業形態	講義・討論ならびに演習		担当者
授業計画	第1-2回	感染制御学概論 感染制御学を概説する。	木村博一
	第3-4回	抗ウイルス薬の種類と作用機序 種々の抗ウイルス薬の構造、分子薬理学的な作用機序などを概説する。	木村博一
	第5-6回	抗菌薬の種類と作用機序 種々の抗菌薬の構造や薬理学的作用機序を概説する。	木村博一
	第7-8回	ワクチンの種類と作用機序 ワクチンの種類、効果ならびに作用機序を概説する。	木村博一
	第9-10回	消毒薬の種類と作用機序 消毒薬の種類、効果ならびに作用機序を概説する。	木村博一
	第11-13回	環境微生物制御法 環境微生物の測定ならびに制御法を概説する。	木村博一
	第14-15回	多剤耐性菌の耐性機構と制御法 多剤耐性菌（緑膿菌など）の耐性機構と制御法について概説する。	未定
科目の目的	ウイルス感染制御に必要な病原体解析、抗ウイルス薬（核酸アナログやステロイドなど）、ワクチン（弱毒型ワクチンやDNAワクチンなど）、抗菌薬（ベータラクタム系、セフェム系、マクロライド系ならびにキノロン系など）ならびに各種消毒薬などについて学ぶ。		
到達目標	ウイルス感染制御法、抗ウイルス薬、ワクチン、抗菌薬ならびに各種消毒薬などの基盤知識・技術を修得する。		
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。		
教科書・参考書	配布資料等		
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける（木村博一：h-kimura@paz.ac.jp）。		
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可		

講義科目名称： 地域ケアシステム管理学特論

授業コード： M6082

英文科目名称： Advanced Community Care Systems Management

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
矢島 正栄			

授業形態	講義、演習	担当者
授業計画	第1-3回 地域ケアシステムの概念、地域ケアシステムを支える理念	矢島正栄
	第4-6回 高齢者をめぐる現状と地域包括ケアシステム	矢島正栄
	第7-9回 子育て支援と地域ケアシステム	矢島正栄
	第10-12回 障害者支援と地域ケアシステム	矢島正栄
	第13-15回 地域ケアシステムと公衆衛生看護活動	矢島正栄
科目の目的	地域ケアシステムの概念、我が国の地域ケアシステムの現状と課題について理解し、地域ケアシステムを構築し、マネジメントしていくための公衆衛生看護活動について考察する。	
到達目標	1. 地域ケアシステムの概念、地域ケアシステムを支える理念を述べることができる。 2. 我が国の地域ケアシステムの現状を理解し、課題を抽出できる。 3. 地域ケアシステムの構築とマネジメントの方法、地域ケアシステムを支える公衆性看護活動の役割について意見を述べるができる。	
成績評価方法・基準	討論・演習内容 50%、レポート 50%	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前に提示された資料を予習すること。必要学習時間は1コマにつき1時間程度。	
教科書・参考書	指定しない	
オフィス・アワー	平日9:00～18:00および講義終了後 e-mail : yajima@paz.ac.jp	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 実践リーダー育成特論A

授業コード： M6083

英文科目名称： Advanced Course on Practical Leadership …

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一			

授業形態	講義・討論ならびに演習		担当者
授業計画	第1-2回	病原体ゲノム解析学総論I ウイルスゲノムの構造の特徴および検査法の種類を概説する。	木村博一
	第3-4回	病原体ゲノム解析学総論II ウイルスゲノムの機能を概説する。	木村博一
	第5-6回	病原体ゲノム学解析学総論III 細菌ゲノムの構造と機能を概説する。	木村博一
	第7-8回	呼吸器ウイルスゲノム解析学各論I（インフルエンザウイルス） インフルエンザウイルスゲノムの構造、機能および検査法を概説する。	木村博一
	第9-10回	呼吸器ウイルスゲノム解析学各論II（RSウイルス） RSウイルスゲノムの構造、機能および検査法を概説する。	木村博一
	第11-12回	呼吸器ウイルスゲノム解析学各論III（レスピロウイルス） レスピロウイルスゲノムの構造、機能および検査法を概説する。	木村博一
	第13-14回	呼吸器ウイルスゲノム解析学各論IV（ライノウイルス） ライノウイルスゲノムの構造、機能および検査法を概説する。	木村博一
	第15回	下痢症ウイルスゲノム解析学 ノロウイルスGI/GIIゲノムの構造、機能および検査法を概説する。	木村博一
科目の目的	感染症学特論の知識・技術、感染症の原因究明法などについて学ぶ。		
到達目標	実践的感染症学特論の知識・技術ならびに感染症の原因究明法を習得する。		
成績評価方法・基準	討論・演習内容(50%)ならびに当該科目の理解度(50%)から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。		
教科書・参考書	配布資料等		
オフィス・アワー	各講義終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける(木村博一：h-kimura@paz.ac.jp)。		
履修条件・履修上の注意	授業中、携帯電話使用不可		

講義科目名称： 実践リーダー育成演習A

授業コード： M6084

英文科目名称： Practice in Practical Leadership Development A

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一			

授業形態	演習（すべての演習を2号館4階木村研究室にて行う）		担当者
授業計画	第1-2回	バイオインフォマティクス総論 バイオインフォマティクス解析法の概要を講義する。	木村博一
	第3-4回	病原体塩基配列アライメント解析演習 細菌・ウイルス由来塩基配列のアライメント演習を行う。	木村博一
	第5-6回	系統学的距離解析演習 RSウイルスF遺伝子塩基配列を基盤とするPhylogenetic Distance解析を行う。	木村博一
	第7-9回	最尤法系統樹解析演習 RSウイルスF遺伝子塩基配列を基に最尤法による分子系統樹解析演習を行う。	木村博一
	第10-12回	ベイジアン・マルコフ鎖モンテカルロ法（MCMC法）による時系列系統解析演習 RSウイルスF遺伝子塩基配列を基にMCMC法による時系列分子系統樹解析演習を行う。	木村博一
	第13-15回	ベイジアン・スカイラインプロット（BSP）解析演習 RSウイルスF遺伝子塩基配列を基にBSP法によるゲノムポピュレーション解析演習を行う。	木村博一
科目の目的	先端感染制御学の知識・技術、病原体ゲノム網羅解析法、病原体ゲノム定量法や分子疫学解析法（ベイジアン・マルコフ鎖モンテカルロ法・最尤法など）を駆使し、原因不明の重症感染症の病原体検索に関する演習を行う。		
到達目標	先端バイオインフォマティクス技術による病原体遺伝子解析法を習得する。		
成績評価方法・基準	演習結果(100%)から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前配布資料等を予習すること。必要学習時間は1時間程度。		
教科書・参考書	配布資料等		
オフィス・アワー	各演習終了後に担当教員が口頭にて質問を受け付ける（木村博一：h-kimura@paz.ac.jp）。		
履修条件・履修上の注意	演習中、携帯電話使用不可		



講義科目名称： 実践リーダー育成特論B

授業コード： M6085

英文科目名称： Advanced Course on Practical Leadership …

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
今年度開催せず			

授業形態	講義・討論		担当者
授業計画	第1-3回	医療機器、器具の開発、適正利用、安全管理 現在使用されている医療機器や医療器具について	佐田充
	第4-6回	保健・医療・介護施設における環境整備、安全管理 医療安全の基本について	佐田充
	第7-9回	保健・医療・介護施設における非常時の対応 アクシデントが生じた場合にどう対処するべきかについて	佐田充
	第10-12回	実践的リーダーに必要なスキル リーダーとして必要な知識とその習得について	佐田充
	第13-15回	保健・医療・介護施設におけるリーダー像とは 臨床の現場に必要とされるリーダーに求められることについて	佐田充
科目の目的	保健・医療・介護施設やそれらを取りまく地域・環境における実践的リーダーになるための基礎知識の習得		
到達目標	現在の医療・介護の環境のリーダーに必要とされる知識・スキルを習得し、実際のケースの問題点を指摘することができる。		
成績評価方法・基準	講義の理解度(50%)・討論の内容(50%)を基に判断する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習・復習：0.5時間ずつ		
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：飯田修平編 医療安全管理テキスト 第4版 日本規格協会		
オフィス・アワー	講義の前後(2号館4階分析化学準備室)		
履修条件・履修上の注意			

講義科目名称： 実践リーダー育成演習B

授業コード： M6086

英文科目名称： Practice in Practical Leadership Development B

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
今年度開催せず			

授業形態	講義・演習	担当者
授業計画	<p>第1-3回 実践リーダー育成特論Bの復習と応用</p> <p>第4-6回 病原体の系統樹解析の原理と実践</p> <p>第7-9回 病原体の系統樹解析の結果の分析・応用</p> <p>第10-12回 ホモロジーモデリング・ドッキングシミュレーションの原理と実践</p> <p>第13-15回 バイオインフォマティクスの臨床現場への応用</p>	<p>佐田充</p> <p>佐田充</p> <p>佐田充</p> <p>佐田充</p> <p>佐田充</p>
科目の目的	最先端医療技術を保健医療介護施設に導入するためのリーダーとしての役割を実践的に学習する	
到達目標	最先端医療技術を保健医療介護施設に導入する必要がある場合に実践できる下地を得て、ケーススタディにおいて問題を指摘し改善点を策定できる。	
成績評価方法・基準	講義の理解度(50%)・レポート(50%)から総合的に判断する	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習・復習：0.5時間ずつ	
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：飯田修平編 医療安全管理テキスト 第4版 日本規格協会、岩部 直之 よくわかるバイオインフォマティクス入門 講談社	
オフィス・アワー	講義の前後(2号館4階分析化学準備室)	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 政策教育リーダー育成特論A

授業コード： M6087

英文科目名称： Advanced Course on Policy Education Leadership … 対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
矢島 正栄			

授業形態	講義、演習	担当者
授業計画	<p>第1-3回 地域特性のアセスメント</p> <p>第4-6回 地域の健康課題のアセスメント</p> <p>第7-9回 地域活動の計画、地域活動の展開</p> <p>第10-12回 地域活動の評価</p> <p>第13-15回 地域の人々との協働</p>	<p>矢島正栄</p> <p>矢島正栄</p> <p>矢島正栄</p> <p>矢島正栄</p> <p>矢島正栄</p>
科目の目的	<p>地域で暮らす人々の人権の尊重と公正な社会の実現のために必要な、個人・集団・組織等多様な対象とのコミュニケーション、複雑な健康課題のアセスメント、健康課題の解決に向けた施策化、政策提言の方法、及び様々な関係機関、関係者と連携・協働し、地域の健康レベルを向上させる方法について思考を深める。</p>	
到達目標	<p>1. 地域特性と地域の健康課題をアセスメントし、当該地域に適した方法で健康レベルの向上を図るための介入計画及び評価計画を提案できる。</p> <p>2. 地域住民、関係者、関係機関・団体等と協働する方法を説明できる。</p>	
成績評価方法・基準	<p>討論・演習内容 50%、レポート 50%</p>	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>事前に提示される資料を予習してきてください。1コマにつき1時間程度の学習を要します。</p>	
教科書・参考書	<p>指定しない。</p>	
オフィス・アワー	<p>平日9:00～18:00および講義終了後 e-mail : yajima@paz.ac.jp</p>	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 政策教育リーダー育成演習A

授業コード： M6088

英文科目名称： Practice in Policy Education Leadership …

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
矢島 正栄			

授業形態	演習		担当者
授業計画	第1-3回	研究課題の探索 研究課題に関連した文献の抄読と課題の整理	矢島正栄
	第4-6回	研究課題の絞り込み	矢島正栄
	第7-9回	概念枠組み、研究デザインの検討	矢島正栄
	第10-13回	研究計画書の作成	矢島正栄
	第14-15回	研究倫理審査申請準備	矢島正栄
科目の目的	公衆衛生看護学に関する研究の動向と最新の知見を理解し、自らの研究課題を明確にして研究計画を立案する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自らの研究課題に関連する公衆衛生看護学研究の動向と最新の知見に対する解釈を述べられる。</li> <li>2. 自らの研究課題（何をどこまで明らかにしようとするか）を明確に述べられる。</li> <li>3. 自らの研究課題に適した研究デザインを選択できる。</li> <li>4. 研究手法を複数の代案の比較、検討に基づいて選択し、研究計画を立案できる。</li> </ol>		
成績評価方法・基準	演習内容 50%、レポート 50%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業は学生が準備した資料に基づくディスカッション形式で進めます。必ず資料を準備して参加してください。必要な準備学習時間は1コマにつき4時間程度です。		
教科書・参考書	指定しない。		
オフィス・アワー	平日9:00～18:00および講義終了後 e-mail : yajima@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意			

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗			

授業形態	講義および演習	担当者
授業計画	第1回 身体活動疫学に関連する健康課題1	木村 朗
	第2回 身体活動疫学に関連する健康課題2	木村 朗
	第3回 疫学的課題を特定・分析する手法1	木村 朗
	第4回 疫学的課題を特定・分析する手法2	木村 朗
	第5回 疫学的課題を特定・分析する手法3	木村 朗
	第6回 障害者や、学童・青年から高齢者の集団、労働者集団での健康関連データ1	木村 朗
	第7回 障害者や、学童・青年から高齢者の集団、労働者集団での健康関連データ2	木村 朗
	第8回 障害者や、学童・青年から高齢者の集団、労働者集団での健康関連データ3	木村 朗
	第9回 疫学・生物統計手法を用いて分析するプロセス1	木村 朗
	第10回 疫学・生物統計手法を用いて分析するプロセス2	木村 朗
	第11回 疫学・生物統計手法を用いて分析するプロセス3	木村 朗
	第12回 リハビリテーション技術に関する当事者や政策決定者に身体活動疫学課題を伝える方法	木村 朗
	第13回 行動経済学的手法に関する当事者や政策決定者に身体活動疫学課題を伝える方法	木村 朗
	第14回 情報アクセサビリティに関する当事者や政策決定者に身体活動疫学課題を伝える方法	木村 朗
	第15回 ヘルスコミュニケーションに関する当事者や政策決定者に身体活動疫学課題を伝える方法	木村 朗
科目の目的	身体活動疫学に関連する健康課題を抱える集団を対象例とし、疫学的課題を特定・分析する手法について学ぶ。障害者や、学童・青年から高齢者の集団、労働者集団での健康関連データを疫学・生物統計手法を用いて分析するプロセスを通して、理解を深める。分析結果をわかりやすく当事者や政策決定者に伝え、健康指標の改善や行動変容を生じさせるためのリハビリテーション技術・行動経済学的手法や情報アクセサビリティ、ヘルスコミュニケーション・アクションリサーチの技術・手法について理解すること。	
到達目標	身体活動疫学に関連する健康課題を抱える集団を対象例とし、疫学的課題を特定・分析する手法について学ぶ。学習者は障害者や、学童・青年から高齢者の集団、労働者集団での健康関連データを疫学・生物統計手法を用いて分析するプロセスを通して、理解を深める。分析結果をわかりやすく当事者や政策決定者に伝え、健康指標の改善や行動変容を生じさせるためのリハビリテーション技術・行動経済学的手法や情報アクセサビリティ、ヘルスコミュニケーション・アクションリサーチの技術・手法について説明できるようになること。	
成績評価方法・基準	身体活動疫学を主とする公衆衛生学における研究課題発見能力についてレポート（100%）を用いて評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義1時間に対し、予習1時間、復習1時間を目安とする。	
教科書・参考書	教科書：政策リサーチ入門 増補版：仮説検証による問題解決の技法（東京大学出版会） 教科書：アクションリサーチ・イン・アクション：共同当事者・時間・データ（新曜社） 参考書：授業に先立って資料を提示する。	
オフィス・アワー	講義日の講義終了15分（a-kimura@paz.ac.jp）	
履修条件・履修上の注意		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	目黒 力		

授業形態	講義および演習	担当者
授業計画	第1回 都市・生活環境及び移動アクセサビリティ向上のための環境制御 1	目黒 力
	第2回 都市・生活環境及び移動アクセサビリティ向上のための環境制御 2	目黒 力
	第3回 都市・生活環境及び移動アクセサビリティ向上のための環境制御 3	目黒 力
	第4回 都市・生活環境及び移動アクセサビリティ向上のための環境制御 4	目黒 力
	第5回 都市・生活環境及び移動アクセサビリティ向上のための環境制御 5	目黒 力
	第6回 郊外地域・都市・生活環境及び情報アクセサビリティ向上による健康リスク軽減計画立案実施過程の理解 1 フィールド研究プロジェクト実施計画書 概要を読み、現場（可能な場合）での照会を通じた学習	木村 朗
	第7回 郊外地域・都市・生活環境及び情報アクセサビリティ向上による健康リスク軽減計画立案実施過程の理解 2 フィールド研究プロジェクト実施計画書 データ定義書を読み、現場（可能な場合）での照会を通じた学習	木村 朗
	第8回 郊外地域・都市・生活環境及び情報アクセサビリティ向上による健康リスク軽減計画立案実施過程の理解 3 フィールド研究プロジェクト実施計画書 測定・調査項目を読み、現場（可能な場合）での照会を通じた学習	木村 朗
	第9回 郊外地域・都市・生活環境及び情報アクセサビリティ向上による健康リスク軽減計画立案実施過程の理解 4 フィールド研究プロジェクト実施計画書 介入項目を読み、現場（可能な場合）での照会を通じた学習	木村 朗
	第10回 郊外地域・都市・生活環境及び情報アクセサビリティ向上による健康リスク軽減計画立案実施過程の理解 5 フィールド研究プロジェクト実施計画書 実施後報告について、現場（可能な場合）での照会を通じた学習	木村 朗
	第11回 ヘルスコミュニケーションの実践立案、それらと組み合わせた行動経済学等を用いた課題解決のためのモデル 1	木村 朗
	第12回 ヘルスコミュニケーションの実践立案、それらと組み合わせた行動経済学等を用いた課題解決のためのモデル 2	木村 朗
	第13回 ヘルスコミュニケーションの実践立案、それらと組み合わせた行動経済学等を用いた課題解決のためのモデル 3	木村 朗
	第14回 ヘルスコミュニケーションの実践立案、それらと組み合わせた行動経済学等を用いた課題解決のためのモデル 4	木村 朗
	第15回 ヘルスコミュニケーションの実践立案、それらと組み合わせた行動経済学等を用いた課題解決のためのモデル 5	木村 朗
科目の目的	実際に健康課題を抱える集団事例に基づいて、有効性の向上を目指した対策の立案を対話的に試みる。都市・生活環境及び情報アクセサビリティ向上のための環境制御、ヘルスコミュニケーションの実践立案、それらと組み合わせた行動経済学等を用いた健康リスク軽減のための課題解決につながるモデル案を作成し、実践的なシミュレーション、フィールド研究のパイロット実験等を通して課題解決策、政策提言の作成に至る一連のプロセスについて理解すること。	
到達目標	学習者が実際に健康課題を抱える集団事例に基づいて、有効性の向上を目指した対策の立案を対話的に試みる。都市・生活環境及び情報アクセサビリティ向上のための環境制御、ヘルスコミュニケーションの実践立案、それらと組み合わせた行動経済学等を用いた健康リスク軽減のための課題解決につながるモデル案を作成し、実践的なシミュレーション、フィールド研究のパイロット実験等を通して課題解決策、政策提言の作成に至る一連のプロセスについて説明できるようになること。	
成績評価方法・基準	身体活動疫学を主とする公衆衛生学における研究課題に対する医療福祉職の立場及び公衆衛生専門家の立場からの対策提示能力についてレポート（100%）を用いて評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義1時間に対し、予習1時間、復習1時間を目安とする。演習については復習2時間を目安とする。	

教科書・参考書	資料を提示する。
オフィス・アワー	講義日の授業終了後15分。(a-kimura@paz.ac.jp)
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称： 政策教育リーダー育成特論C

授業コード： M6091

英文科目名称： Advanced Course on Policy Education Leadership … 対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義と演習	担当者
授業計画	第1回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法 医療情報科学 第2回 健康医療福祉政策学 第3回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法 医療安全管理学 第4回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法 リスクマネジメント学 第5-10回 行政、検診機関、保健医療介護福祉施設における具体的な制度設計、政策立案 保健医療政策におけるモデル化 第11-14回 保健医療福祉における計画立案と調整 保健医療政策における計画立案演習 第15回 総論	
科目の目的	医療情報科学、健康医療福祉政策学、医療安全管理学、リスクマネジメント学などを基盤として、保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法を学ぶ。行政、検診機関、保健医療介護福祉施設における具体的な制度設計、政策立案をモデル化し、必要な行政的知識、組織運営、環境整備などの実践的技術を駆使し、計画立案と調整について学ぶ。	
到達目標	保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法について理解する。 保健医療福祉における制度設計、政策立案をモデル化し、必要な計画立案と調整スキルを習得する。	
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと学習状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前120分、事後120分	
教科書・参考書	とくに指定しない	
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。面談を希望する場合は、予め担当教員にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。	
履修条件・履修上の注意		



講義科目名称： 政策教育リーダー育成演習C

授業コード： M6092

英文科目名称： Practice in Policy Education Leadership …

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
星野 修平			

授業形態	講義と演習	担当者
授業計画	第1-5回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法の先行研究 医療情報科学 第2回 健康医療福祉政策学 第3回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法 医療安全管理学 第4回 保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法 リスクマネジメント学 第5-10回 行政、検診機関、保健医療介護福祉施設における具体的な制度設計、政策立案とモデル化の実践 保健医療政策におけるモデル化 第11-14回 保健医療福祉における計画立案と調整と実践 保健医療政策における計画立案演習 第15回 総論	
科目の目的	政策教育リーダー育成特論C（医療情報科学、健康医療福祉政策学、医療安全管理学、リスクマネジメント学など）で獲得した知識、技術をもとに、仮想的に政策提言案を策定し、その作成過程における制度設計、人的運用、組織化を通して課題を抽出する。また得られた課題を分析し、問題解決能力と保健医療福祉政策における意思決定プロセスを学ぶ。	
到達目標	保健医療福祉における政策及び教育リーダーに必要なマネジメント、政策立案、実践方法について理解し政策提言案を策定できる。	
成績評価方法・基準	講義・演習への取り組みと学習状況（50%）、レポート提出課題（50%）の総合点による評価	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	事前120分、事後120分	
教科書・参考書	特に指定しない	
オフィス・アワー	授業開始前、授業後を基本とするが、E-mailでの相談を受け付ける。面談を希望する場合は、予め担当教員にE-mailにて、予約を行うことが望ましい。	
履修条件・履修上の注意		

講義科目名称： 公衆衛生学特別研究

授業コード： M6093

英文科目名称： Public Health Thesis Guidance

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	10単位	選択
担当教員	担当者		
木村 博一・矢島 正栄・木村 朗・星野 修平	木村 博一	木村 朗	矢島 正栄
	星野 修平		

授業形態	講義・討論、演習ならびに実験		担当者
授業計画	1年次	4月～9月 指導教員と研究計画書作成 設定したテーマについて研究計画書を作成する。	木村博 矢島 木村朗 星野
	1年次	10月～3月 大学研究倫理審査委員会審査、研究活動の展開指導と進捗状況確認 設定したテーマについて大学の研究倫理審査委員会での承認を得る。 研究計画に沿って自主的に実験・研究を遂行する。	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次	6月 研究中間発表会 研究中間報告会を実施しながらディスカッションを行い、データ解析の仕方や考え方を学ぶ。	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次	～10月 各指導教員による学位論文の草稿に関する指導 図表作成の仕方、論文の書き方などを学び、修士論文の完成に向け、関連文献の検索を行うとともに、研究目的、方法、結果ならびに考察のまとめを行う。	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次	～11月 学位論文及び学位論文審査申請書類の指導	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次	1月 予備審査 主・副審査委員による予備審査	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次	2月 公開審査及び最終試験 公開審査による公開審査および最終試験	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次	2月 研究科委員会にて学位論文・最終試験の可否審査ならびに学位授与判定	木村博 矢島 木村朗 星野
	2年次	3月 全課程修了	木村博 矢島 木村朗 星野
科目の目的	本領域の特論ならびに演習で習得した知識ならびに技術を基盤とした学位[修士（公衆衛生学）]取得のための研究を行う。		
到達目標	【木村博一・矢島正栄・木村朗・星野修平】 1. 研究テーマを設定し、研究の意義・目的を理解することができる。 2. 研究目的を実現するために、自立して研究方法を組み立て、実施することができる。 3. 研究中間発表会や各種学会などでプレゼンテーションをすることができる。 4. 研究成果を学術論文としてまとめることができる。		
成績評価方法・基準	研究中間発表会での発表内容（30%）及び研究論文内容（70%）で総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各指導教員の指示に従う。		
教科書・参考書	各指導教員の指示に従う。		
オフィス・アワー	各教員が随時受け付ける。		
履修条件・履修上の注意			

講義科目名称： 生命研究倫理論

授業コード： D1001

英文科目名称： Bioethics

対象カリキュラム： 2022年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員	担当者		
峯村 優一			

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション 総論 イントロダクション 生命研究倫理総論	峯村優一
	第2回 自身の研究について 博士課程において実施する研究についての発表等	峯村優一
	第3回 医学研究の倫理 I 人を対象とした医学研究の倫理（生命研究倫理の歴史）	峯村優一
	第4回 医学研究の倫理 II 人を対象とした医学研究の倫理	峯村優一
	第5回 インフォームド・コンセント I 研究におけるインフォームド・コンセント	峯村優一
	第6回 インフォームド・コンセント II 研究におけるインフォームド・コンセント	峯村優一
	第7回 安楽死・終末期医療 I 安楽死をめぐる生命倫理	峯村優一
	第8回 安楽死・終末期医療 II 安楽死をめぐる生命倫理	峯村優一
	第9回 脳死・終末期医療 I 脳死をめぐる生命倫理	峯村優一
	第10回 脳死・終末期医療 II 脳死をめぐる生命倫理	峯村優一
	第11回 医学研究の倫理、インフォームド・コンセント、終末期医療のまとめ 医学研究の倫理、インフォームド・コンセント、終末期医療	峯村優一
	第12回 研究倫理の一般的課題（1） 利益相反	峯村優一
	利益相反	
	第13回 研究倫理の一般的課題（2） 研究不正	峯村優一
	第14回 研究倫理の一般的課題（3） 公的研究費の扱い	峯村優一
第15回 医学研究の倫理、インフォームド・コンセント、終末期医療、研究倫理の一般的課題のまとめと確認 医学研究の倫理、インフォームド・コンセント、終末期医療、研究倫理の一般的課題	峯村優一	
科目の目的	医学研究にかかわる倫理的問題について常に意識し、考え方を整理して、問題点を列挙し、議論できる能力を身につける。	
到達目標	1. 医療医学における研究と実践の基礎となる生命倫理・研究倫理上の問題に適切に対応できる。 2. 責任ある研究行為を実施できる。 3. 倫理的な知識また意思決定能力を向上する。	
成績評価方法・基準	毎回の講義への積極的な参加、態度により評価する。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について 時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書：鎌田依里・峯村優一 2023 『難病療養者のこころー心理臨床と生命倫理の視点からー』 創元社  参考書：神里彩子・武藤香織編 2015 『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』 東京大学出版会 必要に応じて英語文献、資料を配布する。	
オフィス・アワー	個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。	
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。	

講義科目名称： 医療科学研究法 I

授業コード： D1002

英文科目名称： Methodology of Medical Science Reserch I

対象カリキュラム： 29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
藤田 清貴	亀子 光明	木村 博一	木村 鮎子
	高橋 克典	松下 誠	大熊 博

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション・タンパク質解析研究法 タンパク質の最新分析・解析研究法	藤田 清貴
	第2回 異常免疫グロブリン解析研究法 異常免疫グロブリンの構造解析研究法	藤田 清貴
	第3回 低分子タンパク質研究法 低タンパク質の分子機能解析研究法(1)	亀子 光明
	第4回 低分子タンパク質研究法 低タンパク質の分子機能解析研究法(2)	亀子 光明
	第5回 培養細胞によるサイトカイン研究法 培養細胞を用いたサイトカイン解析研究法(1)	高橋 克典
	第6回 培養細胞によるサイトカイン研究法 培養細胞を用いたサイトカイン解析研究法(2)	高橋 克典
	第7回 疾患関連タンパク質の機能解析研究法 疾患関連タンパク質の検出・同定と機能解析研究法	木村 鮎子
	第8回 疾患特異的タンパク質リン酸化研究法 疾患特異的タンパク質のリン酸化解析研究法	木村 鮎子
	第9回 アイソザイム解析研究法 (1)	松下 誠
	第10回 アイソザイム解析研究法 (2)	松下 誠
	第11回 アイソザイム解析研究法 (3)	松下 誠
	第12回 ノロウイルスの遺伝子型別流行予測研究法 遺伝子型別流行予測プログラム解析研究法	木村 博一
	第13回 ヒトRS ウイルスの進化解析研究法	木村 博一
	第14回 薬剤耐性菌の分子疫学的解析研究法	大熊 博
	第15回 腸内細菌の遺伝子・酵素学的解析研究法	大熊 博
科目の目的	生体分子・病原体遺伝子領域で研究を遂行するのに必要な知識，技術，科学的根拠に基づく分析能力を兼ね備え、他領域との研究連携を視野に、自らの研究分野以外の幅広い知識と課題に適した研究法を選択できる能力を修得することを目的とする。	
到達目標	生体分子・病原体遺伝子解析領域における医療科学研究法の特徴及び科学的根拠に基づいた実践の概要を理解し課題に適した研究法を選択できる。	
成績評価方法・基準	レポート(50%)及び討論内容・理解度(50%)から総合的に評価する。レポートは返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1~2 時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書：特になし。 参考書：特になし。 必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の講義終了後に対応する。	
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
長田 誠	早川 有子	岡山 香里	荒木 泰行
	林 由里子		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨN 血管内皮細胞機能解析研究法 INTROクシヨN、血管内皮細胞機能解析研究法</p> <p>第2回 細胞機能解析研究法 細胞機能分析・解析研究法</p> <p>第3回 リンパ球サブセット解析 研究法 (1) 各種リンパ球サブセット解析研究法</p> <p>第4回 リンパ球サブセット解析 研究法 (2) CD4/CD8 比、Th1/Th2 比、制御性T細胞比率等解析研究法</p> <p>第5回 ヒトパピローマウイルス解析 研究法 (1) ヒトパピローマウイルスゲノム解析研究法 (1)</p> <p>第6回 ヒトパピローマウイルス解析 研究法 (2) ヒトパピローマウイルスゲノム解析研究法 (2)</p> <p>第7回 血小板機能解析研究法 (1) 血小板活性化受容体の機能解析研究法</p> <p>第8回 血小板機能解析研究法 (2) 血小板から放出される生理活性化物質の解析研究法</p> <p>第9回 肺血栓塞栓症解析研究法 (1) 血栓止血に関する解析研究法</p> <p>第10回 肺血栓塞栓症解析研究法 (2) 肺塞栓血栓症のメカニズムに関する解析研究法</p> <p>第11回 体外培養及び母乳中ウイ ルス抗体解析研究法 精子幹細胞の体外培養解析研究法及び母乳中の各種ウイルス抗体解析研究法</p> <p>第12回 染色体異数性解析及び母乳中ウイルス抗体解析研究法 染色体異数性解析研究法及び母乳中の各種ウイルス抗体解析研究法</p> <p>第13回 顕微授精の凍結研究法及び母乳中ウイルス抗体解析研究法 (1) 顕微授精における受精卵 (胚) ・未受精卵の凍結研究法及び母乳中の各種ウイルス抗体解析研究法 (1)</p> <p>第14回 顕微授精の凍結研究法及び母乳中ウイルス抗体解析研究法 (2) 顕微授精における受精卵 (胚) ・未受精卵の凍結研究法及び母乳中の各種ウイルス抗体解析研究法 (2)</p> <p>第15回 精子凍結研究法及び母乳中各種ウイルス抗体解析研究法 アガロースカプセルを用いた精子凍結研究法及び母乳中の各種ウイルス抗体解析研究法</p>	<p>長田 誠</p> <p>林由里子</p> <p>林由里子</p> <p>林由里子</p> <p>岡山香里</p> <p>岡山香里</p> <p>長田 誠</p> <p>長田 誠</p> <p>長田 誠</p> <p>長田 誠</p> <p>早川 有子・荒木泰行</p> <p>早川 有子・荒木泰行</p> <p>早川 有子・荒木泰行</p> <p>早川 有子・荒木泰行</p>
科目の目的	細胞機能や肺血栓塞栓症のメカニズム、及び生殖補助技術領域で研究を遂行するのに必要な知識、技術、科学的根拠に基づく分析能力を兼ね備え、他領域との研究連携を視野に、自らの研究分野以外の幅広い知識と課題に適した研究法を選択できる能力を修得する。また、ヒトパピローマウイルス感染細胞やリンパ球サブセットの研究・解析法について幅広い概念と方法論を修得することを目的とする。	
到達目標	細胞機能や肺血栓塞栓症のメカニズム、及び生殖補助技術領域や母乳中の各種ウイルス抗体解析研究法における医療科学研究法の特徴及び科学的根拠に基づいた実践の概要を理解し課題に適した研究法を選択できる。また、ヒトパピローマウイルス感染細胞やリンパ球サブセットの研究・解析法について、課題に適した研究法を選択できる。	
成績評価方法・基準	レポート100%により成績を評価する。レポートは100点を基準とし、採点後返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1~2 時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書は特になし。 参考書：必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。 早川：hayakawa@paz.ac.jp, 長田：osada@paz.ac.jp, 岡山香里okayama@paz.ac.jp, 林由里	

	子:hayashi@paz.ac.jp, 荒木泰行:y-araki@paz.ac.jp
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	星野 修平	倉石 政彦	宗宮 真
	花田 三四郎		

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>第1回 循環器・代謝系疾患における生体機能解析に関する研究論文の講読及び発表 討論 (1) 医療科学における研究デザイン分類 観察研究と介入研究 (ランダム化比較試験 クラスターランダム化試験)</p> <p>第2回 神経系疾患における生体機能解析に関する 研究論文の講読及び発表 討論 (2) 神経難病等の臨床診断における古典および最新の研究論文の講読及び発表討論会 (2)</p> <p>第3回 動脈硬化症の生体機能解析に関する研究論文の講読及び発表 討論 (3) 身体活動と動脈硬化症の生体機能解析に関連する観察研究を取り上げる。</p> <p>第4回 動脈硬化症の生体機能解析に関する研究論文の講読及び発表 討論 (4) 身体活動と動脈硬化症の生体機能解析に関連する介入研究を取り上げる。</p> <p>第5回 糖尿病、脳血管障害の生体機能解析・複合要因解 析関連研究論文の講読及 び発表 討論 (1) 糖尿病、脳血管障害の生体機能、動作解析・不安全行動等、複合要因解析に関連する記述疫学研究を取り上げる。</p> <p>第6回 糖尿病、脳血管障害の生体機能解析・複合要因解 析関連研究論文の講読及 び発表 討論 (2) 糖尿病、脳血管障害の生体機能、動作解析・不安全行動等、複合要因解析に関連する観察研究を取り上げる</p> <p>第7回 糖尿病、脳血管障害の生体機能解析・複合要因解 析関連研究論文の講読及 び発表 討論 (3) 糖尿病、脳血管障害の評価・治療に関する生体機能、動作解析・不安全行動等、複合要因解析に関連する介入研究を取り上げる。</p> <p>第8回 糖尿病、脳血管障害の生体機能解析・複合要因解 析関連研究論文の講読及 び発表 討論 (4) 糖尿病、脳血管障害の予防に関する生体機能、動作解析・不安全行動等、複合要因解析に関連する研究のトピックスを取り上げる。</p> <p>第9回 パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論 (1) パーキンソン病の発症メカニズムに関連する古典的研究論文の講読及び発表討論会 (1)</p> <p>第10回 パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論 (2) パーキンソン病の発症メカニズムと治療に関連する古典的研究論文の講読及び発表 討論 (2)</p> <p>第11回 パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論 (3) パーキンソン病の発症メカニズムと治療に関連する最新の研究論文の講読及び発表 討論 (3)</p> <p>第12回 パーキンソン 病発症メカニズム関連する研究論文の講読及び発表討論 (4) パーキンソン病の発症メカニズムと治療に関連する研究論文の講読及び発表討論 (4)</p> <p>第13回 医療情報連携・画像処理解 析・造影解析関連研究論文 の講読及び発表討論 (1) 医療情報システムによる情報連携、画像処理解析及び造影解析による画像工学的評価と数理統計学的評価に関連する研究論文の講読及び発表討論会 (1)</p> <p>第14回 医療情報連携・画像処理解 析・造影解析関連研究論文 の講読及び発表討論 (2) 医療情報システムによる情報連携、画像処理解析及び造影解析による画像工学的評価と数理統計学的評価に関連する研究論文の講読及び発表討論会 (2)</p> <p>第15回 医療情報連携・画像処理解 析・造影解析関連研究論文 の講読及び発表討論 (3) 医療情報システムによる情報連携、画像処理解析及び造影解析による画像工学的評価と数理統計学的評価に関連する研究論文の講読及び発表討論会 (3)</p>	<p>木村 朗</p> <p>宗宮 真</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗・</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>木村 朗</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>星野 修平・倉石 政彦</p> <p>星野 修平・倉石 政彦</p> <p>星野 修平・倉石 政彦</p>
科目の目的	生体機能領域の解決すべき課題を広く探求し、課題解決思考を発展させることを目的とする。	

到達目標	1. 生体機能領域の英文論文を講読し発表討論ができる。 2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。
成績評価方法・基準	関連研究論文の講読理解度（50%）及び発表討論の内容（50%）から総合的に評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	関連研究論文について積極的に情報収集を行うとともに、発表討論の練習を1～2 時間行うこと。
教科書・参考書	必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。（a-kimura@paz.ac.jp）
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主的かつ積極的に文献収集及び講読を行うこと。</li> <li>・ 状況に応じて内容が変更される場合がある。</li> </ul>



講義科目名称： 特講 I (生体分子・病原体遺伝子)

授業コード： D1005

英文科目名称： Advanced Seminar I (Biological Molecules and ...

対象カリキュラム： 29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
藤田 清貴	亀子 光明	木村 博一	木村 鮎子
	高橋 克典	松下 誠	大熊 博

授業形態	講義	担当者
授業計画	第1回 イントロダクション 最新知見及び解析技術論 イントロダクション 生体分子解析学領域における最新知見及び解析研究法	藤田 清貴
	第2回 分子構造解析及び分子機能解析法 異常免疫グロブリンの分子構造解析	藤田 清貴
	第3回 分子構造解析及び分子機能解析法 微量タンパク質の分子構造解析 (1)	亀子 光明
	第4回 分子構造解析及び分子機能解析法 微量タンパク質の分子構造解析 (2)	亀子 光明
	第5回 分子構造解析及び分子機能解析法 微量タンパク質の分子機能解析法 (1)	高橋 克典
	第6回 分子構造解析及び分子機能解析法 微量タンパク質の分子機能解析法 (2)	高橋 克典
	第7回 翻訳後修飾解析法及び機能異常解析法 タンパク質複合体・疾患特異的タンパク質の翻訳後修飾解析法及び機能異常解析法 (1)	木村 鮎子
	第8回 翻訳後修飾解析法及び機能異常解析法 タンパク質複合体・疾患特異的タンパク質の翻訳後修飾解析法及び機能異常解析法 (2)	木村 鮎子
	第9回 電気泳動法を用いたアイソザイム解析法 (1)	松下 誠
	第10回 電気泳動法を用いたアイソザイム解析法 (2)	松下 誠
	第11回 電気泳動法を用いたアイソザイム解析法 (3)	松下 誠
	第12回 遺伝子型別流行予測プログラムの作成法及び分子疫学的解析法 (1)	木村 博一
	第13回 遺伝子型別流行予測プログラムの作成法及び分子疫学的解析法 (2)	木村 博一
	第14回 薬剤耐性細菌の分子疫学的解析法 (1)	大熊 博
	第15回 薬剤耐性細菌の分子疫学的解析法 (2)	大熊 博
科目の目的	生体分子・病原体遺伝子領域における科学的エビデンスを構築するための高度解析技術や最新評価法などを修得することを目的とする。	
到達目標	生体分子・病原体遺伝子領域の高度解析技術及び最新評価法を理解し研究に応用できる。	
成績評価方法・基準	レポート(50%)及び討論内容・理解度(50%)から総合的に評価する。レポートは返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1~2 時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書：特になし。 参考書：特になし。 必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の講義終了後に対応する。	
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
長田 誠	早川 有子	岡山 香里	荒木 泰行
	林 由里子		

授業形態	講義	担当者
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 血小板機能解析法及び肺血栓塞栓症予後判定評価法の応用 (1) INTROクシヨン 血小板機能・生理活性物質解析法及び肺血栓塞栓症予後判定評価法の応用 (1)</p> <p>第2回 最新知見及び解析技術論 細胞機能解析学領域における最新知見及び解析技術論</p> <p>第3回 細胞機能解析法の応用 (1) フローサイトメトリ法による細胞機能解析法の応用 (1)</p> <p>第4回 細胞機能解析法の応用 (2) フローサイトメトリ法による細胞機能解析法の応用 (2)</p> <p>第5回 ヒトパピローマウイルス感染細胞解析 (1) ヒトパピローマウイルスゲノムの検査法 (1)</p> <p>第6回 ヒトパピローマウイルス感染細胞解析 (2) ヒトパピローマウイルスゲノムの検査法 (2)</p> <p>第7回 血小板機能解析法及び肺血栓塞栓症予後判定評価法の応用 (2) 血小板機能・生理活性物質解析法及び肺血栓塞栓症予後判定評価法の応用 (2)</p> <p>第8回 血小板機能解析法及び肺血栓塞栓症予後判定評価法の応用 (3) 血小板機能・生理活性物質解析法及び肺血栓塞栓症予後判定評価法の応用 (3)</p> <p>第9回 血小板機能解析法及び肺血栓塞栓症予後判定評価法の応用 (4) 血小板機能・生理活性物質解析法及び肺血栓塞栓症予後判定評価法の応用 (4)</p> <p>第10回 血小板機能解析法及び肺血 栓塞栓症予後判定評価法の 応用 (5) 血小板機能・生理活性物質解析法及び肺血栓塞栓症予後判定評価法の応用 (5)</p> <p>第11回 顕微授精法・凍結保存法・ウイルス抗体解析法の応用 (1) 最新顕微授精法・受精卵・未受精卵の凍結保存法及び母乳中の抗体解析法の応用 (1)</p> <p>第12回 顕微授精法・凍結保存法・ウイルス抗体解析法の応用 (2) 最新顕微授精法・受精卵・未受精卵の凍結保存法及び母乳中の抗体解析法の応用 (2)</p> <p>第13回 顕微授精法・凍結保存法・ウイルス抗体解析法の応用 (3) 最新顕微授精法・受精卵・未受精卵の凍結保存法及び母乳中の抗体解析法の応用 (3)</p> <p>第14回 顕微授精法・凍結保存法・ウイルス抗体解析法の応用 (4) 最新顕微授精法・受精卵・未受精卵の凍結保存法及び母乳中の抗体解析法の応用 (4)</p> <p>第15回 顕微授精法・凍結保存法・ウイルス抗体解析法の応用 (5) 最新顕微授精法・受精卵・未受精卵の凍結保存法及び母乳中の抗体解析法の応用 (5)</p>	<p>長田 誠</p> <p>林由里子</p> <p>林由里子</p> <p>林由里子</p> <p>岡山香里</p> <p>岡山香里</p> <p>長田 誠</p> <p>長田 誠</p> <p>長田 誠</p> <p>長田 誠</p> <p>早川 有子・荒木 泰行</p> <p>早川 有子・荒木 泰行</p> <p>早川 有子・荒木 泰行</p> <p>早川 有子・荒木 泰行</p> <p>早川 有子・荒木 泰行</p>
科目の目的	リンパ球及び好中球、血小板の細胞機能解析学やヒトパピローマウイルス感染細胞解析や組織幹細胞の増幅法などの技術・方法を理解し、細胞機能・生殖補助技術領域における科学的エビデンスを構築するための高度解析技術や最新評価法などを修得することを目的とする。	
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リンパ球及び好中球、血小板の細胞機能解析学について説明できる。</li> <li>・ヒトパピローマウイルス感染細胞解析について説明できる。</li> <li>・細胞機能・生殖補助技術領域の高度解析技術及び最新評価法を理解し研究に応用できる。</li> </ul>	
成績評価方法・基準	レポート100%で評価する。レポートは返却しない。	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1~2 時間予習・復習を行い理解しておくこと。	
教科書・参考書	教科書 特になし。 参考書 必要に応じて資料を配布する。	
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。 長田：osada@paz.ac.jp, 早川：hayakawa@paz.ac.jp, 岡山：okayama@paz.ac.jp, , 林由里子：	

	hayashi.paz.ac.jp, 荒木泰行 : y-araki@paz.ac.jp
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に関連文献を講読すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	星野 修平	倉石 政彦	宗宮 真
	花田 三四郎		

授業形態	演習	担当者	
授業計画	第1回	心機能・末梢循環・代謝系生体機能解析における臨床身体活動量の複合要因影響 臨床身体活動定量化及び情報化と循環・代謝系の観察的研究の購読と討論	木村 朗
	第2回	神経系生体機能解析における臨床研究の購読及び発表 討論 神経系疾患に関連する研究論文の購読及び発表討論	宗宮 真
	第3回	血管機能の生体機能解析・画像解析 古典的研究論文の購読及び発表 討論 脈波伝播速度および足背動脈・橈骨動脈圧比等からみた生体機能解析に関連する古典的研究を取り上げる。	木村 朗
	第4回	血管機能の生体機能解析・画像解析 最新の研究論文の購読及び発表 討論 脈波伝播速度および足背動脈・橈骨動脈圧比等からみた生体機能解析に関連する最新研究を取り上げる。	木村 朗
	第5回	糖尿病、脳血管障害の生体機能解析・複合要因解析による評価を主とする記述疫学 研究の購読及び発表討論 糖尿病、脳血管障害の生体機能、動作解析・複合要因解析に関連する記述疫学研究 論文の購読及び発表討論	木村 朗
	第6回	糖尿病、脳血管障害の生体機能解析・複合要因解析による評価を主とする分析疫学 研究の購読及び発表討論 糖尿病、脳血管障害の生体機能、動作解析・複合要因解析に関連する分析疫学研究 論文の購読及び発表討論会 (2)	木村 朗・
	第7回	糖尿病、脳血管障害の生体機能解析・複合要因解析による評価を主とする古典的介 入研究の購読及び発表討論 糖尿病、脳血管障害の生体機能、動作解析・複合要因解析に関連する古典的介入研 究論文の購読及び発表討論	木村 朗
	第8回	糖尿病、脳血管障害の生体機能解析・複合要因解析による評価を主とする最新介入 研究の購読及び発表討論 糖尿病、脳血管障害の生体機能、動作解析・複合要因解析に関連する最新研究論文 の購読及び発表討論	木村 朗
	第9回	パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の購読及び発表討論会 (1) パーキンソン 病の発症メカニズムと評価に関連する古典的研究論文の購読及び発表 討論 (1)	宗宮 真
	第10回	パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の購読及び発表討論 (2) パーキンソン 病の発症メカニズムと評価に関連する最新研究論文の購読及び発表討 論 (2)	宗宮 真
	第11回	パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の購読及び発表討論 (3) パーキンソン 病の発症メカニズムと治療に関連する古典的研究論文の購読及び発表 討論 (3)	宗宮 真
	第12回	パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の購読及び発表討論会 (4) パーキンソン 病の発症メカニズムと治療に関連する最新研究論文の購読及び発表討 論 (4)	宗宮 真
	第13回	医療情報連携・画像処理解析・造影解析関連研究論文 の購読及び発表討論 (1) 医療情報システムによる情報連携、画像処理解析及び造影解析による画像工学的評 価と数理統計学的評価に関連する研究論文の購読及び発表討論会 (1)	星野 修平
	第14回	医療情報連携・画像処理解析・造影解析関連研究論文 の購読及び発表討論 (2) 医療情報システムによる情報連携、画像処理解析及び造影解析による画像工学的評 価と数理統計学的評価に関連する研究論文の購読及び発表討論会 (2)	星野 修平
	第15回	医療情報連携・画像処理解析・造影解析関連研究論文 の購読及び発表討論 (3) 医療情報システムによる情報連携、画像処理解析及び造影解析による画像工学的評 価と数理統計学的評価に関連する研究論文の購読及び発表討論会 (3)	倉石 政彦
科目の目的	生体機能領域の解決すべき課題を広く探求し、課題解決思考を発展させることを目的とする。		

到達目標	1. 生体機能領域の英文論文を講読し発表討論ができる。 2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。
成績評価方法・基準	関連研究論文の講読理解度（50%）及び発表討論の内容（50%）から総合的に評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	関連研究論文について積極的に情報収集を行うとともに、発表討論の練習を1～2 時間行うこと。
教科書・参考書	必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。（a-kimura@paz.ac.jp）
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自主的かつ積極的に文献収集及び講読を行うこと。</li> <li>・ 状況に応じて内容が変更される場合がある。</li> </ul>

講義科目名称： 演習 I (生体分子・病原体遺伝子)

授業コード： D1008

英文科目名称： Advanced Practice I (Biological Molecules and ...

対象カリキュラム： 29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
藤田 清貴	亀子 光明	木村 博一	木村 鮎子
	高橋 克典	松下 誠	大熊 博

授業形態	演習		担当者
授業計画	第1回	イントロダクション 異常免疫グロブリン関連研究論文の講読及び発表討論会 (1) 異常免疫グロブリン・微量タンパク質の解析技術に関連する研究論文の講読及び発表討論会 (2)	藤田 清貴
	第2回	異常免疫グロブリン関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	藤田 清貴
	第3回	微量タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	亀子 光明
	第4回	微量タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	亀子 光明
	第5回	微量タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (3)	高橋 克典
	第6回	微量タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (4)	高橋 克典
	第7回	タンパク質複合体・疾患特異的タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	木村 鮎子
	第8回	タンパク質複合体・疾患特異的タンパク質関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	木村 鮎子
	第9回	アイソザイム関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	松下 誠
	第10回	アイソザイム関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	松下 誠
	第11回	アイソザイム関連研究論文の講読及び発表討論会 (3)	松下 誠
	第12回	病原体ゲノム関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	木村 博一
	第13回	病原体ゲノム関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	木村 博一
	第14回	耐性因子解析技術関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	大熊 博
	第15回	耐性因子解析技術関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	大熊 博
科目の目的	生体分子・病原体遺伝子領域の解決すべき研究課題を広く探求し、課題解決思考を発展させることを目的とする。		
到達目標	1. 生体分子・病原体遺伝子領域の英文論文を講読し発表討論ができる。 2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。		
成績評価方法・基準	関連研究論文の講読理解度 (50%) 及び発表討論の内容 (50%) から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	関連研究論文について積極的に情報収集を行うとともに、発表討論の練習を1~2 時間行うこと。		
教科書・参考書	教科書：特になし。 参考書：特になし。 必要に応じて資料を配布する。		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は各担当教員の演習終了後に対応する。		
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に文献収集及び講読を行うこと。		

講義科目名称： 演習Ⅱ(細胞機能・生殖補助技術)

授業コード： D1009

英文科目名称： Advanced Practice II (Cellular Function and ...

対象カリキュラム： 29年度カリキュラム

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
長田 誠	早川 有子	岡山 香里	荒木 泰行
	林 由里子		

授業形態	演習	担当者	
授業計画	第1回	イントロダクション 血小板機能・アポトーシス 解析法・肺血栓塞栓症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	長田 誠
	第2回	好中球、組織幹細胞の増殖法・リンパ球サブセット関連研究論文の講読および発表討論会 (1)	林由里子
	第3回	好中球、組織幹細胞の増殖法・リンパ球サブセット関連研究論文の講読および発表討論会 (2)	林由里子
	第4回	好中球、組織幹細胞の増殖法・リンパ球サブセット関連研究論文の講読および発表討論会 (3)	林由里子
	第5回	ヒトパピローマウイルス解析関連研究論文の講読及び発表討論会 (1)	岡山香里
	第6回	ヒトパピローマウイルス解析関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	岡山香里
	第7回	血小板機能・アポトーシス 解析法・肺血栓塞栓症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	長田 誠
	第8回	血小板機能・アポトーシス 解析法・肺血栓塞栓症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論会 (3)	長田 誠
	第9回	血小板機能・アポトーシス解析法・肺血栓塞栓症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論会 (4)	長田 誠
	第10回	血小板機能・アポトーシス解析法・肺血栓塞栓症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論会 (5)	長田 誠
	第11回	体外培養・顕微授精・母乳中の各種ウイルス抗体関連研究論文の講読及び 発表討論会 (1)	早川 有子・荒木泰行
	第12回	体外培養・顕微授精・母乳中の各種ウイルス抗体関連研究論文の講読及び発表討論会 (2)	早川 有子・荒木泰行
	第13回	体外培養・顕微授精・母乳中の各種ウイルス抗体関連研究論文の講読及び発表討論会 (3)	早川 有子・荒木泰行
	第14回	体外培養・顕微授精・母乳中の各種ウイルス抗体関連研究論文の講読及び発表討論会 (4)	早川 有子・荒木泰行
	第15回	体外培養・顕微授精・母乳中の各種ウイルス抗体関連研究論文の講読及び発表討論会 (5)	早川 有子・荒木泰行
科目の目的	細胞機能・生殖補助技術領域の解決すべき研究課題を広く探求し、課題解決思考を発展させることを目的とする。		
到達目標	1. 細胞機能・生殖補助技術領域の英文論文を講読し発表討論ができる。 2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。		
成績評価方法・基準	関連研究論文の講読理解度50%、発表討論の内容50%にて評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	関連研究論文について積極的に情報収集を行うとともに、発表討論の練習を1～2 時間行うこと。		
教科書・参考書	教科書 特になし。 参考書 必要に応じて資料を配付する。		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。 早川：hayakawa@paz.ac.jp, 長田：osada@paz.ac.jp, 岡山：okayama@paz.ac.jp, 林由里子：hayashi@paz.ac.jp, 荒木泰行：y-araki@paz.ac.jp		
履修条件・履修上の注意	自主的かつ積極的に文献収集及び講読を行うこと。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員	担当者		
木村 朗	星野 修平	倉石 政彦	宗宮 真
	花田 三四郎		

授業形態	演習	担当者
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン 心疾患、脈管障害・生体機能析関連 研究論文の講読及び発表 討論会 (1) INTROクシヨン 心疾患、心筋障害の体内動態解析・画像解析に関連する研究論文の講読及び発表 討論会 (1)</p> <p>第2回 心疾患、脈管障害・生体機能析関連 研究論文の講読及び発表 討論会 (2) 心疾患、心筋障害の体内動態解析・画像解析に関連する研究論文の講読及び発表 討論会 (2)</p> <p>第3回 心疾患、脈管障害・生体機能析関連 研究論文の講読及び発表 討論会 (3) 疾患、脈管障害・生体機能析・治療介入効果に関連する研究論文の講読及び発表 討論会 (3)</p> <p>第4回 心疾患、脈管障害・画像解析関連 研究論文の講読及び発表 討論会 (4) 疾患、脈管障害・生体機能析・治療介入効果に関連する研究論文の講読及び発表 討論会 (4)</p> <p>第5回 糖尿病、脳血管障害の生体機能解析・複合要因解 析関連研究論文の講読及 び発表 討論会 (1) 糖尿病、脳血管障害の生体機能、動作解析・複合要因解析に関連する研究論文の講 読及び発表討論 (1)</p> <p>第6回 糖尿病、脳血管障害の生体機能解析・複合要因解 析関連研究論文の講読及 び発表 討論会 (2) 糖尿病、脳血管障害の生体機能、動作解析・複合要因解析に関連する研究論文の講 読及び発表討論会 (2)</p> <p>第7回 糖尿病、脳血管障害の身体活動解析・複合要因解 析関連研究論文の講読及 び発表 討論会 (3) 糖尿病、脳血管障害の身体活動解析・複合要因・治療効果に関する研究論文の講読 及び発表討論 (3)</p> <p>第8回 糖尿病、脳血管障害の身体活動解析・複合要因解 析関連研究論文の講読及 び発表 討論会 (4) 糖尿病、脳血管障害の身体活動解析・複合要因・治療効果に関する研究論文の講読 及び発表討論 (4)</p> <p>第9回 パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論会 (1) パーキンソン病の発症メカニズムに関連する研究論文の講読及び発表討論会 (1)</p> <p>第10回 パーキンソン病発症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論会 (2) パーキンソン病の発症メカニズムに関連する研究論文の講読及び発表討論会 (2)</p> <p>第11回 パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論会 (3) パーキンソン病の発症メカニズムに関連する研究論文の講読及び発表討論会 (3)</p> <p>第12回 パーキンソン 病発症メカニズム関連研究論文の講読及び発表討論会 (4) パーキンソン病の発症メカニズムに関連する研究論文の講読及び発表討論会 (4)</p> <p>第13回 医療情報連携・画像処理解 析・造影解析関連研究論文 の講読及び発表討論会 (1) 医療情報システムによる情報連携、画像処理解析及び造影解析による画像工学的評 価と数理統計学的評価に関連する研究論文の講読及び発表討論会 (1)</p> <p>第14回 医療情報連携・画像処理解 析・造影解析関連研究論文 の講読及び発表討論会 (2) 医療情報システムによる情報連携、画像処理解析及び造影解析による画像工学的評 価と数理統計学的評価に関連する研究論文の講読及び発表討論会 (2)</p> <p>第15回 医療情報連携・画像処理解 析・造影解析関連研究論文 の講読及び発表討論会 (3) 医療情報システムによる情報連携、画像処理解析及び造影解析による画像工学的評 価と数理統計学的評価に関連する研究論文の講読及び発表討論会 (3)</p>	<p>木村 朗・ 宗宮 真</p> <p>木村 朗・ 宗宮 真</p> <p>木村 朗・</p> <p>木村 朗・</p> <p>木村 朗・</p> <p>木村 朗・</p> <p>木村 朗・</p> <p>木村 朗・</p> <p>木村 朗・</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>宗宮 真</p> <p>星野 修 平・倉石 政彦</p> <p>星野 修 平・倉石 政彦</p> <p>星野 修 平・倉石 政彦</p>
科目の目的	生体機能領域の解決すべき課題を広く探求し、課題解決思考を発展させることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生体機能領域の英文論文を講読し発表討論ができる。</li> <li>2. 関連研究論文を読み、討論を通して実践的な研究を進めることができる。</li> </ol>	



成績評価方法・基準	生多機能解析に基づく保健医療における研究課題発見能力および課題解決のための研究立案能力について関連研究論文の講読理解度(50%)及び発表討論の内容(50%)から総合的に評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	関連研究論文について積極的に情報収集を行うとともに、発表討論の練習を1~2時間行うこと。
教科書・参考書	必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。(a-kimura@paz.ac.jp)
履修条件・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主的かつ積極的に文献収集及び講読を行うこと。</li> <li>・状況に応じて内容が変更される場合がある。</li> </ul>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1～3学年	6単位	必修
担当教員	担当者		
藤田・宗宮・長田・松下・亀子・高橋克・岡山・木村鮎・荒木・木村博・木村朗	藤田・宗宮		長田・松下
	岡山・木村鮎		荒木・木村博
授業形態	演習・実験		担当者
授業計画	1年次 4月 研究指導教員の決定 1年次 5～6月 個別指導、審査指導 個別指導により、先行研究の整理、研究課題の焦点化、研究計画書の作成指導・研究倫理 審査委員会（臨床研究・疫学研究倫理審査・遺伝子解析倫理審査）への審査指導 1年次 9月 研究計画書提出、倫理審査書類提出 研究計画書提出・研究倫理審査委員会（臨床研究・疫学研究倫理審査・遺伝子解析倫理審査）への審査申請書類提出 1年次 9月～ 研究活動の展開指導 2年次 4月 研究活動の進捗状況の確認と展開指導 2年次 5月・8月 研究情報交換会 2年次 10月～ 学会発表、学術雑誌への論文等に関する指導 2年次 12月 研究情報交換会 3年次 4月 研究活動の進捗状況の確認と展開指導 3年次 10月 博士論文（英文）の草稿に関する指導 3年次 11月 博士論文（英文）概要の提出指導 3年次 12月 博士論文（英文）概要の結果から、審査員候補の選出 3年次 1月 博士論文（英文）及び学位論文申請書類の提出、論文試問 3年次 2月 公開審査、研究科委員会にて学位論文の可否審査、学位授与の判定 3年次 3月 博士後期課程修了		
科目の目的	各領域の特講科目及び演習科目と密接に関連した高度な専門性を応用して、医療科学における新たな知見を得るための研究を行うことを目的とする。		
到達目標	1. 研究テーマを設定し、研究の意義・目的を理解することができる。 2. 研究目的を実現するために、自立して研究方法を組み立て、実施することができる。 3. 研究情報交換会、各種関連学会などでプレゼンテーションをすることができる。 4. 研究成果を博士論文（英文）としてまとめることができる。		
成績評価方法・基準	研究情報交換会（3回）及び公聴会での発表内容、質疑応答の状況から総合的に評価する。		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	研究テーマについて積極的に情報収集を行うとともに、定期的に研究の進捗状況の報告と討論を1～2時間行うこと。		
教科書・参考書	教科書 特になし。 参考書 必要に応じて資料を配付する。		
オフィス・アワー	随時質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。		
履修条件・履修上の注意	自主的かつ責任を持った実験・研究を進めること。		